



Cisco Unified Communications Manager リリース 12.5(1) 管理ガイド

初版：2019 年 1 月 22 日

最終更新：2019 年 7 月 11 日

シスコシステムズ合同会社
〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
<http://www.cisco.com/jp>
お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）
電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00
<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点での英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS IN THIS MANUAL ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS MANUAL ARE BELIEVED TO BE ACCURATE BUT ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED. USERS MUST TAKE FULL RESPONSIBILITY FOR THEIR APPLICATION OF ANY PRODUCTS.

THE SOFTWARE LICENSE AND LIMITED WARRANTY FOR THE ACCOMPANYING PRODUCT ARE SET FORTH IN THE INFORMATION PACKET THAT SHIPPED WITH THE PRODUCT AND ARE INCORPORATED HEREIN BY THIS REFERENCE. IF YOU ARE UNABLE TO LOCATE THE SOFTWARE LICENSE OR LIMITED WARRANTY, CONTACT YOUR CISCO REPRESENTATIVE FOR A COPY.

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

NOTWITHSTANDING ANY OTHER WARRANTY HEREIN, ALL DOCUMENT FILES AND SOFTWARE OF THESE SUPPLIERS ARE PROVIDED "AS IS" WITH ALL FAULTS. CISCO AND THE ABOVE-NAMED SUPPLIERS DISCLAIM ALL WARRANTIES, EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THOSE OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OR ARISING FROM A COURSE OF DEALING, USAGE, OR TRADE PRACTICE.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

All printed copies and duplicate soft copies of this document are considered uncontrolled. See the current online version for the latest version.

Cisco has more than 200 offices worldwide. Addresses and phone numbers are listed on the Cisco website at www.cisco.com/go/offices.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2020 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

第 I 部 : 管理の概要 13

第 1 章 管理の概要 1

Cisco Unified CM の管理の概要 1
オペレーティング システムの管理の概要 2
認証済み Network Time Protocol のサポート 4
自動キー認証済み Network Time Protocol のサポート 4
Cisco Unified Serviceability の概要 5
Cisco Unified Reporting の概要 6
ディザスタリカバリ システムの概要 7
一括管理ツールの概要 8

第 2 章 使用する前に 9

管理インターフェイスへのログイン 9
管理者パスワードまたはセキュリティパスワードのリセット 9
システムのシャットダウンまたは再起動 11

第 II 部 : ユーザの管理 13

第 3 章 ユーザアクセスの管理 15

ユーザアクセスの概要 15
アクセス コントロール グループの概要 15
ロールの概要 17
ユーザランクの概要 18

ユーザ アクセスの前提条件	19
ユーザ アクセス設定のタスク フロー	19
ユーザランク階層の設定	20
カスタム ロールの作成	21
管理者の高度なロール設定	22
アクセス コントロール グループの作成	22
アクセス コントロール グループへのユーザの割り当て	23
アクセス コントロール グループの重複する特権ポリシーの設定	24
ユーザ権限レポートの表示	25
カスタム ヘルプ デスク ロールの作成タスク フロー	25
カスタム ヘルプ デスク ロールの作成	26
カスタム ヘルプ デスク アクセス コントロール グループの作成	27
アクセス コントロール グループへのヘルプ デスク ロールの割り当て	27
アクセス コントロール グループへのヘルプ デスク メンバーの割り当て	28
アクセス コントロール グループの削除	28
既存の OAuth 更新トークンの取り消し	29
非アクティブなユーザ アカウントの無効化	30
リモート アカウントの設定	30
標準ロールとアクセス コントロール グループ	31

第 4 章

エンド ユーザの管理	45
エンド ユーザの概要	45
エンド ユーザ管理タスク	45
ユーザ テンプレートの設定	46
ユニバーサル回線テンプレートの設定	47
ユニバーサル デバイス テンプレートの設定	48
ユーザ プロファイルの設定	49
機能グループ テンプレートの設定	51
LDAP からのエンド ユーザのインポート	51
エンド ユーザの手動追加	52
エンド ユーザ用の新しい電話機の追加	54

エンド ユーザへの既存の電話機の移動	55
エンド ユーザ PIN の変更	55
エンド ユーザ パスワードの変更	56
Cisco Unity Connection ボイス メールボックスの作成	56

第 5 章

アプリケーション ユーザの管理	59
アプリケーション ユーザの概要	59
アプリケーション ユーザのタスク フロー	60
新規アプリケーション ユーザの追加	60
デバイスとアプリケーション ユーザの関連付け	61
Cisco Unity または Cisco Unity Connection への管理者ユーザの追加	61
アプリケーション ユーザ パスワードの変更	63
アプリケーション ユーザ パスワード クレデンシャル情報の管理	63

第 III 部 :

デバイスの管理

電話の管理	65
電話管理の概要	67
電話ボタン テンプレート	67
電話機管理タスク	68
電話機の手動での追加	69
エンド ユーザの有無にかかわらないテンプレートからの新しい電話機の追加	70
エンド ユーザがあるテンプレートからの新しい電話機の追加	72
コラボレーション モバイル コンバージェンス仮想デバイスの概要	73
コラボレーション モバイル コンバージェンス仮想デバイスの追加	74
CMC RD 機能の相互作用	75
CMC RD 機能の制約事項	80
既存の電話機の移動	81
現在ログイン中のデバイスの検索	81
リモートでログイン中のデバイスの検索	82
電話機のリモート ロック	83

	工場出荷時の初期状態への電話機のリセット	84
	ロックされたデバイスまたはリセットされたデバイスの検索	84
	電話の LSC ステータスの表示およびCAPF レポートの生成	85
第 7 章	デバイス フームウェアの管理	87
	デバイス フームウェアのアップデートの概要	87
	デバイス パックまたは個々のファームウェアのインストール	88
	ファームウェアのインストールの潜在的な問題	89
	システムからの未使用のファームウェアの削除	90
	電話モデルのデフォルト フームウェアの設定	91
	電話機のファームウェア ロードの設定	92
	ロード サーバの使用	92
	非デフォルト フームウェア ロードを使用するデバイスの検索	93
第 8 章	インフラストラクチャ デバイスの管理	95
	インフラストラクチャの管理の概要	95
	インフラストラクチャの管理の前提条件	95
	インフラストラクチャの管理のタスク フロー	96
	インフラストラクチャ デバイスのステータスの表示	96
	インフラストラクチャ デバイス トラッキングの非アクティブ化	97
	非アクティブ化されたインフラストラクチャ デバイス トラッキングのアクティブ化	97
第 IV 部 :	システムの管理	99
第 9 章	システム ステータスのモニタ	101
	クラスタ ノードステータスの表示	101
	ハードウェア ステータスの表示	101
	ネットワーク ステータスの表示	102
	インストールされているソフトウェアの表示	102
	システム ステータスの表示	103
	IP 設定の表示	103

	最終ログインの詳細の表示 104
	ノードの ping 104
	サービス パラメータの表示 105
	ネットワーク DNS の設定 106
<hr/> 第 10 章	使用状況レコードの表示 109
	使用状況レコードの概要 109
	依存関係レコード 109
	ルート プラン レポート 109
	使用状況レポートのタスク 110
	ルート プラン レポートのタスク フロー 111
	ルート プラン レコードの表示 111
	ルート プラン レコードの保存 112
	未割り当ての電話番号の削除 112
	未割り当ての電話番号の更新 113
	依存関係レコードタスク フロー 114
	依存関係レコードの設定 114
	依存関係レコードの表示 115
<hr/> 第 11 章	エンタープライズ パラメータの管理 117
	エンタープライズ パラメータの概要 117
	エンタープライズ パラメータ情報の表示 117
	エンタープライズ パラメータの更新 118
	デバイスへの設定の適用 118
	デフォルト エンタープライズ パラメータの復元 119
<hr/> 第 12 章	サーバの管理 121
	サーバの管理の概要 121
	サーバの削除 121
	クラスタからの Unified Communications Manager ノードの削除 122
	クラスタからの IM およびプレゼンスノードの削除 123

削除したサーバをクラスタに戻す	124
インストール前のクラスタへのノードの追加	124
プレゼンス サーバのステータスの表示	125
ホスト名の設定	126
Kerneldump ユーティリティ	128
Kerneldump ユーティリティの有効化	129
コア ダンプの電子メールアラートの有効化	129
<hr/>	
第 V 部：	セキュリティの管理 131
<hr/>	
第 13 章	SAML シングル サインオンの管理 133
SAML シングル サインオンの概要	133
iOS 上での Cisco Jabber の証明書ベースの SSO 認証のオプトイン制御	133
SAML シングル サインオンの前提条件	134
SAML シングル サインオンの管理	135
SAML シングル サインオンの有効化	135
iOS Cisco Jabber の SSO ログインの動作設定	136
アップグレード後の WebDialer 上での SAML シングル サインオンの有効化	137
Cisco WebDialer サービスの非アクティブ化	138
SAML シングル サインオンの無効化	138
Cisco WebDialer サービスのアクティブ化	138
リカバリ URL へのアクセス	139
ドメインまたはホスト名の変更後のサーバ メタデータの更新	140
サーバ メタデータの手動プロビジョニング	140
<hr/>	
第 14 章	証明書の管理 143
証明書の概要	143
サードパーティの署名付き証明書または証明書チェーン	144
サードパーティ認証局証明書	145
CSR キーの用途拡張	146
証明書の表示	147

証明書のダウンロード	147
中間証明書のインストール	148
信頼証明書の削除	149
証明書の再作成	150
証明書の名前と説明	151
OAuth 更新ログイン用のキーの再生成	152
証明書または証明書チェーンのアップロード	153
サードパーティ製の認証局証明書の管理	153
証明書署名要求の生成	155
証明書署名要求のダウンロード	155
信頼ストアへの認証局署名済み CAPF ルート証明書の追加	155
サービスの再起動	156
オンライン証明書ステータスプロトコル (OCSP) による証明書失効 (CRL)	157
証明書モニタリング タスク フロー	158
証明書モニタ通知の設定	159
OCSP による証明書失効の設定	160
証明書エラーのトラブルシュート	161

第 15 章**一括証明書の管理** 163

一括証明書の管理	163
証明書のエクスポート	164
証明書のインポート	165

第 16 章**IPSec ポリシーの管理** 167

IPsec ポリシーの概要	167
IPsec ポリシーの設定	167
IPsec ポリシーの管理	168

第 17 章**クレデンシャル ポリシーの管理** 171

クレデンシャル ポリシーと認証	171
クレデンシャル ポリシーの JTAPI および TAPI のサポート	172

クレデンシャル ポリシーの設定	172
クレデンシャル ポリシーのデフォルトの設定	173
認証アクティビティのモニタ	173
クレデンシャル キャッシングの設定	174
セッション終了の管理	175

第 VI 部： ディザスタリカバリ 177

第 18 章 システムのバックアップ 179

バックアップの概要	179
バックアップの前提条件	180
バックアップタスクフロー	180
バックアップデバイスの設定	181
バックアップファイルのサイズの予測	182
スケジュールバックアップの設定	183
手動バックアップの開始	185
現在のバックアップステータスの表示	186
バックアップ履歴の表示	186
バックアップの連携動作と制約事項	187
バックアップの制約事項	187
リモートバックアップ用 SFTP サーバ	188

第 19 章 システムの復元 191

復元の概要	191
マスター エージェント	191
ローカル エージェント	191
復元の前提条件	192
復元タスクフロー	192
最初のノードのみの復元	193
後続クラスタノードの復元	195
パブリッシャの再構築後の 1 回のステップでのクラスタの復元	197

クラスタ全体の復元	199
前回正常起動時の設定へのノードまたはクラスタの復元	200
ノードの再起動	201
復元ジョブステータスのチェック	202
復元履歴の表示	202
データ認証	203
トレースファイル	203
コマンドラインインターフェイス	203
アラームおよびメッセージ	205
アラームおよびメッセージ	205
ライセンス予約	209
ライセンス予約	209
復元の連携動作と制約事項	210
復元の制約事項	210
トラブルシューティング	211
より小さい仮想マシンへのDRS復元の失敗	211



第 一 部

管理の概要

- 管理の概要 (1 ページ)
- 使用する前に (9 ページ)



第 1 章

管理の概要

- Cisco Unified CM の管理の概要 (1 ページ)
- オペレーティング システムの管理の概要 (2 ページ)
- Cisco Unified Serviceability の概要 (5 ページ)
- Cisco Unified Reporting の概要 (6 ページ)
- ディザスター リカバリ システムの概要 (7 ページ)
- 一括管理ツールの概要 (8 ページ)

Cisco Unified CM の管理の概要

Cisco Unified CM の管理は、Cisco Unified Communications Manager の主要な管理および設定インターフェイスとなる、Web ベースのアプリケーションです。Cisco Unified CM の管理を使用して、一般的なシステム コンポーネント、機能、サーバ設定、コールルーティング ルール、電話機、エンド ユーザ、メディア リソースなど、システムの幅広い項目を設定できます。

設定メニュー

Cisco Unified CM の管理の設定ウィンドウは、以下のメニューで編成されています。

- [システム (System)] : このメニューに分類されている設定ウィンドウを使用して、一般的なシステム設定（サーバ情報、NTP 設定、日時グループ、リージョン、DHCP、LDAP 統合、エンタープライズ パラメータなど）を構成します。
- [コールルーティング (Call Routing)] : このタブに分類されている設定ウィンドウを使用して、Cisco Unified Communications Manager によるコールのルーティング方法に関する項目（ルート パターン、ルート グループ、ハント パイロット、ダイヤル ルール、パーティション、コール サーチ スペース、電話番号、変換 パターンなど）を設定します。
- [メディア リソース (Media Resources)] : このタブに分類されている設定ウィンドウを使用して、メディア リソース グループ、会議 ブリッジ、アナシエータ、トランスコードなどの項目を設定します。
- [拡張機能 (Advanced Features)] : このタブに分類されている設定ウィンドウを使用して、ボイスメール パイロット、メッセージ 受信、コール制御 エージェント プロファイルなどの機能を設定します。

■ オペレーティング システムの管理の概要

- [デバイス (Device)] : このタブに分類されている設定ウィンドウを使用して、電話機などのデバイス、IP Phone サービス、トランク、ゲートウェイ、ソフトキーテンプレート、SIP プロファイルを設定します。
- [アプリケーション (Application)] : このタブに分類されている設定ウィンドウを使用して、Cisco Unified JTAPI、Cisco Unified TAPI、Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool などのプラグインをダウンロードおよびインストールします。
- [ユーザ管理 (User Management)] : [ユーザ管理 (User Management)] タブに分類されている設定ウィンドウを使用して、システムのエンドユーザおよびアプリケーションユーザを設定します。
- [一括管理 (Bulk Administration)] : 一括管理ツールを使用して、多数のエンドユーザやデバイスを同時にインポートおよび設定します。
- [ヘルプ (Help)] : このメニューをクリックすることで、オンラインヘルプシステムにアクセスできます。オンラインヘルプシステムには、システム上の各種設定ウィンドウの設定を構成する際に役立つドキュメントが含まれています。

オペレーティング システムの管理の概要

[Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理 (Cisco Unified Communications Operating System Administration)] を使用して、オペレーティング システムの設定と管理、および以下の管理タスクを実行します。

- ソフトウェアとハードウェアのステータスを確認する
- IP アドレスを確認および更新する
- 他のネットワーク デバイスに ping を送信する
- NTP サーバを管理する
- システム ソフトウェアおよびオプションをアップグレードする
- ノードのセキュリティを管理する (IPSec や証明書を含む)
- リモート サポート アカウントを管理する
- システムを再起動する

オペレーティング システムのステータス

以下のものを含め、各種のオペレーティング システム コンポーネントのステータスを確認できます。

- クラスタおよびノード
- ハードウェア
- ネットワーク
- システム
- インストールされているソフトウェアとオプション

オペレーティングシステムの設定

オペレーティングシステムの次の設定を表示し、更新できます。

- [IP] : アプリケーションのインストール時に入力した IP アドレスおよび DHCP クライアントの設定を更新します。
- [NTP サーバの設定 (NTP Server Settings)] : 外部 NTP サーバの IP アドレスの設定、および NTP サーバの追加を行います。
- [SMTP 設定 (SMTP settings)] : オペレーティングシステムが E メール通知の送信に使用する Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) ホストを設定します。

オペレーティングシステムのセキュリティ設定

セキュリティ証明書および IPsec の設定を管理できます。[セキュリティ (Security)] メニューでは、次のセキュリティオプションを選択できます。

- [証明書の管理 (Certificate Management)] : 証明書および証明書署名要求 (CSR) を管理します。証明書の表示、アップロード、ダウンロード、削除、および再作成を行うことができます。[証明書の管理 (Certificate Management)] を使用して、ノード上の証明書の有効期限をモニタすることもできます。
- [IPsec の管理 (IPsec Management)] : 既存の IPsec ポリシーの表示や更新、新規の IPsec ポリシーとアソシエーション設定を行います。

ソフトウェアのアップグレード

オペレーティングシステムで実行中のソフトウェアバージョンをアップグレードしたり、特定のソフトウェアオプション (Cisco Unified Communications オペレーティングシステムロケルインストーラ、ダイヤルプラン、TFTP サーバファイルなど) をインストールできます。

[インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] メニュー オプションで、ローカルディスクまたはリモートサーバからシステムソフトウェアをアップグレードできます。アップグレードしたソフトウェアは非アクティブなパーティションにインストールされ、その後でシステムの再起動とパーティションの切り替えができます。これにより、システムで新しいソフトウェアバージョンが実行されます。詳細については、『*Upgrade Guide for the Cisco Unified Communications Manager*』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-installation-guides-list.html>) を参照してください。



(注)

Cisco Unified Communications オペレーティングシステムのインターフェイスと CLI に含まれるソフトウェアアップグレード機能を使用して、すべてのソフトウェアのインストールとアップグレードを実行する必要があります。このシステムでアップロードおよび処理できるソフトウェアは、シスコによって承認されたものだけです。サードパーティ製または Windows ベースのソフトウェアアプリケーションはインストールまたは使用できません。

認証済み Network Time Protocol のサポート

サービス

このアプリケーションでは、次のオペレーティングシステムユーティリティを使用できます。

- ping : 他のネットワーク デバイスとの接続を確認します。
- リモートサポート : シスコのサポート担当者がシステムへのアクセスに使用できるアカウントを設定します。このアカウントは、指定した日数が経過すると自動的に失効します。

CLI

CLI には、オペレーティング システムからアクセスすることも、サーバへのセキュア シェル接続を使用してアクセスすることもできます。詳細については、『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html>) を参照してください。

認証済み Network Time Protocol のサポート

Cisco Unified Communications Manager リリース 12.0(1) では、Unified Communications Manager の認証済み Network Time Protocol (NTP) 機能がサポートされています。このサポートは、Unified Communications Manager へのセキュアな NTP サーバ接続を確立するために追加されています。以前のリリースでは、NTP サーバに対する Unified Communications Manager の接続はセキュアではありませんでした。

この機能は、対称キーベースの認証に基づいており、NTPv3 および NTPv4 サーバによってサポートされています。Unified Communications Manager は、SHA1 ベースの暗号化のみをサポートしています。SHA1 ベースの対称キーのサポートは、NTP バージョン 4.2.6 以降で利用できます。

- 対称キー
- 認証なし

NTP サーバの認証ステータスは、Cisco Unified OS の管理アプリケーションの管理 CLI または [NTP サーバの一覧 (NTP Server List)] ページで確認できます。

自動キー認証済み Network Time Protocol のサポート

Cisco Unified Communications Manager は、自動キー機能（公開キーインフラストラクチャベースの認証）による Network Time Protocol (NTP) 認証もサポートしています。この機能は、パブリック シャノードでのみ適用できます。

RedHat は自動キーよりも対称キー認証を推奨しています。詳細については、<https://access.redhat.com/support/cases/#/case/01871532> を参照してください。

この機能は、コモン クライテリア認定のために PKI ベースの認証が必須であるため追加されました。

Cisco Unified Communication Manager でコモン クライテリア モードを有効にしている場合にのみ、NTP サーバで IFF ID スキームによる PKI ベースの認証を設定できます。

Cisco Unified Communications Manager で、対称キーまたは PKI ベースの NTP 認証を有効にできます。

PKI 対応サーバで対称キーを有効にしようとすると、次の警告メッセージが表示されます。



警告

Autokeyを使用したNTP認証が現在有効になっており、対称キーを有効にする前に無効にする必要があります。 (NTP authentication using Autokey is currently enabled and must be disabled before the symmetric key is enabled.) コマンド「`utils ntp auth auto-key disable`」を使用してNTP認証を無効にしてから、このコマンドを再試行してください。 (Use the command '`utils ntp auth auto-key disable`' to disable NTP authentication, then retry this command.)

対称キー対応サーバで Autokey を有効にしようとすると、次の警告メッセージが表示されます。



警告

対称キーを使用するNTP認証が現在有効になっており、Autokeyを有効にする前に無効にする必要があります。 (NTP authentication using symmetric key is currently enabled and must be disabled before Autokey is enabled.) コマンド「`utils ntp auth symmetric-key disable`」を使用してNTP認証を無効にしてから、このコマンドを再試行してください。 (Use the command '`utils ntp auth symmetric-key disable`' to disable NTP authentication, then retry this command.)



(注)

NTP サーバには `ntp` バージョン 4 と `rpm` バージョン `ntp-4.2.6p5-1.el6.x86_64.rpm` 以上が必要です。

NTP サーバの認証ステータスは、Cisco Unified OS の管理アプリケーションの管理 CLI または [NTPサーバの一覧(NTP Server List)] ページで確認できます。

Cisco Unified Serviceability の概要

Cisco Unified Serviceability は、管理者がシステムを管理する際の、サービス、アラーム、支援ツールのホストを提供する、Webベースのトラブルシューティングツールです。Cisco Unified Serviceability が提供する機能を利用して、管理者は以下の作業を行うことができます。

- サービスの開始と停止：管理者はシステムを管理する上で役立つさまざまなサービスを設定できます。たとえば、Cisco CallManager Serviceability RTMT サービスを開始することにより、管理者は Real-Time Monitoring Tool を使ってシステムの正常性をモニタできます。
- SNMP：アプリケーション層プロトコルである SNMP を使用すると、ノードやルータなどのネットワーク デバイス間の管理情報を簡単に交換できます。TCP/IP プロトコルスイートの一部である SNMP を使用すると、管理者はリモートでネットワークのパフォーマンス

Cisco Unified Reporting の概要

を管理し、ネットワークの問題を検出および解決し、ネットワークの拡張計画を立てることができます。

- アラーム：アラームは、システムの実行時のステータスと状態に関する情報を提供するため、システムに関する問題をトラブルシューティングできます。
- トレース：トレースツールは、音声アプリケーションの問題をトラブルシューティングするのに役立ちます。
- Cisco Serviceability Reporter : Cisco Serviceability Reporter は、Cisco Unified Serviceability 内で日次レポートを生成します。
- SNMP : アプリケーション層プロトコルである SNMP を使用すると、ノードやルータなどのネットワーク デバイス間の管理情報を簡単に交換できます。TCP/IP プロトコルスイートの一部である SNMP を使用すると、管理者はリモートでネットワークのパフォーマンスを管理し、ネットワークの問題を検出および解決し、ネットワークの拡張計画を立てることができます。
- CallHome : Cisco Unified Communications Manager の Call Home 機能を設定し、Cisco Unified Communications Manager が通信し、診断アラート、インベントリおよびその他のメッセージを Smart Call Home バックエンド サーバに送信できるようにします。

その他の管理インターフェイス

Cisco Unified Serviceability を使用して、サービスを開始し以下の他の管理インターフェイスを使用できます。

- Real-Time Monitoring Tool : Real-Time Monitoring Tool は、システムの正常性をモニタするために利用できる Web ベースのインターフェイスです。RTMT を使用して、アラームやカウンタを確認したり、システムの正常性に関する詳細情報が記載されたレポートを表示したりできます。
- Dialed Number Analyzer : Dialed Number Analyzer は、管理者がダイヤル プランの問題をトラブルシューティングする際に役立つ、Web ベースのインターフェイスです。
- Cisco Unified CDR Analysis and Reporting : CDR Analysis and Reporting は、システムで行われたコールの詳細を記録したレコードを収集します。

Cisco Unified Serviceability の使用方法の詳細については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html>) を参照してください。

Cisco Unified Reporting の概要

Cisco Unified Reporting Web アプリケーションは、クラスタ データをトラブルシューティングまたは検査するための統合レポートを生成します。このアプリケーションには、Unified

Communications Manager および Unified Communications Manager IM and Presence Service のコンソールでアクセスできます。

このツールは、クラスタデータのスナップショットを簡単に作成する方法を提供します。このツールは、既存のソースからのデータの収集、データの比較、および異常の報告を行います。Cisco Unified Reporting で生成されるレポートは、1台以上のサーバの1つ以上のソースからのデータを1つの出力ビューに統合します。システムを管理する際には、たとえば以下のレポートを表示して利用できます。

- [Unified CM クラスタ概要 (Unified CM Cluster Overview)] : Cisco Unified Communications Manager and IM and Presence Service のバージョン、サーバのホスト名、ハードウェアの詳細といったクラスタのスナップショットを取得するときに、このレポートを参照します。
- [電話機能リスト (Phone Feature List)] : 機能を設定する際は、このレポートを表示します。このレポートは、どの電話機がどの Unified Communications Manager 機能をサポートしているかを一覧します。
- [回線未使用の Unified CM 電話 (Unified CM Phones Without Lines)] : 電話回線を使用していない、クラスタ内の電話機を確認するには、このレポートを表示します。

Cisco Unified Reporting が提供するレポートをすべて網羅したリスト、およびこのアプリケーションの使用方法については、『Cisco Unified Reporting Administration Guide』(<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html>) を参照してください。

ディザスタリカバリシステムの概要

ディザスタリカバリシステム (DRS) は、[Cisco Unified Communications Manager 管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] から呼び出すことができるシステムで、完全なデータバックアップおよび復元の機能を提供します。ディザスタリカバリシステムでは、定期的にスケジュールされた自動データバックアップまたはユーザ起動のデータバックアップを実行できます。

DRS は、プラットフォームのバックアップ/復元の一環として、独自の設定（バックアップデバイス設定およびスケジュール設定）を復元します。DRS は drfDevice.xml ファイルと drfSchedule.xml ファイルをバックアップおよび復元します。これらのファイルとともにサーバを復元するときは、DRS バックアップデバイスおよびスケジュールを再設定する必要がありません。

ディザスタリカバリシステムには、次の機能があります。

- バックアップおよび復元タスクを実行するためのユーザインターフェイス。
- バックアップおよび復元機能を実行するための分散システムアーキテクチャ。
- バックアップのスケジューリング。
- 物理的なテープ ドライブまたはリモート SFTP サーバへのバックアップのアーカイブ。

一括管理ツールの概要

一括管理ツールの概要

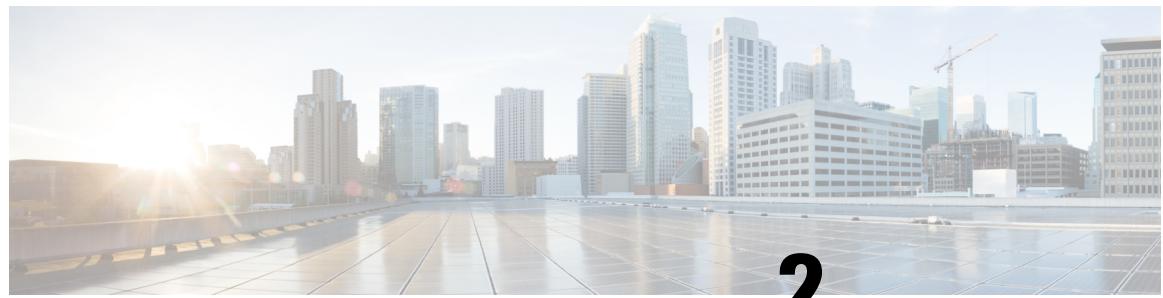
Cisco Unified Communications Manager 内にエンティティを設定するには、Unified CM Administration の [一括管理 (Bulk Administration)] メニューおよびサブメニュー オプションで一括管理ツールを使用します。

Unified Communications Manager の一括管理ツール (BAT) は Web ベースのアプリケーションであり、管理者が Unified Communications Manager データベースに対する一括トランザクションを行うために使用できます。BAT では、多数の同じような電話、ユーザ、またはポートを同時に追加、更新、削除できます。Cisco Unified CM の管理を使用する場合、データベース トランザクションごとに個々の手動操作が必要になりますが、BAT はこのプロセスを自動化し、追加、更新、削除の操作を短時間で実行できるようにします。

以下のタイプのデバイスとレコードを処理する場合は BAT を使用できます。

- Cisco IP Phone、ゲートウェイ、電話機、Computer Telephony Interface (CTI) ポート、H.323 クライアントの追加、更新、削除
- ユーザ、ユーザデバイスプロファイル、Cisco Unified Communications Manager Assistant メージャおよびアシスタントの追加、更新、削除
- 強制承認コードとクライアントマターコードの追加、削除
- コールピックアップグループの追加、削除
- リージョンマトリクスの実装、実装解除
- アクセスリストの挿入、削除、エクスポート
- リモート宛先およびリモート宛先プロファイルの挿入、削除、エクスポート
- インフラストラクチャデバイスの追加

一括管理ツールの使用方法の詳細については、『*Bulk Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。



第 2 章

使用する前に

- 管理インターフェイスへのログイン (9 ページ)
- 管理者パスワードまたはセキュリティ パスワードのリセット (9 ページ)
- システムのシャットダウンまたは再起動 (11 ページ)

管理インターフェイスへのログイン

システム内の管理インターフェイスのいずれかにサインインする場合に、次の手順を使用します。

手順

-
- ステップ1 ご使用の Web ブラウザで、Unified Communications Manager インターフェイスを開きます。
 - ステップ2 [ナビゲーション (Navigation)] ドロップダウン リストから管理インターフェイスを選択します。
 - ステップ3 [移動 (Go)] をクリックします。
 - ステップ4 ユーザ名とパスワードを入力します。
 - ステップ5 [ログイン (Login)] をクリックします。
-

管理者パスワードまたはセキュリティ パスワードのリセット

管理者パスワードを消失し、システムにアクセスできない場合は、次の手順を使用してパスワードをリセットします。

管理者パスワードまたはセキュリティ パスワードのリセット



(注) IM and Presence ノードのパスワードを変更する場合は、管理者パスワードをリセットする前に、すべての IM and Presence ノードの Cisco Presence Engine サービスを停止します。パスワードをリセットした後に、すべてのノードの Cisco Presence Engine サービスを再起動します。PE が停止されるとプレゼンスの問題が発生する可能性があるため、このタスクはメンテナンス中に実行してください。

始める前に

- この手順を実行するノードに物理的にアクセスできる必要があります。
- どの時点でも、CD または DVD メディアを挿入するように求められたら、VMWare サーバ用の vSphere クライアントを用いて ISO ファイルをマウントする必要があります。指示については、「『Adding DVD or CD Drives to a Virtual Machine』」 https://www.vmware.com/support/ws5/doc/ws_disk_add_cd_dvd.html を参照してください。
- セキュリティ パスワードは、クラスタ内のすべてのノードで一致している必要があります。セキュリティ パスワードは、すべてのマシン上で変更してください。変更していない場合、クラスタ ノードが通信不能になります。

手順

ステップ1 次のユーザ名とパスワードを使用して、パブリッシャ ノードで CLI にサインインします。

- a) ユーザ名 : **pwrecovery**
- b) パスワード : **pwreset**

ステップ2 何かキーを押して続行します。

ステップ3 ディスク ドライブに有効な CD または DVD が入っている場合、または ISO ファイルをマウントしてある場合は、VMWare クライアントから取り出します。

ステップ4 何かキーを押して続行します。

ステップ5 有効な CD または DVD をドライブに挿入するか、ISO ファイルをマウントします。

(注) このテストでは、データ専用のディスクまたはISOファイルを使用する必要があります。

ステップ6 最後のステップが確認されると、次のいずれかのオプションを入力して続行するように指示されます。

- **a** を入力して、管理者パスワードをリセットする。
- セキュリティ パスワードをリセットする場合は、**s** を入力します。

(注) セキュリティ パスワードを変更したら、クラスタ内の各ノードをリセットする必要があります。ノードをリブートしない場合、システムサービスで問題が発生するほか、サブスクリーバ サーバ上の管理 ウィンドウで問題が発生します。

ステップ7 新しいパスワードを入力し、確認のためにもう一度入力します。

管理者のクレデンシャルは、先頭がアルファベットで 6 文字以上必要です。英数字、ハイフン、およびアンダースコアを使用できます。

ステップ8 新しいパスワードの強度が検証された後、パスワードがリセットされ、任意のキーを押してパスワードリセットユーティリティを終了するように指示されます。

異なる管理者パスワードを設定する場合は、CLI コマンド **set password** を使用します。詳細については、『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Solutions*』(<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html>) を参照してください。

システムのシャットダウンまたは再起動

設定を変更した後などにシステムをシャットダウンまたは再起動する必要がある場合、次の手順を使用します。

始める前に

仮想マシンからサーバのシャットダウンおよび再起動が強制されると、ファイルシステムが破損する可能性があります。強制シャットダウンを回避します。代わりに、この手順の実行後または CLI からの **utils system shutdown** の実行後に、サーバが適切にシャットダウンするまで待ちます。



(注)

utils system shutdown CLI コマンドを使用して、仮想マシンを介してシャットダウンまたは再起動することを推奨します。このコマンドエントリが **system-history.log** に表示され、グレースフルシャットダウンと見なされます。vSphere クライアントからシャットダウンまたは再起動を実行した場合は予期せぬシャットダウンと見なされ、そのエントリは **system-history.log** に表示されません。vSphere クライアントからのシャットダウン/再起動は、バージョン 10.x 以降ではサポートされていません。

手順

ステップ1 [Cisco Unified OS の管理 (Cisco Unified OS Administration)] から、[設定 (Settings)] > [バージョン (Version)] を選択します。

ステップ2 次のいずれかの操作を実行します。

- すべてのプロセスを停止し、システムをシャットダウンするには、[シャットダウン (Shutdown)] をクリックします。

■ システムのシャットダウンまたは再起動

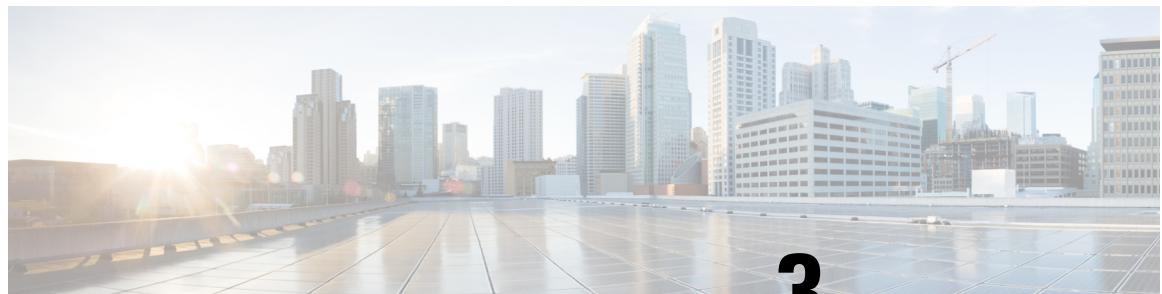
- すべてのプロセスを停止し、システムを再起動するには、[再起動 (Restart)] をクリックします。
-



第 III 部

ユーザの管理

- ユーザアクセスの管理 (15 ページ)
- エンドユーザの管理 (45 ページ)
- アプリケーションユーザの管理 (59 ページ)



第 3 章

ユーザ アクセスの管理

- ユーザ アクセスの概要 (15 ページ)
- ユーザ アクセスの前提条件 (19 ページ)
- ユーザ アクセス設定のタスク フロー (19 ページ)
- 非アクティブなユーザ アカウントの無効化 (30 ページ)
- リモート アカウントの設定 (30 ページ)
- 標準ロールとアクセス コントロール グループ (31 ページ)

ユーザ アクセスの概要

以下の項目管理ユーザの Cisco Unified Communications Manager へのアクセスを設定します。

- アクセスコントロールグループ
- ロール
- ユーザ ランク

アクセス コントロール グループの概要

アクセス コントロール グループは、ユーザのリストと、それらのユーザに割り当てられているロールを示します。アクセス コントロール グループにエンドユーザ、アプリケーションユーザ、または管理者ユーザを割り当てるとき、そのユーザは、そのグループに関連付けられているロールのアクセス権を取得します。類似したアクセス権を持つユーザを、必要なロールとアクセス許可のみを含むアクセス コントロール グループに割り当てるこによって、システムアクセスを管理することができます。

アクセス コントロール グループには、次の 2 つのタイプがあります。

- 標準アクセス コントロール グループ：これらは定義済みのデフォルト グループであり、一般的な導入ニーズを満たすロールが割り当てられています。標準 グループ内のロール割り当てを編集することはできません。ただし、ユーザを追加または削除するだけでなく、ユーザのランク要件を編集することもできます。標準アクセス コントロール グループの

アクセス コントロール グループの概要

リストと、それらに関連付けられているロールについては、[標準ロールとアクセスコントロール グループ（31 ページ）](#) を参照してください。

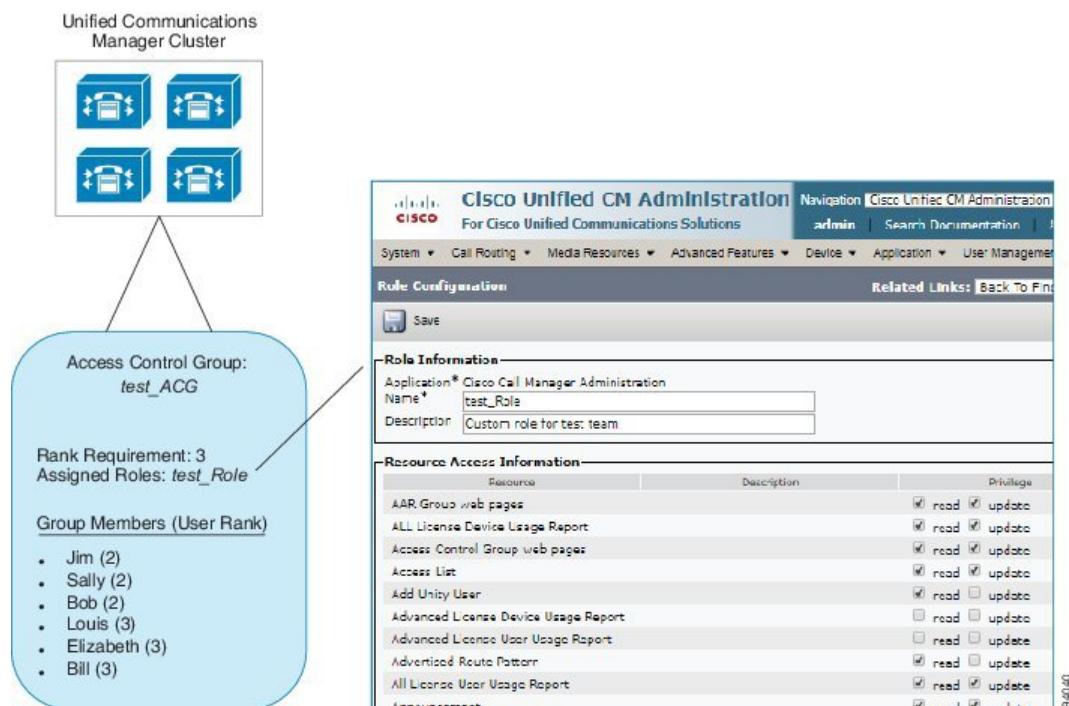
- カスタムアクセス コントロール グループ：必要条件を満たすロール権限が標準のグループに含まれていない場合は、独自のアクセス コントロール グループを作成します。

ユーザ ランク フレームワークには、ユーザを割り当てることができるアクセス コントロール グループに対する一連の制御が用意されています。作成するアクセス コントロール グループに割り当てられるためにユーザが満たす必要がある最低限のランクを選択します。たとえば、4 のユーザ ランクを持つユーザは、最小ランク要件が 4 ~ 10 のアクセス コントロール グループにしか割り当てることができません。最低ランク 1 のグループに割り当てるることはできません。

例：アクセス コントロール グループを使用したロール権限

次の例は、テストチームのメンバーがアクセス コントロール グループ **test_ACG** に割り当てられているクラスタを示しています。右側の画面キャプチャには、アクセス コントロール グループに関連付けられているロールである **test_Role** のアクセス設定が表示されます。また、アクセス コントロール グループには、最低でも 3 ランク要件があることにも注意してください。グループに参加できるようにするには、すべてのグループのメンバーには、1-3 の間のランクが必要です。

図 1: アクセス コントロール グループのロール権限



ロールの概要

ユーザは、ユーザがメンバーとなっているアクセス コントロール グループに関連付けられているロールを介してシステムアクセス権限を取得します。各ロールには、Cisco Unified CM Administration または CDR Analysis and Reporting などの特定のリソースまたはアプリケーションに割り当てられた一連の権限が含まれています。Cisco Unified CM Administration などのアプリケーションの場合、ロールには、アプリケーション内の特定の GUI ページを表示または編集できるアクセス許可が含まれている場合があります。リソースまたはアプリケーションに割り当てることができるアクセス許可には、次の 3 つのレベルがあります。

- 読み取り：ユーザがリソースの設定を表示することを許可します。
- [更新 (Update)]：ユーザはリソースの設定を編集できます。
- アクセスなし：ユーザが読み取りアクセス権も更新アクセス権も持っていない場合、そのユーザは、特定のリソースの設定を表示または編集するためのアクセス権を持っていません。

ロールタイプ

ユーザをプロビジョニングする場合は、適用するロールを決定してから、そのロールを含むアクセス コントロール グループにユーザを割り当てる必要があります。Cisco Unified Communications Manager には、次の 2 つの主要なロールがあります。

- 標準ロール：これらは、一般的な展開のニーズを満たすように設計された、プレインストールされたデフォルトのロールです。標準ロールの権限を編集することはできません。
- カスタムロール：必要な権限を持つ標準ロールがない場合、カスタムロールを作成します。さらに細かいレベルのアクセス制御が必要な場合は、高度な設定を適用して、管理者がキーのユーザ設定を編集できるように制御することができます。詳細については、該当する項を参照してください。

高度なロール設定

カスタマイズされたロールを作成する際に、[アプリケーション ユーザ (Application User)] と [エンド ユーザ (End User)] 設定 ウィンドウで選択されたフィールドに、詳細レベルの制御を追加できます。

[高度なロール設定 (Advanced Role Configuration)] ウィンドウでは、次のようなタスクのアクセスを制限しながら、Cisco Unified CM Administration へのアクセスを設定できます。

- ユーザの追加
- パスワードの編集
- ユーザ ランクの編集
- アクセス コントロール グループの編集

次の表では、この設定で適用できる制御について詳しく説明します。

■ ユーザ ランクの概要

表 1: 高度なリソースアクセス情報

高度なリソース	アクセス コントロール
権限情報	<p>アクセス コントロール グループを追加または編集する機能を次のように制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [ビュー (View)] : ユーザは、アクセス コントロール グループを表示することはできますが、追加、編集、または削除することはできません。 [更新 (Update)] : ユーザは、アクセス コントロール グループを追加、編集、または削除できます。 <p>(注) 両方の値が選択されていないと、[権限情報 (Permission Information)] セクションは使用できません。</p>
ユーザ ランク	<p>ユーザ ランクを変更する機能を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [ビュー (View)] : ユーザは、ユーザ ランクを表示できますが、変更することはできません。 [更新 (Update)] : ユーザはユーザ ランクを変更できます。 <p>(注) 両方の値が選択されていないと、[ユーザ ランク (User Rank)] セクションは使用できません。</p>
新しいユーザの追加	<p>新しいユーザを追加する機能を次のように制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [はい (Yes)] : ユーザは、新しいユーザを追加できます。 [いいえ (No)] : [新規追加 (Add New)] ボタンは使用できません。
パスワード	<p>パスワードを変更する機能を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [はい (Yes)] : ユーザは [アプリケーションユーザ情報 (Application User Information)] セクションでユーザのパスワードを変更できます。 [いいえ (No)] : [アプリケーションユーザ情報 (Application User Information)] セクションで、[パスワード (Password)] と [パスワードの確認 (Confirm Password)] は使用できません。

ユーザ ランクの概要

ユーザ ランクのアクセス コントロールでは、管理者がエンドユーザやアプリケーションユーザに提供できるアクセス レベルに対する一連の制御を行います。

エンド ユーザやアプリケーション ユーザをプロビジョニングする場合、管理者は各ユーザのユーザ ランクを割り当てる必要があります。管理者は、各アクセス コントロール グループにもユーザ ランクを割り当てる必要があります。Control グループにアクセスするユーザを追加する場合、管理者は、ユーザのユーザのランク要件がグループのランク要件を満たしているグループにのみユーザを割り当てるすることができます。たとえば、あるエンド ユーザのユーザ ランクが 3 の場合、3 ~ 10 のユーザ ランクが設定されているアクセス コントロール グループに割り当てるすることができます。ただし、管理者は、そのユーザを 1 または 2 のユーザランク要件を持つアクセス コントロール グループに割り当てるとはできません。

管理者は、[ユーザ順位の設定] ウィンドウ内に独自のユーザ ランク 階層を作成し、ユーザをプロビジョニングし、アクセス コントロール グループを使用して、その階層を使用することができます。ユーザ ランクの階層を設定しない場合や、ユーザをプロビジョニングするとき、またはcontrol グループにアクセスするときにユーザ ランクの設定を指定しない場合は、すべてのユーザとアクセス コントロール グループにはデフォルトのユーザ ランク 1(可能な限り高いランク) が割り当てられます。

ユーザ アクセスの前提条件

ユーザに必要なアクセス レベルを判断できるよう、ユーザのニーズを確認してください。ユーザが必要とするアクセス 権限を与える一方で、ユーザがアクセスすべきではないシステムへのアクセス権を付与しないよう、ロールを割り当てる必要があります。

新しいロールとアクセス コントロール グループを作成する前に、標準のロールとアクセス コントロール グループの一覧を確認して、既存のアクセス コントロール グループに必要なロールとアクセス 権限があるかどうかを確認します。詳細については、「[標準ロールとアクセス コントロール グループ \(31 ページ\)](#)」を参照してください。

ユーザ アクセス 設定のタスク フロー

以下のタスクを実行して、ユーザ アクセスを設定します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	ユーザ ランク 階層の設定 (20 ページ)	ユーザ ランク 階層を設定します。このタスクをスキップすると、すべてのユーザとアクセス コントロール グループには、デフォルトのユーザ ランク 1 (最高ランク) が割り当てられます。
ステップ2	カスタム ロールの作成 (21 ページ)	必要なアクセス 権限がデフォルト ロールに割り当てられていない場合は、カスタム ロールを作成します。

ユーザランク階層の設定

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ3	管理者の高度なロール設定 (22 ページ)	これはオプションです。カスタムロールの高度な権限を使用すると、主な設定に対する管理者の編集権限を制御することができます。
ステップ4	アクセス コントロール グループの作成 (22 ページ)	デフォルトのグループに必要なロールが割り当てられていない場合は、カスタムアクセス コントロール グループを作成します。
ステップ5	アクセス コントロール グループへのユーザの割り当て (23 ページ)	標準またはカスタムのアクセス コントロール グループに対してユーザを追加または削除します。
ステップ6	アクセス コントロール グループの重複する特権ポリシーの設定 (24 ページ)	これはオプションです。この設定は、権限が競合する複数のアクセス コントロール グループにユーザが割り当てられている場合に使用します。

ユーザランク階層の設定

ランク階層を目的として、カスタムユーザランクを作成するには、次の手順を使用します。



(注)

ユーザランクの階層を設定しない場合、すべてのユーザとアクセス コントロール グループにデフォルトで1(最高ランク)が割り当てられます。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM の管理から、[ユーザの管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [ユーザランク (User Rank)] を選択します。

ステップ2 [Add New] をクリックします。

ステップ3 [ユーザランク (User Rank)] ドロップダウンメニューから、1~10のランク設定を選択します。最も高いランクは1です。

ステップ4 [ランク名 (Rank Name)] と [説明 (Description)] を入力します。

ステップ5 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ6 さらに ACL を追加するにはこの手順を繰り返します。

ユーザをユーザに割り当てる、制御グループをアクセスしたりして、ユーザを割り当てることができるグループを制御することができます。

カスタム ロールの作成

次の手順を使用して、カスタマイズされた権限を備えた新しいロールを作成します。必要な権限を備えた標準のロールがない場合は、この方法を使用することができます。ロールを作成するには 2 つの方法があります。

- [新規追加 (Add New)] ボタンを使用して、新規に新しいロールを作成および設定します。
- 既存のロールに、必要なアクセス権に近いアクセス権がある場合は、[コピー] ボタンを使用します。既存のロールの特権を、編集可能な新しいロールにコピーできます。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM の管理で、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [権限 (Role)] をクリックします。

ステップ2 次のいずれかを実行します。

- 新しいロールを作成するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。このロールが関連付けられているアプリケーションを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- 既存のロールから設定をコピーするには、[検索 (Find)] をクリックして、既存のロールを開きます。コピーをクリックして、新しいロールの名前を入力します。[OK] をクリックします。

ステップ3 このロールの名前と説明を入力します。

ステップ4 リソースごとに、次の該当するチェックボックスをオンにします。

- ユーザがリソースの設定を表示できるようにするには、[読み取り] チェックボックスをオンにします。
- ユーザがリソースの設定を編集できるようにする場合は、[更新] チェックボックスをオンにします。
- リソースへのアクセスを提供しない場合は、両方のチェックボックスをオフにします。

ステップ5 このロールのページに表示されるすべてのリソースに特権を付与する場合は、[すべてにアクセス権を付与 (Grant access to all)] ボタンをクリックし、すべてのリソースから特権を削除する場合は、[すべてにアクセスを許可しない (Deny access to all)] をクリックします。

(注) リソースのリストが複数のページにわたって表示される場合、このボタンは、現在のページに表示されるリソースに限り適用されます。他のページのリストにあるリソースのアクセス権を変更するには、それらのページを表示し、表示されたページでこのボタンを使用する必要があります。

ステップ6 [保存 (Save)] をクリックします。

管理者の高度なロール設定

[高度なロール設定 (Advanced Role Configuration)]を使用すると、カスタムロールの権限をより細かいレベルで編集できます。[エンドユーザーの設定 (End User Configuration)] ウィンドウおよび [アプリケーションユーザーの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウで、次の主な設定に対する管理者の編集権限を制御することができます。

- ユーザ ランクの編集
- アクセス コントロール グループの割り当ての編集
- 新規ユーザの追加
- ユーザ パスワードの編集

手順

ステップ1 Cisco Unified CM Administration で、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [ロール (Role)] を選択します。

ステップ2 [検索 (Find)] をクリックしてカスタムロールを選択します。

ステップ3 [関連リンク (Related Links)] で、[詳細なロール設定 (Advanced Role Configuration)] を選択し、[Go (移動)] をクリックします。

ステップ4 [リソース (Resource) Web ページ] で、[アプリケーション ユーザ (Application User) Web ページ] または [ユーザ (User) Web ページ] を選択します。

ステップ5 設定の編集フィールドおよびその設定についてのヘルプは、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ6 [保存 (Save)] をクリックします。

アクセス コントロール グループの作成

この手順では、新しいアクセスコントロールグループを作成する必要があります。必要なロールとアクセス権限が設定されている標準グループがない場合は、この方法を使用することができます。カスタマイズされたグループを作成するには、次の 2 つの方法があります。

- [新規追加 (Add New)] ボタンを使用して、新規に新しいアクセス コントロール グループを作成および設定します。
- 既存のグループに、必要なロール割り当てに近いものがある場合は、[コピー] ボタンを使用します。既存のグループからの設定を新しいグループと編集可能なグループにコピーできます。

手順

ステップ1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [アクセス コントロール グループ (Access Control Group)] を選択します。

ステップ2 次のいずれかを実行します。

- ・新しいグループを最初から作成するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ・既存のグループから設定をコピーするには、[検索 (Find)] をクリックして、既存のアクセス コントロール グループを開きます。[コピー] をクリックして、新しいグループの名前を入力します。[OK] をクリックします。

ステップ3 [名前 (Name)] にアクセス コントロール グループの名前を入力します。

ステップ4 [ユーザで利用できるユーザランク (Available for Users with User Rank as)] ドロップダウンから、このグループに割り当てる、ユーザの最低ランクを選択します。デフォルトのユーザランクは 1 です。

ステップ5 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ6 アクセス コントロール グループにロールを割り当てます。選択したロールは、グループのメンバーに割り当てられます。

- a) [関連リンク (Related Links)] から、[アクセス コントロール グループへの権限の割り当て (Assign Roles to Access Control Group)] を選択して [実行 (Go)] をクリックします。
- b) [検索 (Find)] をクリックして、既存のロールを検索します。
- c) 追加するロールをオンにして、[選択の追加 (add Selected)] をクリックします。
- d) [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[アクセス コントロール グループへのユーザの割り当て \(23 ページ\)](#)

アクセス コントロール グループへのユーザの割り当て

標準またはカスタムのアクセス コントロール グループに対してユーザを追加または削除します。.



(注)

ユーザのランクがアクセス コントロール グループの最低ユーザ ランクと同じかそれより上のユーザのみを追加できます。

■ アクセス コントロール グループの重複する特権ポリシーの設定

手順

ステップ1 [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [アクセス コントロール グループ (Access Control Group)] の順に選択します。

[アクセス コントロール グループの検索と一覧表示 (Find and List Access Control Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ2 [検索 (Find)] をクリックして、ユーザリストを更新するアクセス コントロール グループを選択します。

ステップ3 [ユーザで利用できるユーザランク (Available for Users with User Rank as)] ドロップダウンから、このグループに割り当てるために必要なユーザのランク要件を選択します。

ステップ4 [ユーザ] セクションで、[検索 (Find)] をクリックして、ユーザリストを表示します。

ステップ5 エンドユーザまたはアプリケーションユーザをアクセス コントロール グループに追加するには、次の手順を実行します。

- [エンドユーザをアクセス コントロール グループに追加 (Add End Users to Access Control Group)] または [アプリケーションユーザをアクセス コントロール グループに追加 (Add App Users to Access Control Group)] をクリックします。
- 追加するユーザを選択します。
- [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。

ステップ6 アクセス コントロール グループからユーザを削除するには、次の手順を実行します。

- 削除するユーザを選択します。
- [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

ステップ7 [保存 (Save)] をクリックします。

アクセス コントロール グループの重複する特権ポリシーの設定

Cisco Unified Communications Manager がアクセス コントロール グループの割り当てにより発生する可能性がある、ユーザ権限の重複を処理する方法を設定します。これにより、エンドユーザが複数のアクセス コントロール グループに割り当てられ、ロールや権限の設定に不整合が生まれる状況に対処できます。

手順

ステップ1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[システム (System)] > [エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。

ステップ2 [ユーザ管理パラメータ (User Management Parameters)] で、[重複したユーザ グループとロールの実質的なアクセス権 (Effective Access Privileges For Overlapping User Groups and Roles)] に次のいずれかの値を設定します。

- ・[最大 (Maximum)]—実質的な権限は、重複したすべてのアクセス コントロール グループの最大限の権限になります。これがデフォルトのオプションです。
- ・[最小 (Minimum)]—実質的な権限は、重複したすべてのアクセス コントロール グループの最小限の権限になります。

ステップ3 [保存 (Save)] をクリックします。

ユーザ権限レポートの表示

既存のエンドユーザや既存のアプリケーションユーザのユーザ権限レポートを表示するには、次の手順を実行します。ユーザ権限レポートは、エンドユーザまたはアプリケーションユーザに割り当てられたアクセス コントロール グループ、ロール、およびアクセス権限が表示されます。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM の管理で、次の手順のいずれかを実行します。

- ・エンドユーザの場合は、[ユーザの管理 (User Management)] > [エンド ユーザ (End User)] を選択します。
- ・アプリケーションユーザの場合は、[ユーザの管理 (User Management)] > [アプリケーション ユーザ (Application User)] を選択します。

ステップ2 [検索 (Find)] をクリックして、アクセス権限を表示するユーザを選択します。

ステップ3 [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストから [ユーザ権限レポート (User Privilege Report)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
[ユーザ権限 (User Privilege)] ウィンドウが表示されます。

カスタム ヘルプ デスク ロールの作成タスク フロー

企業によっては、ヘルプデスク担当者に特定の管理タスクを実行できる権限を与える必要があると考えている場合があります。このタスクフロー内の手順に従って、電話機の追加やエンドユーザの追加などのタスクをヘルプデスク チームのメンバーが実行できるようにする、ヘルプデスク チームのメンバー用のロールとアクセス コントロール グループを設定します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	カスタムヘルプデスク ロールの作成 (26 ページ)	ヘルプデスク チームのメンバーのカスタム ロールを作成し、新しい電話機の

カスタムヘルプデスク ロールの作成

	コマンドまたはアクション	目的
		追加や新しいユーザの追加などの項目のロール権限を割り当てます。
ステップ2	カスタムヘルプデスクアクセスコントロール グループの作成 (27ページ)	ヘルプデスク ロール用の新しいアクセスコントロール グループを作成します。
ステップ3	アクセス コントロール グループへのヘルプデスク ロールの割り当て (27ページ)	ヘルプデスク アクセスコントロール グループにヘルプデスク ロールを割り当てます。このアクセス コントロール グループに割り当てられたユーザには、ヘルプデスク ロールの権限が割り当てられます。
ステップ4	アクセス コントロール グループへのヘルプデスク メンバーの割り当て (28ページ)	カスタムヘルプデスク ロールの権限をヘルプデスク チームのメンバーに割り当てます。

カスタムヘルプデスク ロールの作成

この手順を実行して、組織内のヘルプデスク メンバーに割り当てることができるカスタムヘルプデスク ロールを作成します。

手順

ステップ1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] で、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [権限 (Role)] をクリックします。

ステップ2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ3 [アプリケーション (Application)] ドロップダウンリストから、このロールに割り当てるアプリケーションを選択します。たとえば、[Cisco CallManager Administration] を選択します。

ステップ4 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ5 新しいロールの [名前 (Name)] を入力します。たとえば、**Help Desk** です。

ステップ6 [読み込みおよび更新権限 (Read and Update Privileges)] の下で、ヘルプデスク ユーザに割り当てる権限を選択します。たとえば、ヘルプデスク メンバーがユーザおよび電話を追加できるようにする場合は、[ユーザ (User)] Web ページと [電話 (Phone)] Web ページの [読み込み (Read)] および [更新 (Update)] チェック ボックスをオンにします。

ステップ7 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[カスタム ヘルプ デスク アクセス コントロール グループの作成 \(27 ページ\)](#)

カスタム ヘルプ デスク アクセス コントロール グループの作成

始める前に

[カスタム ヘルプ デスク ロールの作成 \(26 ページ\)](#)

手順

ステップ1 Cisco Unified CM の管理で、[ユーザ管理 (User Management)]>[ユーザ設定 (User Settings)]>[アクセス コントロール グループ (Access Control Group)] の順に選択します。

ステップ2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ3 アクセス コントロール グループの名前を入力します。たとえば、「**Help_Desk**」と入力します。

ステップ4 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[アクセス コントロール グループへのヘルプ デスク ロールの割り当て \(27 ページ\)](#)

アクセス コントロール グループへのヘルプ デスク ロールの割り当て

次の手順を実行して、ヘルプ デスク ロールからの権限を持つヘルプ デスク アクセス コントロール グループを設定します。

始める前に

[カスタム ヘルプ デスク アクセス コントロール グループの作成 \(27 ページ\)](#)

手順

ステップ1 Cisco Unified CM の管理で、[ユーザ管理 (User Management)]>[ユーザ設定 (User Settings)]>[アクセス コントロール グループ (Access Control Group)] を選択します。

ステップ2 [検索 (Find)] をクリックし、ヘルプ デスク用に作成したアクセス コントロール グループを選択します。

[アクセス コントロール グループの設定 (Access Control Group Configuration)] ウィンドウが開きます。

ステップ3 [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスで、[アクセス コントロール グループに権限を割り当て (Assign Role to Access Control Group)] オプションを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

■ アクセス コントロール グループへのヘルプ デスク メンバーの割り当て

[ロールの検索/一覧表示 (Find and List Roles)] ポップアップが表示されます。

ステップ4 [グループに権限を割り当て (Assign Role to Group)] ボタンをクリックします。

ステップ5 [検索 (Find)] をクリックし、ヘルプ デスク ロールを選択します。

ステップ6 [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。

ステップ7 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[アクセス コントロール グループへのヘルプ デスク メンバーの割り当て \(28 ページ\)](#)

アクセス コントロール グループへのヘルプ デスク メンバーの割り当て

始める前に

[アクセス コントロール グループへのヘルプ デスク ロールの割り当て \(27 ページ\)](#)

手順

ステップ1 Cisco Unified CM の管理で、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [アクセス コントロール グループ (Access Control Group)] を選択します。

ステップ2 [検索 (Find)] をクリックし、作成したカスタム ヘルプ デスク アクセス コントロール グループを選択します。

ステップ3 次のいずれかの手順を実行します。

- ヘルプ デスク チームのメンバーがエンドユーザとして設定されている場合は、[グループにエンド ユーザを追加 (Add End Users to Group)] をクリックします。
- ヘルプ デスク チームのメンバーがアプリケーションユーザとして設定されている場合は、[グループにアプリケーション ユーザを追加 (Add App Users to Group)] をクリックします。

ステップ4 [検索 (Find)] をクリックし、ヘルプ デスク ユーザを選択します。

ステップ5 [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。

ステップ6 [保存 (Save)] をクリックします。

Cisco Unified Communications Manager が、作成したカスタム ヘルプ デスク ロールの権限をヘルプ デスク チームのメンバーに割り当てます。

アクセス コントロール グループの削除

アクセス コントロール グループ全体を削除するには、次の手順を使用します。

始める前に

アクセス コントロール グループを削除すると、Cisco Unified Communications Manager がデータベースからすべてのアクセス コントロール グループ データを削除します。アクセス コントロール グループを使用しているロールが判明していることを確認します。

手順

ステップ1 [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [アクセス コントロール グループ (Access Control Group)] の順に選択します。

[アクセス コントロール グループの検索と一覧表示 (Find and List Access Control Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ2 削除するアクセス コントロール グループを検索します。

ステップ3 削除するアクセス ポイント グループの名前をクリックします。

選択したアクセス コントロール グループが表示されます。このアクセス コントロール グループ内のユーザがアルファベット順に一覧表示されます。

ステップ4 アクセス コントロール グループ全体を削除するには、[削除 (Delete)] をクリックします。

アクセス コントロール グループを削除すると元に戻せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。

ステップ5 アクセス コントロール グループを削除するには、[OK] をクリックします。アクションをキャンセルするには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。[OK] をクリックすると、Cisco Unified Communications Manager がデータベースからアクセス コントロール グループを削除します。

既存の OAuth 更新トークンの取り消し

既存の OAuth 更新トークンを取り消すには、AXL API を使用します。たとえば、ある従業員が退社した場合、この API を使用してその従業員の現在の更新トークンを取り消し、その従業員が新しいアクセストークンを取得したり、企業アカウントへログインできないようにすることができます。API は、AXL クレデンシャルで保護されている REST ベースの API です。任意のコマンドラインツールを使用して API を呼び出すことができます。次のコマンドは、更新トークンを取り消すために使用できる cURL コマンドの例を示しています。

```
curl -k -u "admin:password" https://<UCMaddress:8443/sspss/token/revoke?user_id=<end_user>
```

引数の説明

- admin:password は、Cisco Unified Communications Manager の管理者アカウントのログイン ID とパスワードです。
- UCMaddress は、Cisco Unified Communications Manager のパブリッシャノードの FQDN または IP アドレスです。

■ 非アクティブなユーザ アカウントの無効化

- `end_user` は、更新トークンを取り消すユーザのユーザ ID です。

非アクティブなユーザ アカウントの無効化

Cisco Database Layer Monitor サービスを使用して非アクティブなユーザ アカウントを無効にするには、次の手順を実行します。

Cisco Database Layer Monitor は、指定日数内に Cisco Unified Communications Manager にログインしていない場合、スケジュールされたメンテナンススク時にユーザ アカウントステータスを非アクティブに変更します。無効にされたユーザは、その後の監査ログで自動的に監査対象になります。

始める前に

Cisco Database Layer Monitor サービスで選択したサーバの [メンテナンス時間 (Maintenance Time)] を入力します ([システム] > [サービス パラメータ])。

手順

ステップ1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[システム] > [サービス パラメータ] の順に選択します。

ステップ2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストボックスからサーバを選択します。

ステップ3 [サービス (Service)] ドロップダウンリストボックスから [Cisco Database Layer Monitor] パラメータを選択します。

ステップ4 [Advanced] をクリックします。

ステップ5 [この期間未使用的ユーザアカウントを無効化する (Disable User Accounts unused for (days))] フィールドに、日数を入力します。たとえば、90 とします。システムはこの入力された値を、非アクティブとしてアカウントの状態を宣言するためのしきい値として使用します。自動無効化をオフにするには、値を 0 と入力します。

(注) 必須フィールドです。デフォルトおよび最小値は 0 で、単位は日数です。

ステップ6 [保存 (Save)] をクリックします。

非アクティブなまま設定された日数（たとえば 90 日間）が経過すると、ユーザは無効になります。監査ログにエントリが作成され、次のメッセージが表示されます。「<userID> ユーザは非アクティブとマークされています (<userID> user is marked inactive)」。

リモートアカウントの設定

シスコサポートがトラブルシューティングのためにご使用のシステムに一時的にアクセスできるよう、Unified Communications Manager でリモートアカウントを設定します。

手順

- ステップ1** [Cisco Unified オペレーティングシステムの管理 (Cisco Unified Operating System Administration)] で、[サービス (Services)] > [リモートサポート (Remote Support)] を選択します。
- ステップ2** [アカウント名 (Account Name)] フィールドに、リモートアカウントの名前を入力します。
- ステップ3** [アカウントの有効期限 (Account Duration)] フィールドに、アカウントの有効期限を日数で入力します。
- ステップ4** [保存 (Save)] をクリックします。
システムは、暗号化パス フレーズを生成します。
- ステップ5** シスコのサポート担当者に連絡して、リモートサポートアカウント名とパス フレーズを提供します。

標準ロールとアクセス コントロール グループ

次の表は、Cisco Unified Communications Manager にあらかじめ設定されている標準ロールおよびアクセス コントロール グループの概要です。標準ロールが持つ特権はデフォルトで設定されています。また、標準ロールに関連付けられたアクセス コントロール グループも、デフォルトで設定されています。

標準ロール、および標準ロールに関連付けられたアクセス コントロール グループの両方で、特権またはロールの割り当てを編集できません。

表 2: 標準ロール、特権 およびアクセス コントロール グループ

標準ロール	ロールに対する特権およびリソース	関連付けられた標準アクセス コントロール グループ
標準 AXL API アクセス	AXL データベース API へのアクセスを許可します。	標準 CCM スーパー ユーザ
標準 AXL API ユーザ	AXL API を実行するログイン権限を付与します。	
標準 AXL 読み取り専用 API アクセス	AXL 読み取り専用 API (API の一覧表示、API の取得、SQL Query API の実行) の実行をデフォルトで許可します。	
標準管理 Rep Tool 管理	Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting (CAR) の表示および設定が可能になります。	標準 CAR 管理ユーザ、標準 CCM スーパー ユーザ

標準ロールとアクセス コントロール グループ

標準ロール	ロールに対する特権およびリソース	関連付けられた標準アクセス コントロール グループ
標準監査ログ管理	<p>監査ロギング機能の次のタスクを実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> Cisco Unified Serviceability の [監査ログ設定 (Audit Log Configuration)] ウィンドウでの、監査ロギングの表示および設定 Cisco Unified Serviceability でのトレースの表示と設定、および Real-Time Monitoring Tool の監査ログ機能向けトレースの収集 Cisco Unified Serviceability の Cisco Audit Event Service の表示、開始、停止 RTMT での、関連付けられたアートの表示および更新 	標準監査ユーザ
標準 CCM 管理ユーザ	Cisco Unified Communications Manager の管理へのログイン権限を付与します。	標準CCM管理ユーザ、標準CCMゲートウェイ管理、標準CCM電話管理、標準CCM読み取り専用、標準CCMサーバモニタリング、標準CCMスーパーユーザ、標準CCMサーバメンテナス、標準パケットスニファユーザ
[標準CCMエンドユーザ (Standard CCM End Users)]	Cisco Unified Communications セルフケアポータルにログインする権限をエンドユーザに付与します。	[標準CCMエンドユーザ (Standard CCM End Users)]

標準ロール	ロールに対する特権およびリソース	関連付けられた標準アクセス コントロール グループ
標準 CCM 機能管理	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理で、次のタスクを実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 一括管理ツールによる次の項目の表示、削除、挿入 <ul style="list-style-type: none"> • クライアント関連のコードと強制承認コード • コール ピックアップ グループ • Cisco Unified Communications Manager の管理での次の項目の表示および設定 <ul style="list-style-type: none"> • クライアント関連のコードと強制承認コード • コール パーク • コール ピックアップ • ミートミーの番号またはパートーン • メッセージ受信 • Cisco Unified IP Phone サービス • ボイスメールパイロット、ボイスメールポート ウィザード、ボイスメールポート、ボイスメールプロファイル 	標準 CCM サーバメンテナンス
標準 CCM ゲートウェイ管理	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理で、次のタスクを実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 一括管理ツールによるゲートウェイテンプレートの表示および設定 • ゲートキーパー、ゲートウェイ、およびトランクの表示および設定 	標準 CCM ゲートウェイ管理

標準ロールとアクセス コントロール グループ

標準ロール	ロールに対する特権およびリソース	関連付けられた標準アクセス コントロール グループ
標準 CCM 電話管理	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理で、次のタスクを実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 一括管理ツールによる電話の表示とエクスポート • 一括管理ツールによるユーザデバイスプロファイルの表示と挿入 • Cisco Unified Communications Manager の管理での次の項目の表示および設定 <ul style="list-style-type: none"> • BLF 短縮ダイヤル • CTI ルート ポイント • デフォルトデバイスプロファイルまたはデフォルトプロファイル • 電話番号、および回線の状態 • ファームウェア ロード情報 • 電話ボタンテンプレートまたはソフトキー テンプレート • 電話機 • [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [ボタン項目を変更 (Modify Button Items)] をクリックすることによる、特定の電話に対する電話ボタンの情報の並べ替え 	標準 CCM 電話管理

標準ロール	ロールに対する特権およびリソース	関連付けられた標準アクセス コントロール グループ
標準 CCM ルート プラン計画管理	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理で、次のタスクを実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アプリケーション ダイヤル ルールの表示および設定 • コーリング サーチ スペースおよびパーティションの表示および設定 • ダイヤル ルール パターンを含む ダイヤル ルールの表示および設定 • ハントリスト、ハント パイロット、回線グループの表示および設定 • ルート フィルタ、ルート グループ、ルート ハントリスト、ルート リスト、ルート パターン、ルート プラン レポートの表示および設定 • 時間帯およびスケジュールの表示および設定 • トランスレーション パターンの表示および設定 	

標準ロールとアクセス コントロール グループ

標準ロール	ロールに対する特権およびリソース	関連付けられた標準アクセス コントロール グループ
標準 CCM サービス管理	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理で、次のタスクを実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次の項目を表示および設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • アナンシェータ、会議ブリッジ、トランスコーダ • オーディオ ソースおよび MOH サーバ • メディア リソース グループ およびメディア リソース グループ リスト • Media Termination Point; メディア ターミネーション ポイント • Cisco Unified Communications Manager Assistant ウィザード • 一括管理ツールの [マネージャの削除 (Delete Managers)]、[マネージャ/アシスタントの削除 (Delete Managers/Assistants)] および [マネージャ/アシスタントの挿入 (Insert Managers/Assistants)] ウィンドウでの表示および設定ができます。 	標準 CCM サーバメンテナンス

標準ロール	ロールに対する特権およびリソース	関連付けられた標準アクセス コントロール グループ
標準 CCM システム管理	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理で、次のタスクを実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次の項目を表示および設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • 代替ルーティング (AAR) グループの自動化 • Cisco Unified Communications Manager (Cisco Unified CM) および Cisco Unified Communications Manager のグループ • 日時グループ • デバイス デフォルト • デバイス プール • エンタープライズパラメータ • エンタープライズ電話の設定 • ロケーション • Network Time Protocol (NTP) サーバ • プラグイン • Skinny Call Control Protocol (SCCP) または Session Initiation Protocol (SIP) を実行する電話用のセキュリティプロファイル、SIP トランク用のセキュリティプロファイル • Survivable Remote Site Telephony (SRST) の参照 • サーバ • 一括管理ツールの、[ジョブ ジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウでの表示と設定 	標準 CCM サーバメンテナンス

標準ロールとアクセス コントロール グループ

標準ロール	ロールに対する特権およびリソース	関連付けられた標準アクセス コントロール グループ
標準 CCM ユーザ権限管理	Cisco Unified Communications Manager の管理で、アプリケーションユーザの表示および設定ができます。	
標準 CCMADMIN 管理	CCMAdmin システムのすべての面を利用できます。	
標準 CCMADMIN 管理	Cisco Unified Communications Manager の管理および一括管理ツールのすべての項目を表示および設定できます。	標準 CCM スーパー ユーザ
標準 CCMADMIN 管理	Dialed Number Analyzer の情報を表示および設定できます。	
標準 CCMADMIN 読み取り専用	すべての CCMAdmin リソースの読み取りを許可します。	
標準 CCMADMIN 読み取り専用	Cisco Unified Communications Manager の管理および一括管理ツールの項目を表示できます。	標準 CCM ゲートウェイ管理、標準 CCM 電話管理、標準 CCM 読み取り専用、標準 CCM サーバメンテナンス、標準 CCM サーバモニタリング
標準 CCMADMIN 読み取り専用	Dialed Number Analyzer で、ルーティング設定の分析ができます。	
標準 CCMUSER 管理	Cisco Unified Communications セルフケアポータルへのアクセスを許可します。	[標準CCMエンドユーザ (Standard CCM End Users)]
標準 CTI 通話モニタリング許可	CTI アプリケーションまたはデバイスでコールをモニタできます。	標準 CTI 通話モニタリング許可
標準 CTI コールパーク モニタリング許可	CTI アプリケーションまたはデバイスでコールパークをモニタできます。	標準 CTI コールパーク モニタリング許可
標準 CTI 通話録音許可	CTI アプリケーション/デバイスで通話を録音できます。	標準 CTI 通話録音許可
標準 CTI 発信者番号の変更許可	CTI アプリケーションが発信者番号を通話中に変更できます。	標準 CTI 発信者番号の変更許可
標準CTIによるすべてのデバイスの制御	CTI で制御可能なすべてのデバイスを制御できます。	標準CTIによるすべてのデバイスの制御

標準ロール	ロールに対する特権およびリソース	関連付けられた標準アクセス コントロール グループ
標準 CTI 接続された転送と会議をサポートする電話の制御許可	接続された転送および会議をサポートするすべての CTI デバイスを制御できます。	標準 CTI 接続された転送と会議をサポートする電話の制御許可
標準 CTI ロールオーバー モードをサポートする電話の制御許可	ロールオーバー モードをサポートするすべての CTI デバイスを制御できます。	標準 CTI ロールオーバー モードをサポートする電話の制御許可
標準 CTI SRTP 重要素材の受信許可	CTI アプリケーションが、SRTP を使う重要な素材にアクセスしたり、その素材を配信したりできるようにします。	標準 CTI SRTP 重要素材の受信許可
標準 CTI 対応	CTI アプリケーションの制御を可能にします。	標準 CTI 対応
標準 CTI セキュア接続	Cisco Unified Communications Manager へのセキュアな CTI 接続が可能になります。	標準 CTI セキュア接続
標準CUReporting	アプリケーションユーザが、さまざまなソースからレポートを作成できます。	
標準CUReporting	Cisco Unified Reporting での、レポートの表示、ダウンロード、作成、およびアップロードができます。	標準CCM 管理ユーザ、標準CCM スーパー ユーザ
標準 EM 認証プロキシ権限	アプリケーションで使用する Cisco Extension Mobility (EM) の認証権限を管理します。この権限は、(Cisco Unified Communications Manager Assistant や Cisco Web Dialer などの) Cisco Extension Mobility と対話するすべてのアプリケーションユーザに必要です。	標準CCM スーパー ユーザ、標準 EM 認証プロキシ権限
標準パケットスニッフィング	Cisco Unified Communications Manager の管理にアクセスし、パケットスニッフィング (キャプチャ) ができます。	標準パケットスニффァ ユーザ

■ 標準ロールとアクセス コントロール グループ

標準ロール	ロールに対する特権およびリソース	関連付けられた標準アクセス コントロール グループ
標準 RealtimeAndTraceCollection	<p>Cisco Unified Serviceability および Real-Time Monitoring Tool にアクセスし、次の項目を表示および使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Simple Object Access Protocol (SOAP) Serviceability AXL API • SOAP コール レコード API • SOAP 診断ポータル (Analysis Manager) データベース サービス • 監査ログ機能のトレースの設定 • トレース収集などの、Real-Time Monitoring Tool の設定 	標準 RealtimeAndTraceCollection

標準ロール	ロールに対する特権およびリソース	関連付けられた標準アクセス コントロール グループ
標準 SERVICEABILITY	<p>Cisco Unified Serviceability または Real-Time Monitoring Tool で、次のウィンドウを表示および設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [アラーム設定およびアラーム定義 (Alarm Configuration and Alarm Definitions)] (Cisco Unified Serviceability) • [監査トレース (Audit Trace)] (読み取りおよび表示のみ可能なマークが付けられています) • SNMP 関連のウィンドウ (Cisco Unified Serviceability) • [トレースの設定 (Trace Configuration)] および [トレース設定のトラブルシューティング (Troubleshooting of Trace Configuration)] (Cisco Unified Serviceability) • ログパーティションのモニタリング • [アラートの設定 (Alert Configuration)] (RTMT) 、 [プロファイルの設定 (Profile Configuration)] (RTMT) 、および [トレース収集 (Trace Collection)] (RTMT) <p>SOAP Serviceability AXL API、SOAP Call Record API、および SOAP 診断ポータル (Analysis Manager) データベースサービスを表示および使用できます。</p> <p>SOAP コールレコード API については、RTMT Analysis Manager Call Record の権限が、このリソースを介して制御されます。</p> <p>SOAP 診断ポータルデータベースサービスについては、RTMT Analysis Manager Hosting Database アクセスが、このリソースを介して制御されます。</p>	標準 CCM サーバ モニタリング、標準 CCM スーパー ユーザ

標準ロールとアクセス コントロール グループ

標準ロール	ロールに対する特権およびリソース	関連付けられた標準アクセス コントロール グループ
標準 SERVICEABILITY 管理	有用性の管理者は、Cisco Unified Communications Manager の管理に表示されるプラグイン ウィンドウにアクセスでき、このウィンドウからプラグインをダウンロードできます。	
標準 SERVICEABILITY 管理	Dialed Number Analyzer の有用性をすべての面で管理できます。	
標準 SERVICEABILITY 管理	Cisco Unified Serviceability および Real-Time Monitoring Tool のすべての ウィンドウを表示および設定できます ([監査トレース (Audit Trace)] では 表示のみ可能です)。 すべての SOAP Serviceability AXL API を表示および使用できます。	
標準 SERVICEABILITY 読み取り専用	Dialed Number Analyzer のコンポーネントで使用する有用性に関するすべての データを表示できます。	標準 CCM 読み取り専用
標準 SERVICEABILITY 読み取り専用	Cisco Unified Serviceability および Real-Time Monitoring Tool で、設定を 表示できます。 (標準監査ログ管理の 権限により表示される監査設定 ウィン ドウは除きます) SOAP Serviceability AXL API、SOAP Call Record API、および SOAP 診断ポー タル (Analysis Manager) データベース サービスをすべて表示できます。	
標準システム サービス管理	Cisco Unified Serviceability で、サービ スを表示、アクティベート、開始、お よび停止できます。	
標準 SSO 設定管理	SAML SSO の設定をすべての面で管理 できます。	
標準機密アクセス レベル ユーザ	すべての機密アクセス レベル ページ にアクセスできます。	標準 Cisco Call Manager 管理
標準 CCMADMIN 管理	CCMAdmin システムをすべての面で管 理できます。	標準 Cisco Unified CM IM およびプレゼ ンスの管理

標準ロール	ロールに対する特権およびリソース	関連付けられた標準アクセス コントロール グループ
標準 CCMADMIN 読み取り専用	すべての CCMAdmin リソースの読み取りを許可します。	標準 Cisco Unified CM IM およびプレゼンスの管理
標準CUReporting	アプリケーションユーザが、さまざまなソースからレポートを作成できます。	標準 Cisco Unified CM IM およびプレゼンスのレポーティング

■ 標準ロールとアクセス コントロール グループ



第 4 章

エンド ユーザの管理

- エンド ユーザの概要 (45 ページ)
- エンド ユーザ管理タスク (45 ページ)

エンド ユーザの概要

稼働中のシステムを管理する際に、システム内に設定済みのエンド ユーザのリストを更新しなければならない場合があります。次の作業が含まれます。

- 新しいユーザーの設定
- 新しいエンド ユーザの電話機の設定
- エンド ユーザのパスワードまたは PIN の変更
- IM and Presence Service に対するエンド ユーザの有効化

Cisco Unified CM の管理の [エンド ユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで、Unified CM エンド ユーザに関する情報を追加、検索、表示、保守できます。また、[ユーザー/電話のクイック追加 (Quick User/Phone Add)] ウィンドウを使用して、新規エンド ユーザとそのエンド ユーザの新規電話を迅速に設定することもできます。

エンド ユーザ管理タスク

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ユーザ テンプレートの設定 (46 ページ)	ユニバーサル回線テンプレートとデバイス テンプレートを含むユーザ プロファイルまたは機能グループ テンプレートを使用してシステムを設定していない場合は、次のタスクを実行してセットアップします。

■ ユーザ テンプレートの設定

	コマンドまたはアクション	目的
		これらのテンプレートを新しいエンドユーザーに適用することにより、新しいユーザーと電話機を簡単に設定できます。
ステップ2	<p>次の方法のいずれかを使用して新しいエンドユーザーを追加します</p> <ul style="list-style-type: none"> • LDAPからのエンドユーザーのインポート (51 ページ) • エンドユーザーの手動追加 (52 ページ) 	<p>システムが設定済みであり会社の LDAP ディレクトリと同期している場合は、新しいエンドユーザーを LDAP から直接インポートできます。</p> <p>まだ設定していない場合は、エンドユーザーを手動で追加して設定できます。</p>
ステップ3	<p>次のタスクのどちらかを実行することにより、新しいまたは既存のエンドユーザーに電話機を割り当てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • エンドユーザー用の新しい電話機の追加 (54 ページ) • エンドユーザーへの既存の電話機の移動 (55 ページ) 	<p>「新しい電話機の追加」手順に従い、ユニバーサルデバイス テンプレートの設定を使用して、エンドユーザーの新しい電話機を設定できます。</p> <p>また、「移動」手順に従って、すでに設定済みの既存の電話機を割り当てることもできます。</p>
ステップ4	エンドユーザー PIN の変更 (55 ページ)	(オプション) Cisco Unified Communications Manager Administration でエンドユーザーの PIN を変更する。
ステップ5	エンドユーザー パスワードの変更 (56 ページ)	(オプション) Cisco Unified Communications Manager Administration でエンドユーザーのパスワードを変更する。
ステップ6	Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成 (56 ページ)	(オプション) Cisco Unified Communications Manager Administration で個別の Cisco Unity Connection ボイスメールボックスを作成する。

ユーザ テンプレートの設定

次のタスクを実行して、ユーザプロファイルおよび機能グループテンプレートを設定します。新しいエンドユーザーを追加したら、回線およびデバイス設定を使用してすばやくエンドユーザーを設定し、エンドユーザーの電話を設定できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	ユニバーサル回線テンプレートの設定 (47 ページ)	電話番号に一般的に適用される共通設定を使用して、ユニバーサル回線テンプレートを設定します。
ステップ2	ユニバーサルデバイステンプレートの設定 (48 ページ)	電話に一般的に適用される共通設定を使用して、ユニバーサルデバイステンプレートを設定します。
ステップ3	ユーザプロファイルの設定 (49 ページ)	ユニバーサル回線テンプレートとユニバーサルデバイステンプレートをユーザプロファイルに割り当てます。セルフプロビジョニング機能を設定している場合は、このプロファイルを使用するユーザに対してセルフプロビジョニングを有効化できます。
ステップ4	機能グループテンプレートの設定 (51 ページ)	機能グループテンプレートにユーザプロファイルを割り当てます。LDAP同期ユーザの場合は、機能グループテンプレートによってユーザプロファイル設定がエンドユーザに関連付けられます。

ユニバーサル回線テンプレートの設定

ユニバーサル回線テンプレートを使用すると、新しく割り当てられたディレクトリ番号に共通の設定を簡単に適用できます。さまざまなユーザグループのニーズに合わせて、さまざまなテンプレートを設定します。

手順

- ステップ1** Cisco Unified CM の管理で、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ/電話の追加 (User/Phone Add)] > [ユニバーサル回線テンプレート (Universal Line Template)] を選択します。
- ステップ2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ3** [ユニバーサル回線テンプレートの設定 (Universal Line Template Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ4** グローバルダイヤルプランのレプリケーションを導入している場合は、代替番号を使用して、エンタープライズの代替番号と [+ e.i number] セクションを展開し、次の手順を実行します。
- [エンタープライズの代替番号の追加 (add Enterprise number)] ボタンまたは [+E.164 代替番号の追加 (Add +E.164 Alternate Number)] ボタンをクリックします。

ユニバーサル デバイス テンプレートの設定

- b) 代替番号に割り当てるために使用する番号マスクを追加します。たとえば、4桁の内線番号では、エンタープライズ番号 mask として 5 XXXX、1972555XXXX を +E: 164 の代替番号マスクとして使用できます。
- c) 代替番号を割り当てるパーティションを割り当てます。
- d) ILS を通じてこの番号を通知する場合は、[グローバルにアドバタイズする] チェックボックスをオンにします。アドバタイズされたパターンを使用して、一定範囲の一連の代替番号を要約している場合は、個々の代替番号をアドバタイズする必要はありません。
- e) [Pstn フェールオーバー (pstn failover)] セクションを展開して、通常のコールルーティングが失敗した場合に使用する pstn フェールオーバーとして、エンタープライズ番号または+E の代替番号を選択します。

ステップ5 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[ユニバーサル デバイス テンプレートの設定 \(48 ページ\)](#)

ユニバーサル デバイス テンプレートの設定

ユニバーサルデバイステンプレートは、簡単に構成設定を新しい構成のデバイスに適用できます。プロビジョニングされたデバイスは、ユニバーサルデバイステンプレートの設定を使用します。さまざまなユニットテンプレートを構成して、さまざまなユーザグループのニーズを満たすことができます。また、設定したプロファイルをこのテンプレートに割り当てることもできます。

始める前に

[ユニバーサル回線テンプレートの設定 \(47 ページ\)](#)

手順

ステップ1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[ユーザの管理 (User Management)] > [ユーザ/電話の追加 (User/Phone Add)] > [ユニバーサル デバイス テンプレート (Universal Device Template)] を選択します。

ステップ2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ3 次の必須フィールドに入力します。

- a) テンプレートの説明を入力します。
- b) ドロップダウンリストからデバイスプールのタイプを選択します。
- c) ドロップダウンリストからデバイスセキュリティプロファイルを選択します。
- d) ドロップダウンリストからSIPプロファイルを選択します。
- e) ドロップダウンリストから電話ボタンテンプレートを選択します。

ステップ4 ユニバーサル デバイス テンプレートの設定のウィンドウで残りのフィールドをすべて入力します。フィールドの説明については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ5 電話の設定で、以下のオプションフィールドを入力します。

- a) 共通の電話プロファイルを設定した場合は、該当するプロファイルを分配します。
- b) 共通デバイス設定を設定している場合は、設定を割り当てます。
- c) 機能制御ポリシーを設定した場合は、ポリシーを割り当てます。

ステップ6 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[ユーザ プロファイルの設定 \(49 ページ\)](#)

ユーザ プロファイルの設定

ユーザプロファイルを使用して、ユニバーサルラインとユニバーサルデバイステンプレートをユーザに割り当てます。ユーザのグループごとに複数のユーザプロファイルを設定します。このサービスプロファイルを使用するユーザに対してセルフプロビジョニングを有効にすることもできます。

始める前に

[ユニバーサルデバイステンプレートの設定 \(48 ページ\)](#)

手順

ステップ1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [ユーザ プロファイル (User Profile)]

ステップ2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ3 ユーザ プロファイルの [名前 (Name)] および [説明 (Description)] を入力します。

ステップ4 [ユニバーサルデバイステンプレート (Universal Device Template)] を、ユーザの [デスク フォン (Desk Phones)]、[モバイルおよびデスクトップ デバイス (Mobile and Desktop Devices)]、および [リモート接続先/デバイス プロファイル (Remote Destination/Device Profiles)] に割り当てます。

ステップ5 [ユニバーサル回線テンプレート (Universal Line Template)] をこのユーザ プロファイルのユーザの電話回線に適用するために割り当てます。

ステップ6 このユーザ プロファイルのユーザに自分の電話をプロビジョニングするセルフプロビジョニング機能の使用を許可するには、次の手順を実行します

- a) [エンドユーザの電話機のプロビジョニングを許可 (Allow End User to Provision their own phones)] のチェックボックスをオンにします。
- b) [エンドユーザのプロビジョニングする電話数を制限 (Limit Provisioning once End User has this many phones)] フィールドに、ユーザがプロビジョニングできる電話の最大数を入力します。最大値は 20 です。

■ ユーザ プロファイルの設定

ステップ 7 このユーザ プロファイルに関連付けられた Cisco Jabber ユーザがモバイルおよびリモートアクセス (MRA) 機能を使用できるようにするには、[モバイルおよびリモートアクセスの有効化 (Enable Mobile and Remote Access)] チェック ボックスをオンにします。

(注) デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。このチェックボックスをオフにすると、[Jabber ポリシー (Jabber Policies)] セクションが無効になり、サービス クライアント ポリシー オプションは、デフォルトで選択されません。

(注) この設定は、Cisco Jabber ユーザの場合にのみ必須です。非 Jabber ユーザは、この設定がなくても MRA を使用できます。MRA 機能は、Jabber MRA ユーザにのみ適用され、他のエンドポイントまたはクライアントには適用されません。

ステップ 8 このユーザ プロファイルに Jabber ポリシーを割り当てます。[Jabber デスクトップクライアントポリシー (Jabber Desktop Client Policy)] と [Jabber モバイルクライアントポリシー (Jabber Mobile Client Policy)] のドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。

- サービスなし：このポリシーは、すべての Jabber サービスへのアクセスを禁止します。
- [IM & Presence のみ (IM & Presence only)]：このポリシーは、インスタント メッセージとプレゼンス機能だけを有効にします。
- [IM とプレゼンス、音声とビデオ コール (IM & Presence, Voice and Video calls)]：このポリシーは音声やビデオ デバイスを使うすべてのユーザーに対して、インスタント メッセージ、プレゼンス、ボイスメールと会議機能を有効化します。これがデフォルトのオプションです。

(注) Jabber デスクトップクライアントには Windows ユーザ用 Cisco Jabber および Mac ユーザ用 Cisco Jabber が含まれています。Jabber モバイルクライアントには、iPad および iPhone ユーザ用 Cisco Jabber および Android ユーザ用 Cisco Jabber が含まれています。

ステップ 9 このユーザ プロファイルのユーザーが Cisco Unified Communications セルフケア ポータルで Extension Mobility または Extension Mobility Cross Cluster の最大ログイン時間を設定するには、[エンドユーザーにエクステンションモビリティの最大ログイン時間の設定を許可する (Allow End User to set their Extension Mobility maximum login time)] チェック ボックスをオンにします。

(注) デフォルトでは [エンドユーザーにエクステンションモビリティの最大ログイン時間の設定を許可する (Allow End User to set their Extension Mobility maximum login time)] チェック ボックスはオフになっています。

ステップ 10 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[機能グループ テンプレートの設定 \(51 ページ\)](#)

機能グループ テンプレートの設定

機能グループテンプレートは、プロビジョニングされたユーザの電話、回線、および機能を迅速に設定できるようにすることで、システムの導入をサポートします。企業の LDAP ディレクトリからユーザを同期している場合は、ディレクトリからユーザを同期させるユーザプロファイルおよびサービスプロファイルを使用して機能グループテンプレートを設定します。このテンプレートを使用して、同期されたユーザに IM and Presence Service を有効にすることもできます。

手順

ステップ1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ/電話の追加 (User/Phone Add)] > [機能グループ テンプレート (Feature Group Template)] を選択します。

ステップ2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ3 機能グループテンプレートの名前および説明を入力します。

ステップ4 このテンプレートを使用するすべてのユーザのホームクラスタとしてローカルクラスタを使用する場合は、[ホームクラスタ (Home Cluster)] チェックボックスをオンにします。

ステップ5 このテンプレートを使用するユーザがインスタンスマッセージおよびプレゼンス情報を交換できるようにするには、Unified CM IM and Presence のユーザを有効にするチェックボックスをオンにします。

ステップ6 ドロップダウンメニューから、サービスプロファイルおよびユーザプロファイルを選択します。

ステップ7 [機能グループテンプレートの設定 (Feature Group Template Configuration)] ウィンドウの残りのフィールドに入力します。フィールドの説明については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ8 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

新規エンドユーザを追加します。システムが会社の LDAP ディレクトリと統合されている場合は、LDAP ディレクトリから直接ユーザをインポートできます。そうでない場合は、手動でエンドユーザを作成します。

- [LDAP からのエンドユーザのインポート \(51 ページ\)](#)
- [エンドユーザの手動追加 \(52 ページ\)](#)

LDAP からのエンドユーザのインポート

社内 LDAP ディレクトリから新しいエンドユーザを手動でインポートするには、次の手順に従います。LDAP 同期設定に、機能グループテンプレートとユーザプロファイル (ユニバ

■ エンド ユーザの手動追加

サル回線テンプレート、ユニバーサル デバイス テンプレートを含む)、および DN プールが含まれている場合、インポート プロセスによりエンド ユーザとプライマリ エクステンションが自動的に設定されます。



(注)

初回同期の実行後には、新しい設定（たとえば、機能グループテンプレートの追加）を LDAP ディレクトリ同期に追加することはできません。既存の LDAP 同期を編集する場合は、一括管理を使用するか、または新しい LDAP 同期を設定する必要があります。

始める前に

この手順を開始する前に、Cisco Unified Communications Manager が社内の LDAP ディレクトリとすでに同期していることを確認します。LDAP 同期には、ユニバーサル回線テンプレートおよびユニバーサル デバイス テンプレートと機能グループ テンプレートが含まれている必要があります。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM の管理で、[システム (System)] > [LDAP (LDAP)] > [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)] を選択します。

ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックし、ユーザーの追加先 LDAP ディレクトリを選択します。

ステップ 3 [完全同期を実施 (Perform Full Sync)] をクリックします。

Cisco Unified Communications Manager が、外部の LDAP ディレクトリと同期します。LDAP ディレクトリ内の新しいエンド ユーザが Cisco Unified Communications Manager データベースにインポートされます。

次のタスク

セルフプロビジョニングが有効になっている場合、エンド ユーザがセルフプロビジョニング自動音声応答 (IVR) を使用して新しい電話機をプロビジョニングできます。有効になっていない場合は、次のタスクのいずれかを実行して、電話機をエンド ユーザに割り当てます。

- エンド ユーザ用の新しい電話機の追加 (54 ページ)
- エンド ユーザへの既存の電話機の移動 (55 ページ)

エンド ユーザの手動追加

次の手順を実行して、新しいエンド ユーザを追加し、そのエンド ユーザをアクセスコントロール グループとプライマリ 回線内線番号を指定して設定します。

始める前に

ユニバーサル回線テンプレートを含むユーザプロファイルが設定されていることを確認します。新しい内線番号を設定する必要がある場合は、Cisco Unified Communications Managerでユニバーサル回線テンプレートの設定を使用してプライマリ内線番号を設定します。

手順

-
- ステップ1** Cisco Unified CM の管理で、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ/電話の追加 (User/Phone Add)] > [ユーザ/電話のクイック追加 (Quick User/Phone Add)] を選択します。
- ステップ2** ユーザの [ユーザ ID (User ID)] と [姓 (Last Name)] を入力します。
- ステップ3** [機能グループテンプレート (Feature Group Template)] ドロップダウンリストで、機能グループテンプレートを選択します。
- ステップ4** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ5** [ユーザプロファイル (User Profile)] ドロップダウンリストで、選択したユーザプロファイルにユニバーサル回線テンプレートが含まれていることを確認します。
- ステップ6** [アクセスコントロールグループメンバーシップ (Access Control Group Membership)] セクションで、[+] アイコンをクリックします。
- ステップ7** [ユーザの所属グループ (User is a member of)] ドロップダウンリストで、アクセスコントロールグループを選択します。
- ステップ8** [プライマリ内線番号 (Primary Extension)] の下で、[+] アイコンをクリックします。
- ステップ9** [内線番号 (Extension)] ドロップダウンリストで、[(使用可能) (available)] として表示されている DN を選択します。
- ステップ10** すべての回線内線番号が [(使用済み) (used)] と表示されている場合は、次の手順を実行します。
- [新規... (New...)] ボタンをクリックします。
[新規内線の追加 (Add New Extension)] ポップアップが表示されます。
 - [電話番号 (Directory Number)] フィールドに、新しい回線内線番号を入力します。
 - [回線テンプレート (Line Template)] ドロップダウンリストボックスで、ユニバーサル回線テンプレートを選択します。
 - [OK] をクリックします。
Cisco Unified Communications Manager が、ユニバーサル回線テンプレートの設定を使用して電話番号を設定します。
- ステップ11** (オプション) [ユーザ/電話のクイック追加設定 (Quick User/Phone Add Configuration)] ウィンドウで、追加のフィールドに値を入力します。
- ステップ12** [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

次の手順のいずれかを実行して、このエンドユーザーに電話機を割り当てます。

■ エンドユーザ用の新しい電話機の追加

- エンドユーザ用の新しい電話機の追加 (54 ページ)
- エンドユーザへの既存の電話機の移動 (55 ページ)

エンドユーザ用の新しい電話機の追加

次の手順を実行して、新しいエンドユーザまたは既存のエンドユーザ用の新しい電話機を追加します。エンドユーザのユーザプロファイルにユニバーサルデバイステンプレートが含まれていることを確認します。Cisco Unified Communications Manager が、ユニバーサルデバイステンプレートの設定を使用して電話機を設定します。

始める前に

次の手順のいずれかを実行して、エンドユーザを追加します。

- エンドユーザの手動追加 (52 ページ)
- LDAP からのエンドユーザのインポート (51 ページ)

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[ユーザ管理 (User Management)]>[ユーザ/電話の追加 (User/Phone Add)]>[ユーザ/電話のクイック追加 (Quick User/Phone Add)] を選択します。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックして、新しい電話機を追加するユーザを選択します。
- ステップ 3** [デバイスの管理 (Manage Devices)] ボタンをクリックします。
[デバイスの管理 (Manage Devices)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [電話の新規追加 (Add New Phone)] をクリックします。
[ユーザに電話を追加 (Add Phone to User)] ポップアップが表示されます。
- ステップ 5** [製品タイプ (Product Type)] ドロップダウンリストで、電話機モデルを選択します。
- ステップ 6** [デバイスプロトコル (Device Protocol)] ドロップダウンで、プロトコルとして [SIP] または [SCCP] を選択します。
- ステップ 7** [デバイス名 (Device Name)] テキストボックスに、デバイスの MAC アドレスを入力します。
- ステップ 8** [ユニバーサルデバイステンプレート (Universal Device Template)] ドロップダウンリストで、ユニバーサルデバイステンプレートを選択します。
- ステップ 9** 電話機が拡張モジュールをサポートしている場合は、展開する拡張モジュールの数を入力します。
- ステップ 10** エクステンションモビリティを使用して電話機にアクセスするには、[エクステンションモビリティ内 (In Extension Mobility)] チェック ボックスをオンにします。
- ステップ 11** [電話の追加 (Add Phone)] をクリックします。
[電話の新規追加 (Add New Phone)] ポップアップが閉じます。Cisco Unified Communications Manager が、電話機をユーザに追加し、ユニバーサルデバイステンプレートを使用してその電話機を設定します。

- ステップ12** 電話機の設定に追加の編集を加えるには、対応する鉛筆アイコンをクリックして、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで電話機を開きます。

エンドユーザへの既存の電話機の移動

次の手順を実行して、既存の電話機を新しいまたは既存のエンドユーザに移動します。

手順

- ステップ1** Cisco Unified CM の管理で、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ/電話の追加 (User/Phone Add)] > [ユーザ/電話のクイック追加 (Quick User/Phone Add)] を選択します。
- ステップ2** [検索 (Find)] をクリックして、既存の電話機を移動するユーザを選択します。
- ステップ3** [デバイスの管理 (Manage Devices)] ボタンをクリックします。
- ステップ4** [このユーザに移動する電話の検索 (Find a Phone to Move To This User)] ボタンをクリックします。
- ステップ5** このユーザに移動する電話機を選択します。
- ステップ6** [選択項目の移動 (Move Selected)] をクリックします。

エンドユーザ PIN の変更

手順

- ステップ1** Cisco Unified Communications Manager Administration で、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択します。
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ2** 既存のユーザを選択するには、[ユーザを次の条件で検索 (Find User where)] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索 (Find)] をクリックしてユーザのリストを取得した後、リストからユーザを選択します。
[エンドユーザ設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ3** [PIN] フィールドで、暗号化された既存の PIN をダブルクリックして、新しい PIN を入力します。割り当てられている資格情報ポリシーに指定されている文字数以上 (1 ~ 127 文字) を入力する必要があります。
- ステップ4** [PIN の確認 (Confirm PIN)] フィールドで、既存の暗号化された PIN をダブルクリックし、もう一度、新しい PIN を入力します。
- ステップ5** [保存 (Save)] をクリックします。

■ エンドユーザ パスワードの変更

(注) Cisco Unity Connection の [アプリケーション サーバの設定 (Application Server Configuration)] ウィンドウで[エンドユーザ PIN の同期 (End User Pin synchronization)] チェック ボックスが有効になっている場合は、エクステンションモビリティ、開催中の会議、モバイルコネクト、および Cisco Unity Connection ボイスメールに同じエンドユーザ PIN を使用してログインできます。エンドユーザは、同じ PIN を使用して、エクステンションモビリティにログインし、自分のボイスメールにアクセスできます。

エンドユーザ パスワードの変更

LDAP 認証が有効になっている場合は、エンドユーザ パスワードを変更できません。

手順

- ステップ1** Cisco Unified Communications Manager Administration で、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択します。
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ2** 既存のユーザを選択するには、[ユーザを次の条件で検索 (Find User where)] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索 (Find)] をクリックしてユーザのリストを取得した後、リストからユーザを選択します。
[エンドユーザ設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ3** [パスワード (Password)] フィールドで、暗号化された既存のパスワードをダブルクリックして、新しいパスワードを入力します。割り当てられている資格情報ポリシーに指定されている文字数以上 (1 ~ 127 文字) を入力する必要があります。
- ステップ4** [パスワードの確認 (Confirm Password)] フィールドで、既存の暗号化されたパスワードをダブルクリックし、もう一度、新しいパスワードを入力します。
- ステップ5** [保存 (Save)] をクリックします。

Cisco Unity Connection ボイス メールボックスの作成

始める前に

- Cisco Unified Communications Manager をボイス メッセージング用に設定する必要があります。Cisco Unity Connection を使用するように Cisco Unified Communications Manager を設定する方法については、次で『System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。

<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-installation-and-configuration-guides-list.html>

- デバイスとプライマリ内線番号をエンド ユーザに関連付ける必要があります。
- このセクションで説明する手順を実行する代わりに、Cisco Unity Connection で使用可能なインポート機能を使用できます。インポート機能の使用方法については、『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください

手順

ステップ1 Cisco Unified Communications Manager Administration で、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンド ユーザ (End User)] を選択します。

[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。

ステップ2 既存のユーザを選択するには、[ユーザを次の条件で検索 (Find User where)] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索 (Find)] をクリックしてユーザのリストを取得した後、リストからユーザを選択します。

[エンド ユーザ設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ3 プライマリ内線番号がこのユーザに関連付けられていることを確認します。

(注) プライマリ内線番号を定義する必要があります。そうしなかった場合は、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストに Cisco Unity ユーザ リンクが表示されません。

ステップ4 [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストで、[Cisco Unity ユーザの作成 (Create Cisco Unity User)] リンクを選択してから、[移動 (Go)] をクリックします。

[Cisco Unity ユーザの追加 (Add Cisco Unity User)] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ5 [アプリケーションサーバ (Application Server)] ドロップダウンリストで、Cisco Unity Connection ユーザを作成する Cisco Unity Connection サーバを選択してから、[次へ (Next)] をクリックします。

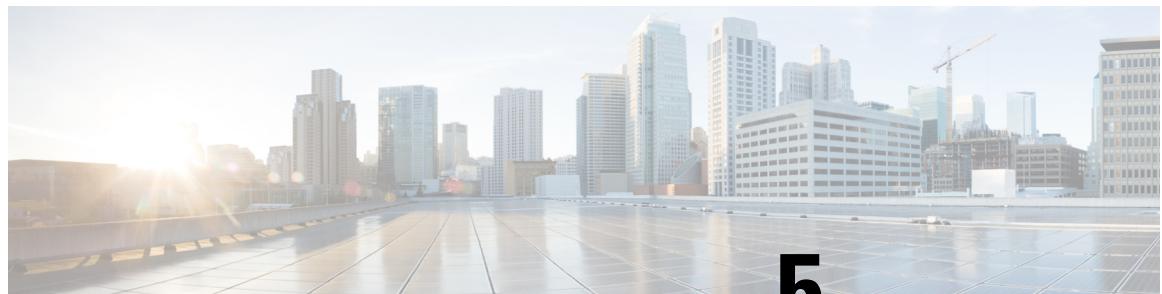
ステップ6 [サブスクライバテンプレート (Subscriber Template)] ドロップダウンリストで、使用するサブスクライバテンプレートを選択します。

ステップ7 [保存 (Save)] をクリックします。

メールボックスが作成されます。[エンド ユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリスト内のリンクが [Cisco Unity ユーザの編集 (Edit Cisco Unity User)] に変化します。これで、Cisco Unity Connection Administration で、作成したユーザを確認できます。

(注) Cisco Unity Connection ユーザと Cisco Unified Communications Manager エンド ユーザを統合した後は、[エイリアス (Alias)] (Cisco Unified CM の管理内のユーザ ID)、[名 (First Name)]、[姓 (Last Name)]、[内線番号 (Extension)] (Cisco Unified CM の管理内のプライマリ内線番号) などの Cisco Unified CM の管理内のフィールドを編集できなくなります。これらのフィールドは、Cisco Unified CM の管理でしか更新できません。

Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成



第 5 章

アプリケーションユーザの管理

- アプリケーションユーザの概要（59 ページ）
- アプリケーションユーザのタスクフロー（60 ページ）

アプリケーションユーザの概要

Cisco Unified CM の管理の [アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウで管理者は、Unified Communications Manager アプリケーションユーザに関する情報を追加、検索、表示、および保守することができます。

Cisco Unified CM の管理には、デフォルトで以下のアプリケーションユーザが設定されています。

- CCMAdministrator
- CCMSysUser
- CCMQRTSecureSysUser
- CCMQRTSysUser
- IPMASecureSysUser
- IPMAsysUser
- WDSecureSysUser
- WDsysUser
- TabSyncSysUser
- CUCService



(注)

Standard CCM Super Users グループの管理者ユーザは、Cisco Unified Communications Manager Administration、Cisco Unified Serviceability、および Cisco Unified Reporting のいずれかにシングルサインオンすることによって、このすべてのアプリケーションにアクセスできます。

アプリケーションユーザのタスク フロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	新規アプリケーションユーザの追加 (60 ページ)	新しいアプリケーションユーザを追加します。
ステップ2	デバイスとアプリケーションユーザの関連付け (61 ページ)	アプリケーションユーザに関連付けるデバイスを割り当てます。
ステップ3	Cisco Unity または Cisco Unity Connection への管理者ユーザの追加 (61 ページ)	Cisco Unity または Cisco Unity Connection に管理者ユーザとしてユーザを追加します。Cisco Unified CM の管理でアプリケーションユーザを設定します。その後で、Cisco Unity または Cisco Unity Connection で、そのユーザの追加の設定を構成します。
ステップ4	アプリケーションユーザ パスワードの変更 (63 ページ)	アプリケーションユーザ パスワードを変更します。
ステップ5	アプリケーションユーザ パスワード クレデンシャル情報の管理 (63 ページ)	関連する認証ルール、関連するクレデンシャルポリシー、アプリケーションユーザの直前のパスワード変更の時刻などのクレデンシャル情報を変更または表示します。

新規アプリケーションユーザの追加

手順

- ステップ1 Cisco Unified CM の管理で、[ユーザの管理 (User Management)] > [アプリケーションユーザ (Application User)] を選択します。
- ステップ2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ3 [アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ4 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[デバイスとアプリケーションユーザーの関連付け（61 ページ）](#)

デバイスとアプリケーションユーザーの関連付け

手順

ステップ1 Cisco Unified CM の管理から、[ユーザ管理（User Management）] > [アプリケーションユーザー（Application User）] を選択します。

[ユーザの検索と一覧表示（Find and List Users）] ウィンドウが表示されます。

ステップ2 既存のユーザを選択するには、[次の条件でユーザを検索（Find User Where）] フィールドに適切なフィルタを指定し、[検索（Find）] を選択してユーザのリストを取得し、リストからユーザを選択します。

ステップ3 [使用可能なデバイス（Available Devices）] リストで、アプリケーションユーザーに関連付けするデバイスを選択し、リストの下にある下向き矢印をクリックします。選択したデバイスが [制御対象のデバイス（Controlled Devices）] リストに移動します。

(注) 使用可能なデバイスのリストを制限するには、[別の電話を検索（Find more Phones）] ボタンまたは[別のルート ポイントを検索（Find more Route Points）] ボタンをクリックします。

ステップ4 [別の電話を検索（Find more Phones）] ボタンをクリックすると、[電話の検索/一覧表示（Find and List Phones）] ウィンドウが表示されます。検索を実行して、このアプリケーションユーザーに関連付ける電話機を検索します。

アプリケーションユーザーに割り当てるデバイスごとに、上記ステップを繰り返します。

ステップ5 [別のルート ポイントを検索（Find more Route Points）] ボタンをクリックすると、[CTI ルート ポイントの検索/一覧表示（Find and List CTI Route Points）] ウィンドウが表示されます。検索を実行して、このアプリケーションユーザーに関連付ける CTI ルート ポイントを検索します。

アプリケーションユーザーに割り当てるデバイスごとに、上記ステップを繰り返します。

ステップ6 [保存（Save）] をクリックします。

Cisco Unity または Cisco Unity Connection への管理者ユーザーの追加

Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unity Connection 7.x 以降を統合する場合は、このセクションで説明する手順を実行する代わりに、Cisco Unity Connection 7.x 以降で使用可能なインポート機能を使用できます。インポート機能の使用方法については、次で Cisco Unity Connection 7.x 以降の『User Moves, Adds, and Changes Guide』を参照してください。

<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unity-connection/products-maintenance-guides-list.html>

Cisco Unity または Cisco Unity Connection への管理者ユーザーの追加

Cisco Unity または Cisco Unity Connection ユーザが Cisco Unified CM アプリケーションユーザーと統合されている場合は、フィールドを編集できません。これらのフィールドは、Cisco Unified Communications Manager Administration でしか更新できません。

Cisco Unity と Cisco Unity Connection は、Cisco Unified Communications Manager からのデータの同期をモニタします。ツールメニューの [Cisco Unity Administration] または [Cisco Unity Connection Administration] で同期時刻を設定できます。

始める前に

Cisco Unity または Cisco Unity Connection にプッシュする予定のユーザーに適切なテンプレートが定義されていることを確認します

[Cisco Unity ユーザの作成 (Create Cisco Unity User)] リンクは、適切な Cisco Unity または Cisco Unity Connection ソフトウェアがインストールされ、設定されている場合にのみ表示されます。Cisco Unity に関する『Cisco Unified Communications Manager Integration Guide』または Cisco Unity Connection に関する『Cisco Unified Communications Manager SCCP Integration Guide』を次で参照してください。

<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unity-connection-products-installation-and-configuration-guides-list.html>

手順

ステップ1 Cisco Unified CM の管理から、[ユーザ管理 (User Management)] > [アプリケーションユーザー (Application User)] を選択します。

ステップ2 既存のユーザーを選択するには、[次の条件でユーザーを検索 (Find User Where)] フィールドに適切なフィルタを指定し、[検索 (Find)] を選択してユーザーのリストを取得し、リストからユーザーを選択します。

ステップ3 [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストで、[Cisco Unity アプリケーションユーザーの作成 (Create Cisco Unity Application User)] リンクを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

[Cisco Unity ユーザの追加 (Add Cisco Unity User)] ダイアログが表示されます。

ステップ4 [アプリケーションサーバ (Application Server)] ドロップダウンリストで、Cisco Unity または Cisco Unity Connection ユーザを作成する Cisco Unity または Cisco Unity Connection サーバを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ5 [アプリケーションユーザー テンプレート (Application User Template)] ドロップダウンリストで、使用するテンプレートを選択します。

ステップ6 [保存 (Save)] をクリックします。

Cisco Unity または Cisco Unity Connection で管理者アカウントが作成されます。[アプリケーションユーザーの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] 内のリンクが [Cisco Unity ユーザの編集 (Edit Cisco Unity User)] に変化します。これで、Cisco Unity Administration または Cisco Unity Connection Administration で作成したユーザーを表示できるようになります。

アプリケーションユーザ パスワードの変更

手順

- ステップ1** Cisco Unified CM の管理から、[ユーザ管理 (User Management)] > [アプリケーションユーザ (Application User)] を選択します。
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ2** 既存のユーザを選択するには、[次の条件でユーザを検索 (Find User Where)] フィールドに適切なフィルタを指定し、[検索 (Find)] を選択してユーザのリストを取得し、リストからユーザを選択します。
[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウに、選択されたアプリケーションユーザに関する情報が表示されます。
- ステップ3** [パスワード (Password)] フィールドで、既存の暗号化されたパスワードをダブルクリックし、新しいパスワードを入力します。
- ステップ4** [パスワードの確認 (Confirm Password)] フィールドで、既存の暗号化されたパスワードをダブルクリックし、もう一度、新しいパスワードを入力します。
- ステップ5** [保存 (Save)] をクリックします。

アプリケーションユーザ パスワード クレデンシャル情報の管理

次の手順を実行して、アプリケーションユーザ パスワードに関するクレデンシャル情報を管理します。これにより、パスワードのロック、パスワードへのクレデンシャル ポリシーの適用、最後に失敗したログイン試行時などの情報の表示などの管理業務を実行できます。

手順

- ステップ1** Cisco Unified CM の管理から、[ユーザ管理 (User Management)] > [アプリケーションユーザ (Application User)] を選択します。
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ2** 既存のユーザを選択するには、[次の条件でユーザを検索 (Find User Where)] フィールドに適切なフィルタを指定し、[検索 (Find)] を選択してユーザのリストを取得し、リストからユーザを選択します。
[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウに、選択されたアプリケーションユーザに関する情報が表示されます。
- ステップ3** パスワード情報を変更または表示するには、[パスワード (Password)] フィールドの横にある [クレデンシャルの編集 (Edit Credential)] ボタンをクリックします。
ユーザの [クレデンシャル設定 (Credential Configuration)] が表示されます。
- ステップ4** [クレデンシャル設定 (Credential Configuration)] ウィンドウで、各フィールドを設定します。
フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

■ アプリケーションユーザ パスワード クレデンシャル情報の管理

ステップ5 いずれかの設定を変更した場合は、[保存 (Save)] をクリックします。



第 III 部

デバイスの管理

- ・電話の管理（67 ページ）
- ・デバイス ファームウェアの管理（87 ページ）
- ・インフラストラクチャ デバイスの管理（95 ページ）



第 6 章

電話の管理

- 電話管理の概要 (67 ページ)
- 電話ボタンテンプレート (67 ページ)
- 電話機管理タスク (68 ページ)

電話管理の概要

この章では、ネットワーク内の電話を管理する方法について説明します。このトピックでは、新しい電話の追加、既存の電話の別のユーザへの移動、電話のロック、電話のリセットなどのタスクについて説明します。

ご使用の電話機モデルの『Cisco IP Phone Administration Guide』には、該当する電話機モデルに固有の設定情報が記載されています。

電話ボタンテンプレート

電話ボタンテンプレートは、電話機モデルに基づいて作成されます。一部の電話機モデルでは、特定の電話ボタンテンプレートを使用しませんが、一部電話機モデルには、個々のテンプレートまたはデバイスのデフォルトテンプレートのいずれかの特定されたテンプレートが必要です。

[エンタープライズ パラメータの設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ページの [非サイズセーフ電話機の電話テンプレートの選択 (Phone Template Selection for Non-Size Safe Phone)] と [自動登録レガシーモード (Auto Registration Legacy Mode)] エンタープライズ パラメータは、使用される電話ボタンテンプレートのタイプを指定します。フィールドの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

■ 電話機管理タスク

表 3: さまざまなシナリオにおける電話ボタンテンプレート

非サイズセーフ電話機の電話 テンプレートの選択	自動登録レガシー モード	電話
個々のテンプレートの作成	False	ユニバーサルデバイステンプレートからの電話を追加するときに、個々の電話ボタンテンプレートが作成されます。
デバイスのデフォルトからの テンプレートの使用	False	個々の電話ボタンテンプレートは作成されず、デバイスのデフォルトからの電話ボタンテンプレートを取得します。
デバイスのデフォルトからの テンプレートの使用	True	デバイスプール、電話テンプレート、コーリングサーチスペース、電話ボタンテンプレートの値は、デバイスのデフォルトから取得されます。
個々のテンプレートの作成	True	デバイスプール、電話テンプレート、コーリングサーチスペース、電話ボタンテンプレートの値は、デバイスのデフォルトから取得されます。 個々のテンプレートは作成されません。 自動登録レガシー モードには、優先度があります。

電話機管理タスク

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	エンドユーザの有無にかかわらないテンプレートからの新しい電話機の追加 (70 ページ)	エンドユーザの有無にかかわらないユニバーサルデバイステンプレートからの新しい電話機の追加
ステップ 2	電話機の手動での追加 (69 ページ)	デバイステンプレートなしでのエンドユーザの新しい電話機の追加

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ3	エンドユーザがあるテンプレートからの新しい電話機の追加 (72 ページ)	エンドユーザ用の新しい電話機を追加して、ユニバーサルデバイステンプレートを割り当てます。
ステップ4	既存の電話機の移動 (81 ページ)	設定された電話機を別のエンドユーザに移動します。
ステップ5	現在ログイン中のデバイスの検索 (81 ページ)	特定のデバイスを検索するか、ユーザが現在ログインしているすべてのデバイスを列挙します。
ステップ6	リモートでログイン中のデバイスの検索 (82 ページ)	特定のデバイスを検索するか、ユーザがリモートでログインしているすべてのデバイスを列挙します。
ステップ7	電話機のリモートロック (83 ページ)	一部の電話機は、リモートでロックすることができます。電話機をリモートでロックすると、ロックを解除するまで使用できなくなります。
ステップ8	工場出荷時の初期状態への電話機のリセット (84 ページ)	電話機を工場出荷時の設定にリセットします。
ステップ9	ロックされたデバイスまたはリセットされたデバイスの検索 (84 ページ)	リモートでロックされたデバイスまたはリモートでファクトリーデフォルト設定にリセットされたデバイスを検索します。
ステップ10	電話の LSC ステータスの表示および CAPF レポートの生成 (85 ページ)	電話機で LSC 失効ステータスを検索し、CAPF レポートも生成します。

電話機の手動での追加

次の手順を実行して、ユーザ用の新しい電話機を手動で追加します。

手順

- ステップ1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、[デバイス (Device)]>[電話 (Phone)]>[電話の検索とリスト (Find and List Phones)] の順に選択します。
- ステップ2** [電話の検索とリスト (Find and List Phones)] ページから [新規追加 (Add New)] をクリックして電話機を手動で追加します。
- [新しい電話の追加 (Add a New Phone)] ページが表示されます。

■ エンドユーザの有無にかかわらないテンプレートからの新しい電話機の追加

[新しい電話の追加 (Add a New Phone)] ページから、[「ここをクリックしてユニバーサルデバイス テンプレートを追加 (click here to add a new phone using a Universal Device Template) 」] ハイパーリンクをクリックすると、ページは[新しい電話の追加 (Add a New Phone)] ページにリダイレクトされ、ユーザの追加の有無にかかわらずテンプレートから電話を追加します。詳細については、[エンドユーザの有無にかかわらないテンプレートからの新しい電話機の追加 \(70 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ3 [電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウンリストから、電話機モデルを選択します。

ステップ4 [次へ (Next)] をクリックします。

[電話機の設定 (Phone Configuration)] ページが表示されます。

ステップ5 [電話機の設定 (Phone Configuration)] ページで、必須フィールドに値を入力します。フィールドの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 領域のフィールドの詳細については、ご使用の電話機モデルの『Cisco IP Phone Administration Guide』を参照してください。

ステップ6 電話の設定を保存する場合は、[保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[エンドユーザへの既存の電話機の移動 \(55 ページ\)](#)

エンドユーザの有無にかかわらないテンプレートからの新しい電話機の追加

次の手順を実行して、ユーザを追加するかどうかにかかわらず、テンプレートから新しい電話機を追加します。Cisco Unified Communications Manager が、ユニバーサルデバイステンプレートの設定を使用して電話機を設定します。

始める前に

Cisco Unified Communications Manager でユニバーサルデバイステンプレートが設定済みであることを確認します。

手順

ステップ1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] > [電話の検索とリスト (Find and List Phones)] の順に選択します。

ステップ2 [電話の検索とリスト (Find and List Phones)] ページから、[テンプレートからの新規の追加 (Add New From Template)] をクリックして、エンドユーザの追加にかかわりなくデバイステンプレートからの電話を追加します。

[新しい電話の追加 (Add a New Phone)] ページが表示されます。

[新しい電話の追加 (Add a New Phone)] ページから、[「ここをクリックしてすべての電話設定を手動で入力する (click here to enter all phone settings manually)」] ハイパーリンクをクリックすると、ページは電話を手動で追加できる既存の [新しい電話の追加 (Add a New Phone)] ページにリダイレクトされます。詳細については、[電話機の手動での追加 \(69 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ3 [製品タイプ (およびプロトコル) (Phone Type (and Protocol))] ドロップダウンリストで、電話機モデルを選択します。

プロトコルのドロップダウンリストは、電話が複数のプロトコルをサポートしている場合にのみ表示されます。

ステップ4 [名前または MAC アドレス (Name or MAC Address)] テキストボックスに、名前または MAC アドレスを入力します。

ステップ5 [デバイステンプレート (Device Template)] ドロップダウンリストで、ユニバーサルデバイステンプレートを選択します。

ステップ6 [電話番号 (回線1) (Directory Number (Line 1))] ドロップダウンリストで、電話番号を選択します。

ドロップダウンリストのディレクトリ番号がドロップダウンリストの上限を越えている場合、[検索 (Find)] タブが表示されます。[検索 (Find)] をクリックすると、ディレクトリ番号の検索条件を示すポップアップダイアログボックスが開きます。

ステップ7 (オプション) 新しいディレクトリ番号を作成してデバイスに割り当てる場合には、[新規 (New)] をクリックしてディレクトリ番号を入力し、ユニバーサル回線テンプレートを選択します。

[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ/電話の追加 (User/Phone Add)] > [ユーザ/電話の クイック追加 (Quick/User Phone Add)] に移動して、ユーザに関連付けられたディレクトリ番号を使用して電話を作成することもできます。

ステップ8 (オプション) [ユーザ (User)] ドロップダウンリストから、新しい電話機を追加するエンドユーザを選択します。

(注) Cisco デュアルモード (モバイル) デバイスのユーザを選択する場合には必須です。

ドロップダウンリストのエンドユーザの数がドロップダウンリストの上限を越えている場合、[検索 (Find)] タブが表示されます。[検索 (Find)] をクリックすると、エンドユーザ検索条件を示すポップアップダイアログボックスが開きます。

ステップ9 [Add] をクリックします。

(注) 非サイズセーフ電話機の場合、電話テンプレートは [エンタープライズパラメータの 設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ページの [非サイズセーフ電話機の電話テ ンプレートの選択 (Phone Template Selection for Non-Size Safe Phone)] と [自動登録レ ガシー モード (Auto Registration Legacy Mode)] パラメータの選択に基づいて作成さ れます。

追加が成功したとのメッセージが表示されます。Cisco Unified Communications Manager で電話機が追加され、[電話の設定 (Phone Configuration)] ページが表示されます。[電話の設定 (Phone

■ エンドユーザがあるテンプレートからの新しい電話機の追加

Configuration)] ページのフィールドの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

次のタスク

[エンドユーザへの既存の電話機の移動（55 ページ）](#)

エンドユーザがあるテンプレートからの新しい電話機の追加

次の手順を実行して、エンドユーザ用の新しい電話機を追加します。

始める前に

電話機追加対象のエンドユーザは、ユニバーサルデバイステンプレートを含むユーザプロファイルがセットアップされています。Cisco Unified Communications Manager が、ユニバーサルデバイステンプレートの設定を使用して電話機を設定します。

- [エンドユーザ管理タスク（45 ページ）](#)

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[ユーザ管理 (User Management)]>[ユーザ/電話の追加 (User/Phone Add)]>[ユーザ/電話のクイック追加 (Quick User/Phone Add)] を選択します。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックして、新しい電話機を追加するユーザを選択します。
- ステップ 3** [デバイスの管理 (Manage Devices)] ボタンをクリックします。
[デバイスの管理 (Manage Devices)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [電話の新規追加 (Add New Phone)] をクリックします。
[ユーザに電話を追加 (Add Phone to User)] ポップアップが表示されます。
- ステップ 5** [製品タイプ (Product Type)] ドロップダウンリストで、電話機モデルを選択します。
- ステップ 6** [デバイスプロトコル (Device Protocol)] ドロップダウンで、プロトコルとして [SIP] または [SCCP] を選択します。
- ステップ 7** [デバイス名 (Device Name)] テキストボックスに、デバイスの MAC アドレスを入力します。
- ステップ 8** [ユニバーサルデバイステンプレート (Universal Device Template)] ドロップダウンリストで、ユニバーサルデバイステンプレートを選択します。
- ステップ 9** 電話機が拡張モジュールをサポートしている場合は、展開する拡張モジュールの数を入力します。
- ステップ 10** エクステンションモビリティを使用して電話機にアクセスするには、[エクステンションモビリティ内 (In Extension Mobility)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 11** [電話の追加 (Add Phone)] をクリックします。

[電話の新規追加 (Add New Phone)] ポップアップが閉じます。Cisco Unified Communications Manager が、電話機をユーザに追加し、ユニバーサルデバイステンプレートを使用してその電話機を設定します。

- ステップ 12** 電話機の設定に追加の編集を加えるには、対応する鉛筆アイコンをクリックして、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで電話機を開きます。

コラボレーションモバイルコンバージェンス仮想デバイスの概要

CMC デバイスは、それに関連付けられたリモート接続先を表す仮想デバイスです。エンタープライズ電話で CMC デバイスにコールすると、コールはリモート接続先にリダイレクトされます。この機能は、デバイスタイプ [コラボレーションモバイルコンバージェンス (Collaboration Mobile Convergence)] を作成することを目的としています。このデバイスタイプはいくつかのカスタマイズがされた Spark リモートデバイスと同じであり、以下の利点を提供します。

- Spark リモートデバイスと同様の機能を持つネイティブモバイルデバイスを Cisco Unified Communications Manager 上でサポートします。
- 将来の開発機能パリティを含む機能を持つ Spark-RD として利用します。
- モバイルからデスクфон、デスクфонからモバイルへのコールの移動などの、モバイル固有のユースケースのカスタマイズができます。（ID ページで deskpickup タイマーを追加し、製品サポート機能の設定で有効にします）。
- CMC デバイスは、ハントグループに含めることができます。
- Spark リモートデバイスで共有回線に対応できます。
- ライセンス：ライセンス使用パースペクティブに応じて個別のデバイスとしてカウントします。複数デバイスライセンスバンドルはいずれも、CMC RD をサポートする必要があります。

CMC RD デバイスライセンスの調整

新しい CMC デバイスは、追加されると、ユーザに関連付けられているデバイスの数/タイプに基づいてライセンスを使用します。CMC デバイスによって使用されるライセンスのタイプは、それに関連付けられているエンドユーザが所有するデバイスの数によって異なります。

- CMC デバイスのみを導入する場合は、拡張ライセンスを使用します。
- CMC デバイスと Spark RD を導入する場合は、拡張ライセンスを使用します。
- CMC と物理デバイス：拡張 Plus ライセンス
- CMC、Spark RD、および物理デバイスの場合：拡張 Plus ライセンス

コラボレーション モバイル コンバージェンス仮想デバイスの追加

エンドユーザ用に Cisco コラボレーション モバイル コンバージェンス (CMC) リモート デバイスを追加する次の手順を実行します。

始める前に

電話機追加対象のエンドユーザは、ユニバーサル デバイス テンプレートを含むユーザ プロファイルがセットアップされている必要があります。Cisco Unified Communications Manager が、ユニバーサル デバイス テンプレートの設定を使用して電話機を設定します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。
- ステップ 3** [ここをクリックしてすべての電話設定を手動で入力する (Click here to enter all phone settings manually)] リンクをクリックします。
[新規電話を追加 (Add a New Phone)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウンリストから、[Cisco コラボレーション モバイル コンバージェンス (Cisco Collaboration Mobile Convergence)] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [オーナーのユーザID (Owner User ID)] ドロップダウンから、デバイスを所有するエンドユーザを選択します。
- ステップ 6** [デバイス プール (Device Pool)] ドロップダウンから、デバイス プールを選択します。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。
[設定の適用 (Apply Config)] ボタンをクリックして変更を有効にすることを求める警告メッセージがポップアップします。[OK] をクリックします。デバイスは正常に追加されました。
- ステップ 8** [電話番号 (Directory Number)] を設定するには、追加された CMC デバイスをクリックし、[電話番号 (Directory Number)] を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 9** 追加された CMC デバイスの新しい [リモート接続先 (Remote Destination)] を追加するには、アイデンティティ ボックス内のリンクをクリックします。
- ステップ 10** [リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウで、[名前 (Name)]、[接続先の番号 (Destination number)] をクリックして、[保存 (Save)] をクリックします。
(注) 追加された 1 つの CMC デバイスに対して、1 つだけのリモート接続先を追加できます。
- ステップ 11** 既存のリモート接続先を更新するには、[新しい名前 (New Name)] をクリックして、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 12** 既存のリモート接続先を削除するには、メニューで [削除 (Delete)] ボタンをクリックします。

永続的な削除を確認する Web ページからのメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

ステップ 13 [デバイス (Device)] ページから CMC デバイスを削除するには、[デバイス (Device)] チェック ボックスを選択し、メニューから [選択の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

CMC RD 機能の相互作用

表 4: CMC RD 機能の相互作用

機能	データのやり取り
共有回線の処理	<ul style="list-style-type: none"> CMC RD および Spark RD と関連付けられている共有デスク フォンがあるセットアップで、ユーザがエンタープライズ 電話から CMC デバイス DN にコールすると、CMC RD、Spark RD、および共有デスク フォンの 3 つすべてが鳴ります。 リモート接続先のいずれかから応答すると、共有デスク フォンに「リモートで使用中 (Remote in Use)」メッセージが表示されます。 共有デスク フォンのいずれかから応答すると、両方のリモート接続先電話 (CMC RD と Spark RD 電話) が切断されます。
Call Manager グループ (CMG) セットアップで動作する CMC デバイス	<ul style="list-style-type: none"> CMC デバイスが Call Manager グループに関連付けられている場合は、必ずプライマリ サーバで実行され、プライマリ サーバがダウンした場合にのみ、Call Manager グループの次のアクティブなセカンダリ サーバで実行されます。 プライマリ サーバがコール中にダウンした場合、進行中のコールは引き継ぎ維持され、コールが終了した後に CMC デバイスがセカンダリ サーバに登録されます。 (注) コールが保持モードの場合、電話間のメディアは引き継ぎアクティブですが、コールの切断を除く他の操作は実行できません。 最初にプライマリ サーバがダウンし、CMC デバイスがセカンダリ サーバに登録されているときにコールが開始され、プライマリ サーバが進行中のコール中に起動した場合、コールは保持モードになり、コールの終了後に CMC デバイスがプライマリ サーバに登録されます。

CMC RD 機能の相互作用

機能	データのやり取り
コール アンカリング	<p>CMCデバイスからのすべての基本着信コールおよび番号からリモート接続先へのコールは、エンタープライズネットワークでは固定されています。</p> <p>CMCのリモートデバイスが設定されている場合、エンタープライズに固定されているすべてのコールにより、ユーザはモバイルデバイスからコールを発信および受信できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザは、エンタープライズ番号から CMC リモート宛先に直接ダイヤルすることができます。コールはエンタープライズネットワークでは固定されています。このシナリオでは、デスクフォン (CMC デバイスの共有回線) は鳴りませんが、[リモートで使用中 (Remote in Use)] の状態のままになります。 ユーザは、CMC リモート接続先から任意のエンタープライズ番号にダイヤルできます。コールは固定されています。このシナリオでは、デスクフォン (CMC デバイスの共有回線) は鳴りませんが、[リモートで使用中 (Remote in Use)] の状態のままになります。

機能	データのやり取り
シングルナンバーリーチ	<ul style="list-style-type: none"> [リモート接続先の設定 (Remote Destination configuration)] ページで、[シングルナンバーリーチを有効にする (Enable Single Number Reach)] チェックボックスがオフになっている場合、コールは CMC RD まで拡張されず、拒否されます。 リモート接続先からの着信コールと、[番号からリモート接続先へ (Number to Remote Destination)] の発信コールは、[シングルナンバーリーチを有効にする (Enable Single Number Reach)] チェックボックスの選択に関係なく、影響を受けません。 CMC デバイスがある共有デスク フォンがあり、[シングルナンバーリーチを有効にする (Enable Single Number Reach)] チェックボックスがオフになっている場合、コールは CMC RD ではなく共有デスク フォンに拡張されます。 <p>(注) [シングルナンバーリーチ ボイスメールポリシー (Single Number Reach Voicemail Policy)] が [ユーザ制御 (user control)] に設定されている場合は、プライマリ内線番号へのブラインド転送が行われても、モビリティの通知先番号はトリガーされません。プライマリ内線番号のみがトリガーされます。</p> <p>[ユーザ制御 (User control)] 設定は、打診転送をサポートしています。[タイマー制御 (Timer Control)] のボイスメール回避ポリシーは、打診転送とブラインド転送の両方をサポートしています。</p>

■ CMC RD 機能の相互作用

機能	データのやり取り
時刻 (ToD) に基づくコールルーティング	<ul style="list-style-type: none"> ・リング スケジュールを設定するために、リモート接続先の [時刻 (Time of Day)] 設定を使用できます（たとえば、月曜日から金曜日の 9 am ~ 5 pm などといった特定の時間を設定できます）。コールは、これらの時間にのみリモート接続先にリダイレクトされます。 エンタープライズ電話から CMC 番号へのコールは、[リモート接続先の設定 (Remote Destination configuration)] ページで修正されたリング スケジュールに基づいてルーティングされます。リング スケジュールは次のように指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> ・[すべての時間 (All the Time)] : コールは常時ルーティングされます。制限はありません。 ・[曜日 (Day(s) of the week)] : 選択した特定の曜日にのみコールはルーティングされます。 ・[特定の時間 (Specific time)] : コールは選択した就業時間内にのみルーティングされます。必ずタイム ゾーンを選択します。 ・リング スケジュール中にコールを受信する場合、エンタープライズ電話から CMC 番号へのコールは、[リモート接続先の設定 (Remote Destination configuration)] ページでアクセス許可リストまたはアクセスブロッキングリストに追加されたコール番号またはパターンに基づいてルーティングされます。 <ul style="list-style-type: none"> ・[アクセス許可リスト (Allowed access list)] : 発信者番号またはパターンがアクセス許可リスト内にある場合にのみ接続先が鳴ります。 ・[アクセスブロッキングリスト (Blocked access list)] : 発信者番号またはパターンがアクセスブロッキングリスト内にある場合には接続先は鳴りません。 <p>(注) 任意の時点で、アクセス許可リストまたはアクセスブロッキングリストのみを使用できます。</p>

機能	データのやり取り
ユーザ ロケールの設定	<p>CMC 仮想デバイスでは、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで設定されているロケール設定を使用して、電話のディスプレイと電話アナウンスのロケールを判断します。このポリシーは、通常のコールと Conference Now 番号に適用されます。</p> <p>アナウンスの部分は、[ユーザ ロケール (User Locale)] の設定で同じ言語が選択された発信側（任意のエンタープライズ電話）および着信側（CMC デバイス）電話では、発信側とリモート接続先の両方のアナウンスは、[電話の設定 (Phone Configuration)] ページで選択された [ユーザ ロケール (User Locale)] 設定に基づくものになります。</p> <p>(注) たとえば、CMC デバイスに関連付けられている [リモート接続先 (Remote Destination)] から [Conference Now 番号 (Conference Now 番号)] に発信するときに、アナウンスは CMC デバイスの [電話の設定 (Phone configuration)] ページで選択されている [ユーザ ロケール (User Locale)] の設定に基づくものになります。</p>
HLogin および HLogout の新しいアクセス コード	<p>この機能は、管理者が追加のサービス パラメータを使用して、CMC デバイスのハントグループのログインおよびログアウト数を設定するために役立ちます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ハントグループログインのためのエンタープライズ機能アクセス番号。 ハントグループログアウトのためのエンタープライズ機能アクセス番号。 <p>ユーザが CMC デバイスに関連付けられている RD から Hlogin 番号を入力すると、そのときに限りコールは CMC デバイスに関連付けられているハントパイロット番号のダイヤル時に RD にリダイレクトされます。</p> <p>ユーザが CMC デバイスに関連付けられている RD から Hlogout 番号を入力すると、コールは CMC デバイスに関連付けられているハントパイロット番号のダイヤル時に RD にリダイレクトされません。</p> <p>デフォルトでは、CMC デバイスは Hloggedin です。いずれの場合でも、CMC デバイスへの直接コールには影響はありません。</p>

CMC RD 機能の制約事項

機能	データのやり取り
データベースに設定された [呼び出し前の遅延タイマー (Delay Before Ringing Timer)]に基づく CMC リモート接続先コール エクステンション	<p>DB の [呼び出し前の遅延タイマー (Delay Before Ringing Timer)] が 5000 に設定されている場合</p> <ul style="list-style-type: none"> エンタープライズ電話から CMC 番号に発信する場合、共有回線が鳴り、コールは 5 秒後にリモート接続先に到達します。 エンタープライズ電話から CMC 番号に発信する場合、共有回線が 5 秒前にコールに応答すると、コールはリモート接続先に拡張されません。 エンタープライズ電話から CMC 番号に発信する場合、共有回線が鳴り、発信側が 5 秒前にコールを切断すると、コールはリモート接続先に拡張されません。 <p>DB の [呼び出し前の遅延タイマー (Delay Before Ringing Timer)] が 0 に設定されている場合</p> <p>エンタープライズ電話から CMC 番号へのすべてのコールは、リモート接続先と共有回線に同時にアラートを出します。</p>
一括管理ツール (BAT) サポート	BAT サポートは CMC デバイス向けに提供されています

CMC RD 機能の制約事項表 5: **CMC RD** 機能の制約事項

機能	制約事項
CMC リモート接続先の関連付け	<p>次の制約事項が適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> CMC デバイスには、1 つのリモート接続先のみを関連付けることができます。 エンド ユーザが削除されると、その関連付けられている CMC デバイスおよび RD (リモート接続先) も削除されます。 <p>(注) [モビリティの有効化 (Enable Mobility)] チェック ボックスがオンまたはオフになっていても、CMC および RD は影響を受けません。CMC デバイスは削除されません。</p>

既存の電話機の移動

次の手順を実行して、設定された電話機をエンド ユーザに移動します。

手順

-
- ステップ1** Cisco Unified CM の管理で、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ/電話の追加 (User/Phone Add)] > [ユーザ/電話のクイック追加 (Quick User/Phone Add)] を選択します。
- ステップ2** [検索 (Find)] をクリックして、既存の電話機を移動するユーザを選択します。
- ステップ3** [デバイスの管理 (Manage Devices)] ボタンをクリックします。
- ステップ4** [このユーザに移動する電話の検索 (Find a Phone to Move To This User)] ボタンをクリックします。
- ステップ5** このユーザに移動する電話機を選択します。
- ステップ6** [選択項目の移動 (Move Selected)] をクリックします。
-

現在ログイン中のデバイスの検索

Cisco Extension Mobility 機能と Cisco Extension Mobility Cross Cluster 機能により、ユーザが現在ログインしているデバイスの記録が維持されます。Cisco Extension Mobility 機能では、現在ログイン中のデバイスのレポートでローカルユーザが現在ログインしているローカル電話が追跡され、Cisco Extension Mobility Cross Cluster 機能では、現在ログイン中のデバイスのレポートでリモート ユーザが現在ログインしているローカル電話が追跡されます。

Unified Communications Manager には、ユーザがログインしているデバイスを検索するための特定の検索 ウィンドウがあります。特定のデバイスを検索する場合、またはユーザが現在ログインしているすべてのデバイスを一覧表示する場合は、次の手順に従います。

手順

-
- ステップ1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
- ステップ2** 右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストから [現在ログイン中のデバイスのレポート (Actively Logged In Device Report)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ3** データベース内で現在ログイン中のデバイスのレコードをすべて検索するには、ダイアログ ボックスが空であることを確認して、ステップ 4 に進みます。
- レコードをフィルタリングまたは検索するには、
- 最初のドロップダウンリスト ボックスで、検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のドロップダウンリスト ボックスで、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

リモートでログイン中のデバイスの検索

(注) 検索条件をさらに追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定した条件をすべて満たしているレコードが検索されます。条件を削除する場合、最後に追加した条件を削除するには、[-]ボタンをクリックします。追加した検索条件をすべて削除するには、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックします。

ステップ4 [検索 (Find)] をクリックします。

条件を満たしているレコードがすべて表示されます。1 ページあたりの項目の表示件数を変更するには、[Rows per Page] ドロップダウンリストボックスで別の値を選択します。

ステップ5 表示されるレコードのリストから、表示するレコードへのリンクをクリックします。

(注) ソート順を逆にするには、リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

ウィンドウに選択した項目が表示されます。

リモートでログイン中のデバイスの検索

Cisco Extension Mobility Cross Cluster 機能は、ユーザがリモートでログインしているデバイスのレコードを保持します。リモートでログイン中のデバイスレポートは、他のクラスタが所有していて、EMCC 機能を使用しているローカルユーザが現在ログインしている電話機を追跡します。

Cisco Unified Communications Manager は、ユーザがリモートでログインしているデバイスを検索するための特定の検索ウィンドウを提供します。次の手順に従って、特定のデバイスを検索したり、ユーザがリモートでログインしているすべてのデバイスを列挙したりします。

手順

ステップ1 [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。

ステップ2 右上にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストで [リモートログインデバイス (Remotely Logged In Device)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

ステップ3 データベース内のリモートでログイン中のすべてのデバイスのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、ステップ4に進みます。

レコードをフィルタリングまたは検索するには、

- 最初のドロップダウンリストボックスで、検索パラメータを選択します。
- 2番目のドロップダウンリストボックスで、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

(注) 検索条件をさらに追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定した条件をすべて満たしているレコードが検索されます。条件を削除する場合、最後に追加した条件を削除するには、[-] ボタンをクリックします。追加した検索条件をすべて削除するには、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックします。

ステップ4 [検索 (Find)] をクリックします。

条件を満たしているレコードがすべて表示されます。1ページあたりの項目の表示件数を変更するには、[Rows per Page] ドロップダウンリストボックスで別の値を選択します。

ステップ5 表示されるレコードのリストから、表示するレコードへのリンクをクリックします。

(注) ソート順を逆にするには、リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

ウィンドウに選択した項目が表示されます。

電話機のリモートロック

一部の電話機は、リモートでロックすることができます。電話機をリモートでロックすると、ロックを解除するまで使用できなくなります。

電話機でリモートロック機能がサポートされている場合は、右上の隅に [ロック (Lock)] ボタンが表示されます。

手順

ステップ1 [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。

ステップ2 [電話の検索/一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウから、検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックして特定の電話機を見つけます。

検索条件に一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ3 リモートロックを実行する電話機を選択します。

ステップ4 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで [ロック (Lock)] をクリックします。

電話機が登録されていない場合は、電話機が次回登録されたときにロックされることを伝えるポップアップウィンドウが表示されます。[ロック (Lock)] をクリックします。

[デバイスのロック/ワイプのステータス (Device Lock/Wipe Status)] セクションが表示され、最新の要求、保留中かどうか、および最新の確認応答に関する情報が示されます。

工場出荷時の初期状態への電話機のリセット

一部の電話機では、リモートワイプ機能がサポートされます。リモートで電話機をワイプすると、電話機が工場出荷時の設定にリセットされます。電話機に以前に保存されたすべてのデータが消去されます。

電話機でリモートワイプ機能がサポートされている場合は、右上の隅に[ワイプ (Wipe)]ボタンが表示されます。



注意 この操作は取り消すことができません。この操作は、確実に電話機を工場出荷時の設定にリセットする必要がある場合にのみ、実行してください。

手順

ステップ1 [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。

ステップ2 [電話の検索/一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウで、検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックして特定の電話機を見つけます。

検索条件に一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ3 リモートワイプを実行する電話機を選択します。

ステップ4 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで[ワイプ (Wipe)] をクリックします。

電話機が登録されていない場合は、電話機が次回登録されたときにワイプされることを伝えるポップアップ ウィンドウが表示されます。[ワイプ (Wipe)] をクリックします。

[デバイスのロック/ワイプのステータス (Device Lock/Wipe Status)] セクションが表示され、最新の要求、保留中かどうか、および最新の確認応答に関する情報が示されます。

ロックされたデバイスまたはリセットされたデバイスの検索

リモートでロックされたデバイスまたはリモートでファクトリーデフォルト設定にリセットされたデバイスを検索できます。次の手順に従って、特定のデバイスを検索したり、リモートでロックされたまたはリモートでワイプされたすべてのデバイスを列挙したりします。

手順

ステップ1 [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。

[電話の検索/一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、アクティブな（以前の）クエリーのレコードも表示されることがあります。

ステップ2 ウィンドウの右上にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストで [電話のロック/ワイプレポート (Phone Lock/Wipe Report)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

ステップ3 データベース内のリモートでロックされたデバイスまたはリモートでワイプされたデバイスのすべてのレコードを検索するには、テキストボックスが空であることを確認して、ステップ4に進みます。

特定のデバイスのレコードを絞り込むまたは検索するには：

- 1つ目のドロップダウンリストボックスで、検索するデバイス稼働タイプを選択します。
- 2番目のドロップダウンリストボックスで、検索パラメータを選択します。
- 3番目のドロップダウンリストボックスで、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

(注) 検索条件をさらに追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定した条件をすべて満たしているレコードが検索されます。条件を削除する場合、最後に追加した条件を削除するには、[-] ボタンをクリックします。追加した検索条件をすべて削除するには、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックします。

ステップ4 [検索 (Find)] をクリックします。

条件を満たしているレコードがすべて表示されます。1ページあたりの項目の表示件数を変更するには、[Rows per Page] ドロップダウンリストボックスで別の値を選択します。

ステップ5 表示されるレコードのリストから、表示するレコードへのリンクをクリックします。

(注) ソート順を逆にするには、リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

ウィンドウに選択した項目が表示されます。

電話の LSC ステータスの表示および CAPF レポートの生成

この手順を使用して、Cisco Unified Communications Manager インタフェース内からローカルで有効な証明書 (LSC) の有効期限情報を監視します。次の検索フィルタは、LSC情報を表示します。

- [LSC 有効期日 (LSC Expires)] : 電話の LSC 有効期日を表示します。
- [LSC 発行元 (LSC Issued By)] : 発行元の名前を表示します。これは、CAPF またはサードパーティのいずれかです。
- [LSC 発行元の有効期日 (LSC Issuer Expires By)] : 発行元の有効期日を表示します。

■ 電話の LSC ステータスの表示および CAPF レポートの生成



(注) 新しいデバイスに LSC が発行されていない場合、[LSC 有効期日 (LSC Expires)] および [LSC 発行元の有効期日 (LSC Issuer Expires by)] フィールドのステータスは [該当なし (NA)] 「」に設定されます。

Cisco Unified Communications Manager 11.5(1)へのアップグレード前に LSC がデバイスに発行された場合は、[LSC 有効期日 (LSC Expires)] および [LSC 発行元の有効期日 (LSC Issuer Expires by)] フィールドのステータスは [不明 (Unknown)] 「」に設定されます。

手順

ステップ1 [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。

ステップ2 [電話の検索条件 (Find Phone where)] の最初のドロップダウンリストから、次の基準の 1 つを選択します。

- LSC 有効期日 (LSC Expires)
- LSC 発行元 (LSC Issued By)
- LSC 発行元の有効期日 (LSC Issuer Expires by)

[電話の検索条件 (Find Phone where)] の 2 番目のドロップダウンリストから、次の基準の 1 つを選択します。

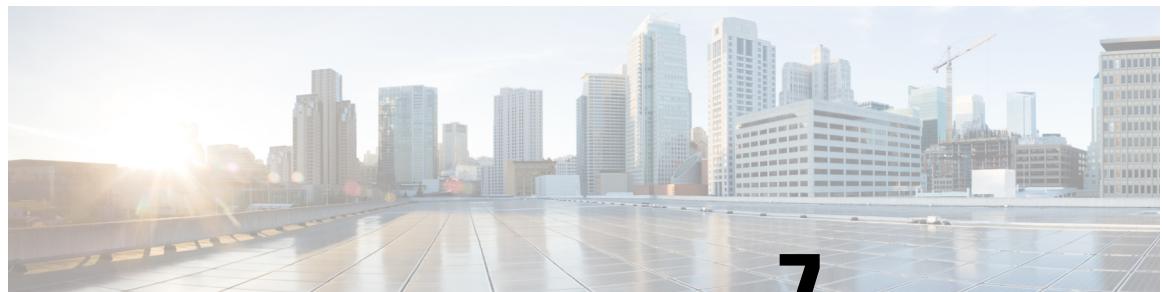
- が次の日付より前 (is before)
- が次の文字列と等しい (is exactly)
- が次の日付より後 (is after)
- が次の文字列で始まる (begins with)
- が次の文字列を含む (contains)
- が次の文字列で終わる (ends with)
- が次の文字列と等しい (is exactly)
- が空である (is empty)
- が空ではない (is not empty)

ステップ3 [検索 (Find)] をクリックします。

検出された電話の一覧が表示されます。

ステップ4 [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストから [ファイルでの CAPF レポート (CAPF Report in File)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

レポートがダウンロードされます。



第 7 章

デバイス ファームウェアの管理

- デバイス ファームウェアのアップデートの概要 (87 ページ)
- デバイス パックまたは個々のファームウェアのインストール (88 ページ)
- システムからの未使用のファームウェアの削除 (90 ページ)
- 電話モデルのデフォルト ファームウェアの設定 (91 ページ)
- 電話機のファームウェア ロードの設定 (92 ページ)
- ロード サーバの使用 (92 ページ)
- 非デフォルト ファームウェア ロードを使用するデバイスの検索 (93 ページ)

デバイス ファームウェアのアップデートの概要

デバイス ロードとは、IP Phone、Telepresence Systems、および Cisco Unified Communications Manager でプロビジョニングおよび登録されているその他のデバイスを対象としたソフトウェアおよびファームウェアのことです。Cisco Unified Communications Manager はインストールまたはアップグレード時に、Cisco Unified Communications Manager の該当するバージョンがリリースされた時期に基づいて、利用可能な最新のロードをインクルードします。シスコでは、新しい機能やソフトウェア フィックスを導入するために更新されたファームウェアを定期的にリリースしています。したがって、新しいロードをインクルードした Cisco Unified Communications Manager アップグレードを待たずに、電話機を新しいロードに更新することができます。

エンドポイントをソフトウェアの新しいバージョンにアップグレードするには、エンドポイントがアクセス可能な場所に新しいロードに必要なファイルがダウンロード可能になっていなければなりません。最も一般的な場所は、Cisco TFTP サービスがアクティブにされている、「TFTP サーバ」と呼ばれる Cisco UCM ノードです。一部の電話機は、「ロード サーバ」と呼ばれる別のダウンロード場所もサポートしています。

任意のサーバ上の tftp ディレクトリ内にあるファイルのリストを取得したり、それらのファイルを表示またはダウンロードしたりするには、CLI コマンドの file list tftp (tftp ディレクトリ内のファイルを一覧表示する場合)、file view tftp (ファイルを表示する場合)、file get tftp (tftp ディレクトリ内のファイルのコピーを取得する場合) を使用します。詳細については、『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』を参照してください。また、Web ブラウザで URL 「http://<tftp_server>:6970/<filename>」 にアクセスして、任意の TFTP ファイルをダウンロードすることもできます。

■ デバイス パックまたは個々のファームウェアのインストール



ヒント

新しいロードをシステム全体のデフォルトとして設定する前に、単一のデバイスに新規ロードを適用することもできます。この手法は、テスト目的で役立ちます。ただし、該当するタイプのその他すべてのデバイスは、新しいロードでシステム全体のデフォルトを更新するまでは、古いロードを使用することに注意してください。

デバイス パックまたは個々のファームウェアのインストール

デバイス パッケージをインストールして、新しい電話タイプを導入し、複数の電話モデルのファームウェアをアップグレードします。

- 既存のデバイスの個々のファームウェアは次のオプションでインストールまたはアップグレードできます。Cisco Options Package (COP) ファイル：COP ファイルには、ファームウェア ファイルとデータベース アップデートが含まれています。このためパブリッシュにインストールすると、ファームウェア ファイルがインストールされ、さらにデフォルトのファームウェアが更新されます。
- ファームウェア ファイルのみ：zip ファイルで提供されます。zip ファイルに含まれている個々のデバイス ファームウェア ファイルは手動で解凍し、TFTP サーバの適切なディレクトリにおよびアップロードする必要があります。



(注)

COP またはファームウェア ファイル パッケージに固有のインストール手順については、 README ファイルを参照してください。

手順

- Cisco Unified OS の管理から、[ソフトウェア アップグレード (Software Upgrades)] > [インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] の順に選択します。
- ソフトウェアの場所セクションに適切な値を入力し、[次へ (Next)] をクリックします。
- [使用可能なソフトウェア (Available Software)] ドロップダウンリストで、デバイス パッケージ ファイルを選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
- MD5 の値が正しいことを確認し、[次へ (Next)] をクリックします。
- 警告ボックスで、正しいファームウェアを選択したことを確認し、[インストール (Install)] をクリックします。
- 成功メッセージを受信したことを確認します。

(注) クラスタを再起動している場合は、ステップ 8 に進みます。

- ステップ7** サービスを実行しているすべてのノードで [Cisco TFTP] サービスを再起動します。
- ステップ8** 新しいロードにデバイスをアップグレードするには、影響を受けたデバイスをリセットします。
- ステップ9** Cisco Unified CM の管理から、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [デバイスのデフォルト (Device Defaults)] の順に選択し、新しいロードに（特定のデバイスに対して）ロードファイルの名前を手動で変更します。
- ステップ10** [保存 (Save)] をクリックし、デバイスをリセットします。
- ステップ11** すべてのクラスタ ノードで **Cisco Tomcat** サービスを再起動します。
- ステップ12** 次のいずれかを実行します。
- 11.5(1)SU4 以下、12.0(1)、または 12.0(1)SU1 を実行している場合は、クラスタを再起動します。
 - 11.5(1)SU5 以上での 11.5(x) リリース、12.0(1)SU2 以上での任意のリリースを実行している場合は、パブリッシャ ノード上で **Cisco CallManager** サービスを再起動します。ただし、サブクライバ ノードでのみ **Cisco CallManager** サービスを実行している場合は、このタスクをスキップできます。

ファームウェアのインストールの潜在的な問題

デバイスパックのインストール後に発生する可能性があるいくつかの潜在的な問題を次に示します。

問題	原因/解決
新しいデバイスが登録されません	<p>これはデバイス タイプの不一致により発生する可能性があります。次の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • デバイスが [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、不適切なデバイス タイプを使用して追加されました。たとえば、Cisco DX80 が Cisco TelePresence DX80 ではなく電話タイプとして選択されました。適切なデバイス タイプを使用して、デバイスを再設定します。 • Cisco CallManager サービスが新しいデバイス タイプを認識しません。この場合、パブリッシャ ノード上で Cisco CallManager サービスを再起動します。

■ システムからの未使用のファームウェアの削除

問題	原因/解決
エンドポイントが新しいファームウェアにアップグレードしません	Possible reasons: <ul style="list-style-type: none"> デバイスパックがTFTPサーバにインストールされていません。その結果、ファームウェアは電話機でダウンロードできません。 Cisco TFTPサービスは、インストール後に再起動されなかつたので、新しいファイルについて認識しません。必ずTFTPサーバにデバイスパックをインストールします
Cisco Unified CM Administrationの[電話の設定(Phone Configuration)]ウィンドウで、新しいデバイスタイプのアイコンイメージがあるはずの場所に、破損したリンクが表示されます。	CLIからすべてのノードで Cisco Tomcat サービスを再起動します。

システムからの未使用のファームウェアの削除

[デバイスロード管理(Device Load Management)] ウィンドウでは、システムから未使用的ファームウェア(デバイスロード)および関連するファイルを削除して、ディスク容量を増やすことができます。たとえば、アップグレード前に未使用的ロードを削除して、ディスク容量の不足が原因でアップグレードが失敗しないようにすることができます。ファームウェアファイルの中には、[デバイスロード管理(Device Load Management)] ウィンドウにリストされない依存ファイルを持っているものがあります。ファームウェアを削除すると、依存ファイルも削除されます。ただし、その依存ファイルが他のファームウェアに関連付けられている場合は削除されません。



(注)

クラスタ内の各サーバで、個別に未使用のファームウェアを削除する必要があります。

始める前に



注意

未使用的ファームウェアを削除する前に、適切なロードを削除していることを確認します。削除されたロードは、クラスタ全体のDRS復元を実行しないと復元できません。ファームウェアを削除する前にバックアップすることを推奨します。

手順

- ステップ1** [Cisco Unified OS の管理 (Cisco Unified OS Administration)] から、[ソフトウェアアップグレード (Software Upgrades)] > [デバイス ロード管理 (Device Load Management)] の順に選択します。
- ステップ2** 検索条件を指定して、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ3** 削除するデバイス ロードを選択します。必要な場合は、複数のロードを選択できます。
- ステップ4** [選択されたロードの削除 (Delete Selected Loads)] をクリックします。
- ステップ5** [OK] をクリックします。

電話モデルのデフォルト ファームウェアの設定

この手順を使用して、特定の電話モデルにデフォルトのファームウェアロードを設定します。新しい電話が登録されると、Cisco Unified Communications Manager は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでデフォルトを上書きするファームウェア ロードが指定されていないかぎり、デフォルトのファームウェアを電話に送信しようとします。



(注)

個々の電話については、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの[電話ロード名 (Phone Load Name)] フィールドの設定により、その特定の電話のデフォルト ファームウェア ロードが上書きされます。

始める前に

ファームウェアが TFTP サーバにロードされていることを確認します。

手順

- ステップ1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [デバイスのデフォルト (Device Defaults)] を選択します。[デバイスのデフォルト設定 (Device Defaults Configuration)] ウィンドウが表示され、Cisco Unified Communications Manager がサポートする様々な電話モデルのデフォルト ファームウェア ロードが示されます。ファームウェアは [ロード情報 (Load Information)] 列に表示されます。
- ステップ2** [デバイス タイプ (Device Type)] で、デフォルト ファームウェアを割り当てる電話モデルを指定します。
- ステップ3** 横にある [ロード情報 (Load Information)] フィールドに、ファームウェア ロードを入力します。

■ 電話機のファームウェア ロードの設定

ステップ4 (任意) [デバイス プール (Device Pool)] にデフォルトのデバイス プールを入力し、[電話テンプレート (Phone Template)] に該当する電話モデルのデフォルトの電話テンプレートを入力します。

ステップ5 [保存 (Save)] をクリックします。

電話機のファームウェア ロードの設定

この手順を使用して、特定の電話にファームウェア ロードを割り当てます。[デバイスのデフォルト設定 (Device Defaults Configuration)] ウィンドウに指定されているデフォルトとは異なるファームウェア ロードを使用する場合に、この手順を実行します。



(注) 多数の電話に1つのバージョンを割り当てる場合は、一括管理ツールを使用し、CSVファイルまたはクエリを使用して、[電話ロード名 (Phone Load Name)] フィールドを設定できます。詳細については、『*Bulk Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM の管理で、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。

ステップ2 [検索 (Find)] をクリックし、個別の電話を選択します。

ステップ3 [電話ロード名 (Phone Load Name)] フィールドに、ファームウェアの名前を入力します。この電話では、ここで指定したファームウェア ロードによって、[デバイスのデフォルト設定 (Device Defaults Configuration)] ウィンドウで指定されているデフォルトのファームウェア ロードが上書きされます。

ステップ4 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの残りのフィールドをすべて入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ5 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ6 [設定の適用 (ApplyConfig)] をクリックして、変更したフィールドを電話にプッシュします。

ロード サーバの使用

電話が TFTP サーバ以外のサーバからファームウェアの更新をダウンロードするようにするには、電話の [電話の設定 (Phone Configuration)] ページで「ロード サーバ」を設定できます。ロード サーバには、別の Cisco Unified Communications Manager またはサードパーティのサーバを指定できます。サードパーティのサーバは、電話が TCP ポート 6970 で HTTP を使用して（推奨）、または UDP ベースの TFTP プロトコルを使用して要求するすべてのファイルを提

供できる必要があります。DX ファミリの Cisco TelePresence デバイスなどの一部の電話モデルでは、ファームウェアのアップデートで HTTP のみをサポートしています。



(注)

多数の電話に 1 つのロード サーバを割り当てる場合は、一括管理ツールを使用し、CSV ファイルまたはクエリを使用して、[ロード サーバ (Load Server)] フィールドを設定できます。詳細については、『*Bulk Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM の管理で、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。

ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックし、個別の電話を選択します。

ステップ 3 [ロード サーバ (Load Server)] フィールドに、別のサーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

ステップ 4 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの残りのフィールドをすべて入力します。
フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 6 [設定の適用 (Apply Config)] をクリックして、変更したフィールドを電話にプッシュします。

非デフォルト ファームウェア ロードを使用するデバイスの検索

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ファームウェア ロード 情報 (Firmware Load Information)] ウィンドウを使用すると、デバイス タイプにデフォルトのファームウェア ロードを使用しないデバイスを、すばやく特定することができます。



(注)

各デバイスには、デフォルトをオーバーライドする個別のファームウェア ロードを割り当てるすることができます。

デフォルト ファームウェア ロードを使用していないデバイスを特定するには、次の手順に従います。

■ 非デフォルト ファームウェア ロードを使用するデバイスの検索

手順

ステップ1 [デバイス(Device)] > [デバイスの設定(Device Settings)] > [ファームウェアロード情報(Firmware Load Information)] を選択します。

ページが更新され、ファームウェア ロードが必要なデバイス タイプが一覧表示されます。デバイス タイプごとに、[デフォルトロードを使用しないデバイス (Devices Not Using Default Load)] 列が、非デフォルト ロードを使用するデバイスの設定にリンクされます。

ステップ2 非デフォルト デバイス ロードを使用する特定のデバイス タイプのデバイスのリストを表示するには、[デフォルトロードを使用しないデバイス (Devices Not Using Default Load)] 列でそのデバイス タイプのエントリをクリックします。

開いたウィンドウに、デフォルト ファームウェア ロードを実行していない特定のデバイス タイプのデバイスが一覧表示されます。



第 8 章

インフラストラクチャ デバイスの管理

- ・インフラストラクチャの管理の概要 (95 ページ)
- ・インフラストラクチャの管理の前提条件 (95 ページ)
- ・インフラストラクチャの管理のタスク フロー (96 ページ)

インフラストラクチャの管理の概要

この章では、ロケーション対応機能の一部として、スイッチとワイヤレスアクセスポイントなどのネットワーク インフラストラクチャデバイスを管理するタスクについて説明します。ロケーション対応を有効にすると、Cisco Unified Communications Manager データベースには、各スイッチまたはアクセスポイントに現在関連付けられているエンドポイントのリストを含め、ネットワークのスイッチとアクセスポイントのステータス情報が保存されます。

エンドポイントからインフラストラクチャデバイスへのマッピングは、Cisco Unified Communications Manager と Cisco Emergency Responder が発信者の物理的な場所を特定するのに役立ちます。たとえば、モバイルクライアントがローミング中に緊急通報を行っている場合、Cisco Emergency Responder はこのマッピングを使用して緊急サービスを送る場所を判断します。

データベースに保存されるインフラストラクチャ情報も、インフラストラクチャの使用状況をモニタするのに役立ちます。Unified Communications Manager インターフェイスから、スイッチやワイヤレスアクセスポイントなどのネットワーク インフラストラクチャのデバイスを確認できます。現時点で特定のアクセスポイントまたはスイッチに関連付けられているエンドポイントのリストを表示することもできます。インフラストラクチャデバイスが使用されていない場合は、インフラストラクチャデバイスを非アクティブ化して追跡されないようにできます。

インフラストラクチャの管理の前提条件

Cisco Unified Communications Manager インターフェイス内でワイヤレス インフラストラクチャを管理するには、その前に、ロケーション認識機能を設定する必要があります。有線インフラストラクチャの場合、この機能はデフォルトで有効になっています。設定の詳細については、以下の章を参照してください。

■ インフラストラクチャの管理のタスク フロー

『System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager』の「Location Awareness」。

また、ネットワークインフラストラクチャをインストールする必要があります。詳細については、ワイヤレス LAN コントローラ、アクセスポイント、スイッチなどのインフラストラクチャデバイスに付属しているハードウェアドキュメントを参照してください。

インフラストラクチャの管理のタスク フロー

次のタスクを実行して、ネットワークインフラストラクチャデバイスを監視および管理します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	インフラストラクチャデバイスのステータスの表示 (96 ページ)	ワイヤレスアクセスポイントまたはイーサネットスイッチの現在のステータスを、関連付けられているエンドポイントの一覧とともに取得します。
ステップ2	インフラストラクチャデバイストラッキングの非アクティブ化 (97 ページ)	使用されていないスイッチまたはアクセスポイントがある場合は、そのデバイスに非アクティブのマークを付けます。そのインフラストラクチャデバイスのステータスまたは関連付けられているエンドポイントの一覧が更新されなくなります。
ステップ3	非アクティブ化されたインフラストラクチャデバイストラッキングのアクティブ化 (97 ページ)	非アクティブなインフラストラクチャデバイスのトラッキングを開始します。Cisco Unified Communications Manager が、インフラストラクチャデバイスのステータスおよび関連付けられているエンドポイントの一覧により、データベースの更新を開始します。

インフラストラクチャデバイスのステータスの表示

この手順を使用して、ワイヤレスアクセスポイントやイーサネットスイッチなどのインフラストラクチャデバイスの現在のステータスを取得します。Cisco Unified Communications Manager インターフェイス内で、アクセスポイントまたはスイッチのステータスおよび現在関連付けられているエンドポイントの一覧を表示できます。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM の管理で、[詳細機能 (Advanced Features)] > [デバイスの位置のトラッキング サービス (Device Location Tracking Services)] > [スイッチとアクセス ポイント (Switches and Access Points)] を選択します。

ステップ2 [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ3 ステータスを表示するスイッチまたはアクセス ポイントをクリックします。

[スイッチおよびアクセス ポイントの設定 (Switches and Access Point Configuration)] ウィンドウに、そのアクセス ポイントまたはスイッチに現在関連付けられているエンドポイントの一覧を含み、現在のステータスが表示されます。

インフラストラクチャ デバイス トラッキングの非アクティブ化

スイッチやアクセス ポイントなどの特定のインフラストラクチャ デバイスのトラッキングを削除するには、次の手順を使用します。使用されていないスイッチまたはアクセス ポイントで、この手順を実行できます。



(注)

インフラストラクチャ デバイスのトラッキングを削除すると、デバイスはデータベースに残ったまま、非アクティブになります。Cisco Unified Communications Manager は、その後、そのインフラストラクチャ デバイスに関するエンドポイントの一覧も含めて、そのデバイスのステータスを更新しません。[スイッチとアクセス ポイント (Switches and Access Points)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンで、非アクティブなスイッチとアクセスポイントを表示できます。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM の管理で、[詳細機能 (Advanced Features)] > [デバイスの位置のトラッキング サービス (Device Location Tracking Services)] > [スイッチとアクセス ポイント (Switches and Access Points)] を選択します。

ステップ2 [検索 (Find)] をクリックして、追跡を停止するスイッチまたはアクセス ポイントを選択します。

ステップ3 [選択項目の非アクティブ化 (Deactivate Selected)] をクリックします。

非アクティブ化されたインフラストラクチャ デバイス トラッキングのアクティブ化

この手順を使用して、非アクティブ化されたインフラストラクチャ デバイスのトラッキングを開始します。スイッチまたはアクセス ポイントがアクティブになると、Cisco Unified

■ 非アクティブ化されたインフラストラクチャ デバイス トラッキングのアクティブ化

Communications Manager では、スイッチまたはアクセス ポイントに関連付けられているエンド ポイントの一覧を含むステータスを動的にトラッキングし始めます。

始める前に

Location Awareness を設定する必要があります。 詳細については、『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』の「Location Awareness」の章を参照してください。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM の管理で、[詳細機能 (Advanced Features)] > [デバイスの位置のトラッキング サービス (Device Location Tracking Services)] > [スイッチとアクセス ポイント (Switches and Access Points)] を選択します。

ステップ2 [関連リンク (Related Links)] から、[非アクティブなスイッチおよびアクセス ポイント (Inactive Switches and Access Points)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

[非アクティブなスイッチおよびアクセス ポイントの検索および表示 (Find and List Inactive Switches and Access Points)] ウィンドウに、トラッキングされていないインフラストラクチャ デバイスが表示されます。

ステップ3 トラッキングを開始するスイッチまたはアクセス ポイントを選択します。

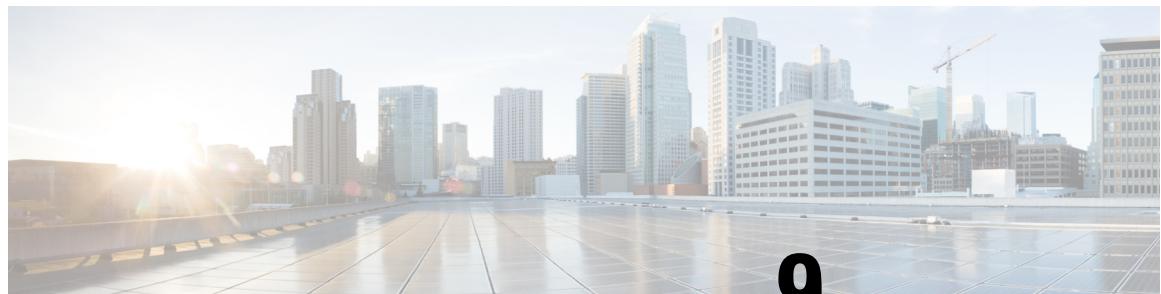
ステップ4 [選択項目の再アクティブ化 (Reactivate Selected)] をクリックします。



第 IV 部

システムの管理

- システム ステータスのモニタ (101 ページ)
- 使用状況レコードの表示 (109 ページ)
- エンタープライズ パラメータの管理 (117 ページ)
- サーバの管理 (121 ページ)



第 9 章

システムステータスのモニタ

- クラスタノードステータスの表示 (101 ページ)
- ハードウェアステータスの表示 (101 ページ)
- ネットワークステータスの表示 (102 ページ)
- インストールされているソフトウェアの表示 (102 ページ)
- システムステータスの表示 (103 ページ)
- IP 設定の表示 (103 ページ)
- 最終ログインの詳細の表示 (104 ページ)
- ノードの ping (104 ページ)
- サービスパラメータの表示 (105 ページ)
- ネットワーク DNS の設定 (106 ページ)

クラスタノードステータスの表示

この手順を使用して、クラスタ内のノードに関する情報を表示します。

手順

ステップ1 [Cisco Unified オペレーティングシステムの管理 (Cisco Unified Operating System Administration)] で、[表示 (Show)] > [クラスタ (Cluster)] を選択します。

ステップ2 [クラスタ (Cluster)] ウィンドウのフィールドを調べます。フィールドの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ハードウェアステータスの表示

ハードウェアステータスおよびシステム内のハードウェアリソースに関する情報を表示するには、この手順を実行します。

■ ネットワークステータスの表示

手順

ステップ1 [Cisco Unified オペレーティングシステムの管理 (Cisco Unified Operating System Administration)] で、[表示 (Show)] > [ハードウェア (Hardware)] を選択します。

ステップ2 [ハードウェアステータス (Hardware Status)] ウィンドウのフィールドを調べます。フィールドの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ネットワークステータスの表示

イーサネットおよびDNS情報など、システムのネットワークステータスを表示するには、この手順を実行します。

表示されるネットワークステータス情報は、ネットワーク耐障害性が有効になっているかどうかによって異なります。

- ネットワーク耐障害性が有効になっていると、イーサネットポート0に障害が発生した場合、イーサネットポート1が自動的にネットワーク通信を管理します。
- ネットワーク耐障害性が有効になっている場合、ネットワークポートのイーサネット0、イーサネット1、およびBond 0のネットワークステータス情報が表示されます。
- ネットワーク耐障害性が有効になっていない場合、イーサネット0のステータス情報のみが表示されます。

手順

ステップ1 [Cisco Unified オペレーティングシステムの管理 (Cisco Unified Operating System Administration)] で、[表示 (Show)] > [ネットワーク (Network)] を選択します。

ステップ2 [ネットワーク構成 (Network Configuration)] ウィンドウのフィールドを調べます。フィールドの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

インストールされているソフトウェアの表示

ソフトウェアのバージョンおよびインストールされているソフトウェアパッケージに関する情報を表示するには、この手順を実行します。

手順

ステップ1 [Cisco Unified オペレーティングシステムの管理 (Cisco Unified Operating System Administration)] で、[表示 (Show)] > [ソフトウェア (Software)] を選択します。

ステップ2 [ソフトウェア パッケージ (Software Packages)] ウィンドウのフィールドを調べます。フィールドの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

システムステータスの表示

ロケール、稼働時間、CPU使用量、メモリ使用量などのシステム全体の状態を表示するには、この手順を実行します。

手順

ステップ1 [Cisco Unified オペレーティングシステムの管理 (Cisco Unified Operating System Administration)] で、[表示 (Show)] > [システム (System)] を選択します。

ステップ2 [システムステータス (System Status)] ウィンドウを調べます。フィールドの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

IP 設定の表示

この手順を使用して、システムで利用可能な登録済みポートの一覧を表示します。

手順

ステップ1 [Cisco Unified オペレーティングシステムの管理 (Cisco Unified Operating System Administration)] で、[表示 (Show)] > [IP 設定 (IP Preferences)] を選択します。

ステップ2 (任意) レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかのタスクを実行します。

- 最初の一覧から検索パラメータを選択します。
- 2番目の一覧から検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

ステップ3 [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ4 [システムステータス (System Status)] ウィンドウに表示されるフィールドを調べます。フィールドの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

最終ログインの詳細の表示

エンドユーザ（ローカルまたは LDAP クレデンシャルを持つエンドユーザ）と管理者が Cisco Unified Communications Manager または IM and Presence Service の Web アプリケーションにログインすると、アプリケーションのメインウィンドウに、最後に成功したログインと最後に失敗したログインの詳細が表示されます。

SAML SSO 機能を使用してログインするユーザには、最後に成功したシステム ログイン情報だけが表示されます。ユーザが失敗した SAML SSO ログイン情報をトラッキングするには、ID プロバイダー（IdP）アプリケーションを参照できます。

次の Web アプリケーションには、ログイン試行に関する情報が表示されます。

- Cisco Unified Communications Manager:
 - Cisco Unified CM の管理
 - Cisco Unified のレポート
 - Cisco Unified サービスアビリティ
- IM and Presence Service
 - Cisco Unified CM IM and Presence の管理
 - Cisco Unified IM and Presence のレポート
 - Cisco Unified IM and Presence サービスアビリティ

Cisco Unified Communications Manager の次の Web アプリケーションでは、管理者だけがログインして最後のログイン詳細を表示できます。

- Disaster Recovery System
- Cisco Unified OS Administration

ノードの ping

ping ユーティリティを使用して、ネットワーク内の別のノードに ping します。この結果は、デバイスの接続の確認やトラブルシューティングに役立ちます。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Operating System Administration で、[サービス (Services)] > [Ping] を選択します。
- ステップ 2 [Ping の設定 (Ping Configuration)] ウィンドウで、各フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 3 [Ping] を選択します。

ping の結果が表示されます。

サービス パラメータの表示

クラスタ内のすべてのサーバで特定のサービスに属するサービスパラメータをすべて比較する必要がある場合があります。また、同期外れパラメータ（サーバ間で値が異なるサービスパラメータ）または提示された値から変更されているパラメータだけを表示する必要がある場合もあります。

次の手順を使用して、クラスタ内のすべてのサーバ上で特定のサービスに関するサービスパラメータを表示します。

手順

ステップ1 [システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] を選択します。

ステップ2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストボックスで、サーバを選択します。

ステップ3 [サービス (Service)] ドロップダウンリストボックスで、クラスタ内のすべてのサーバ上でサービス パラメータを表示するサービスを選択します。

(注) [サービス パラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウに、すべてのサービス（アクティブと非アクティブ）が表示されます。

ステップ4 表示された [サービス パラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスで [すべてのサーバに対するパラメータ (Parameters for All Servers)] を選択してから、[移動 (Go)] をクリックします。

[すべてのサーバに対するパラメータ (Parameters for All Servers)] ウィンドウが表示されます。現在のサービスに関して、すべてのパラメータがアルファベット順に一覧表示されます。パラメータごとに、推奨値がパラメータ名の横に表示されます。各パラメータ名の下に、そのパラメータを含むサーバのリストが表示されます。各サーバ名の横に、このサーバのパラメータの現在値が表示されます。

特定のパラメータについて、対応するサービス パラメータ ウィンドウにリンクするサーバ名または現在のパラメータ値をクリックし、その値を変更します。[前へ (Previous)] と [次へ (Next)] をクリックすると、[すべてのサーバに対するパラメータ (Parameters for All Servers)] ウィンドウ間を移動できます。

ステップ5 同期外れサービス パラメータを表示する必要がある場合は、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスで、[すべてのサーバに対する同期外れパラメータ (Out of Sync Parameters for All Servers)] を選択してから、[移動 (Go)] をクリックします。

[すべてのサーバに対する同期外れパラメータ (Out of Sync Parameters for All Servers)] ウィンドウが表示されます。現在のサービスに関して、サーバごとに値が異なるサービス パラメータがアルファベット順に表示されます。パラメータごとに、推奨値がパラメータ名の横に表示さ

■ ネットワーク DNS の設定

れます。各パラメータ名の下に、そのパラメータを含むサーバのリストが表示されます。各サーバ名の横に、このサーバのパラメータの現在値が表示されます。

特定のパラメータについて、対応するサービスパラメータ ウィンドウにリンクするサーバ名または現在のパラメータ値をクリックして、その値を変更します。[前へ (Previous)] と [次へ (Next)] をクリックすると、[すべてのサーバに対する同期外れパラメータ (Out of Sync Parameters for All Servers)] ウィンドウ間を移動できます。

- ステップ 6** 推奨値から変更されたサービスパラメータを表示する必要がある場合は、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リストボックスで、[すべてのサーバに対する変更済みパラメータ (Modified Parameters for All Servers)] を選択してから、[移動 (Go)] をクリックします。

[すべてのサーバに対する変更済みパラメータ (Modified Parameters for All Servers)] ウィンドウが表示されます。現在のサービスに関して、推奨値とは異なる値を持つサービスパラメータがアルファベット順に表示されます。パラメータごとに、推奨値がパラメータ名の横に表示されます。各パラメータ名の下に、推奨値とは異なる値を持つサーバのリストが表示されます。各サーバ名の横に、このサーバのパラメータの現在値が表示されます。

特定のパラメータについて、対応するサービスパラメータ ウィンドウにリンクするサーバ名または現在のパラメータ値をクリックして、その値を変更します。[前へ (Previous)] と [次へ (Next)] をクリックすると、[すべてのサーバに対する変更済みパラメータ (Modified Parameters for All Servers)] ウィンドウ間を移動できます。

ネットワーク DNS の設定

DNS ネットワークを設定するには、この手順を使用します



(注)

Cisco Unified CM Administration で、DHCP 設定ウィンドウによって DNS プライマリおよびセカンダリ サーバを割り当てることもできます。

手順

- ステップ 1** コマンドラインインターフェイスにログインします。

- ステップ 2** DNS サーバを割り当てる場合は、パブリックノードに次の commandson のいずれかを実行します。

- プライマリ DNS サーバを割り当てるには、**set network dns primary <ip_address>** を実行します
- セカンダリ DNS サーバを割り当てるには、**set network dns secondary <ip_address>** を実行します

ステップ3 追加の DNS オプションを割り当てるには、**set network dns options [timeout] seconds] [attempts number] [rotate]** を実行します。

- timeout で DNS タイムアウトを設定します
- second はタイムアウトの秒数です
- attempt は DNS 要求の試行回数を設定します
- number は試行回数を指定します
- rotate を指定すると、設定されている DNS サーバのローテーションが行われ、負荷が分散されます

たとえば、**set network dns options timeout 60 attempts 4 rotate** などとします

サーバは、このコマンドの実行後に再起動します。

■ ネットワーク DNS の設定



第 10 章

使用状況レコードの表示

- 使用状況レコードの概要（109 ページ）
- 使用状況レポートのタスク（110 ページ）

使用状況レコードの概要

Cisco Unified Communications Manager が提供するレコードを使用して、設定済みの項目がシステム内でどのように使用されているのかを確認することができます。設定済みの項目には、デバイスだけでなく、デバイス プール、日時グループ、ルート プランなどのシステム レベルの設定も含まれます。

依存関係レコード

依存関係レコードは、次の目的で使用します。

- システム レベルの設定（サーバ、デバイス プール、日時グループなど）に関する情報を調べる。
- 他のレコードを使用しているデータベース内のレコードを確認する。たとえば、特定のコーリング サーチ スペースを使用しているデバイス（CTI ルート ポイントや電話機など）を確認できます。
- レコードを削除する前に、レコード間の依存関係を明らかにする。たとえば、パーティションを削除する前に、依存関係レコードを使用して、そのパーティションにどのコーリング サーチ スペース（CSS）とデバイスが関連付けられているかを確認します。こうすることで、その依存関係を削除するように設定を再構成できます。

ルート プラン レポート

ルート プラン レポートでは、システム内で設定されている番号、ルート、パターンの一部またはすべてを確認できます。レポートを生成する際は、レポートの [パターン/電話番号 (Pattern/Directory Number)] 列、[パーティション (Partition)] 列、または [ルート 詳細 (Route

■ 使用状況レポートのタスク

Detail)]列のエントリをクリックすることで、該当する項目の設定ウィンドウにアクセスできます。

さらに、ルートプランレポートでは、レポートのデータを.CSVファイルに保存して、他のアプリケーションにインポートすることもできます。.CSVファイルにはWebページよりも詳細な情報が含まれます。具体的には、電話機の電話番号、ルートパターン、パターン使用状況、デバイス名、デバイスの説明などの情報です。

Cisco Unified Communications Manager は、内部コールのルーティングにも、外部公衆電話交換網 (PSTN) コールのルーティングにもルートプランを使用します。ネットワークには複数のレコードが存在する可能性があるため、Cisco Unified Communications Manager Administration では、特定の基準に基づいて特定のルートプラン レコードを見つけることができます。

使用状況レポートのタスク

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<p>ルートプランレコードを表示し、これらのレコードを使用して未割り当ての電話番号を管理するには、次の手順を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ルートプランレコードの表示 (111 ページ) • ルートプランレコードの保存 (112 ページ) • 未割り当ての電話番号の削除 (112 ページ) • 未割り当ての電話番号の更新 (113 ページ) 	特定のルートプランレコードを検索し、レコードを CSV ファイルに保存し、未割り当ての電話番号を管理するには、これらの手順を使用してください。
ステップ2	<p>依存関係レコードを使用するには、次の手順を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 依存関係レコードの表示 (115 ページ) 	システムレベルの設定に関する情報を見つけ、データベース内のレコード間の依存関係を表示するには、これらの手順を使用してください。

ルート プラン レポートのタスク フロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	ルートプランレコードの表示 (111ページ)。	ルートプランレコードを表示し、カスタマイズされたルートプランレポートを生成します。
ステップ2	ルートプランレコードの保存 (112ページ)。	.csvファイル形式でルートプランレポートを表示します。
ステップ3	未割り当ての電話番号の削除 (112ページ)。	ルートプランレポートから未割り当ての電話番号を削除します。
ステップ4	未割り当ての電話番号の更新 (113ページ)。	ルートプランレポートから未割り当ての電話番号の設定を更新します。

ルート プラン レコードの表示

ここでは、ルート プラン レコードを表示する方法について説明します。ネットワーク内に複数のレコードがある可能性があるため、[Cisco Unified Communications Manager] の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] では、特定の基準に基づいて特定のルート プラン レコードを検索できます。カスタマイズされたルート プラン レポートを生成するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ1 [コール ルーティング (Call Routing)] > [ルート プラン レポート (Route Plan Report)] の順に選択します。

ステップ2 データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、ステップ3に進みます。

レコードをフィルタまたは検索するには、次の手順を実行します。

- 最初のドロップダウンリストボックスで、検索パラメータを選択します。
- 2番目のドロップダウンリストボックスで、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

ステップ3 [検索 (Find)] をクリックします。

すべて、または条件を満たしているレコードが表示されます。1ページあたりの項目の表示件数を変更するには、[Rows per Page] ドロップダウンリストボックスで別の値を選択します。

ステップ4 表示されるレコードのリストから、表示するレコードへのリンクをクリックします。

■ ルートプランレコードの保存

ウィンドウに選択した項目が表示されます。

ルートプランレコードの保存

このセクションでは、.csvファイルでルートプランレポートを表示する方法について説明します。

手順

ステップ1 [コールルーティング (Call Routing)] > [ルートプランレポート (Route Plan Report)] の順に選択します。

ステップ2 [ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストから [ファイルで表示 (View In File)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

表示されたダイアログボックスで、ファイルを保存するか、別のアプリケーションにファイルをインポートすることができます。

ステップ3 [保存 (Save)] をクリックします。

別のウィンドウが表示され、任意の場所にこのファイルを保存できます。

(注) 別のファイル名での保存も可能ですが、ファイル名には.csv拡張子を含める必要があります。

ステップ4 ファイルを保存する場所を選択し、[保存 (Save)] をクリックします。この操作により、指定した場所にファイルが保存されます。

ステップ5 保存した.csvファイルを探し、アイコンをダブルクリックして表示します。

未割り当ての電話番号の削除

このセクションでは、ルートプランレポートから未割り当ての電話番号を削除する方法について説明します。電話番号は、Cisco Unified Communications Manager Administration の [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで設定または削除します。電話番号がデバイスから削除されたり、電話機が削除されたりしても、電話番号はそのまま Cisco Unified Communications Manager データベース内に残ります。データベースから電話番号を削除するには、[ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウを使用します。

手順

ステップ1 [コールルーティング (Call Routing)] > [ルートプランレポート (Route Plan Report)] を選択します。

ステップ2 [ルート プラン レポート (Route Plan Report)] ウィンドウで、3つのドロップダウンリストを使用して、すべての未割り当て DN を列挙するルート プラン レポートを指定します。

ステップ3 電話番号を削除する3つの方法があります。

- 削除する電話番号をクリックします。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されたら、[削除 (Delete)] をクリックします。
- 削除する電話番号の横にあるチェック ボックスをオンにします。[選択項目の削除] をクリックします。
- 見つかった未割り当ての電話番号をすべて削除するには、[見つかった項目をすべて削除 (Delete All Found Items)] をクリックします。

電話番号を削除するかどうかを確認する警告メッセージが表示されます。

ステップ4 電話番号を削除する場合は、[OK] をクリックします。削除要求をキャンセルする場合は、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。

未割り当ての電話番号の更新

この項では、ルート プラン レポートから未割り当ての電話番号の設定を更新する方法について説明します。電話番号は、Cisco Unified Communications Manager Administration の [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで設定または削除します。デバイスから電話番号が削除されても、電話番号は Cisco Unified Communications Manager データベースに残っています。電話番号の設定を更新するには、[ルート プラン レポート (Route Plan Report)] ウィンドウを使用します。

手順

ステップ1 [コール ルーティング (Call Routing)] > [ルート プラン レポート (Route Plan Report)] を選択します。

ステップ2 [ルート プラン レポート (Route Plan Report)] ウィンドウで、3つのドロップダウンリストを使用して、未割り当ての電話番号をすべてリストするルート プラン レポートを指定します。

ステップ3 更新する電話番号をクリックします。

(注) 電話番号およびパーティションを除く、電話番号のすべての設定を更新できます。

ステップ4 コーリング サーチ スペースや転送オプションなどの必要な更新を行います。

ステップ5 [保存 (Save)] をクリックします。

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが再度表示され、電話番号フィールドが空になります。

依存関係レコード タスク フロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	依存関係レコードの設定 (114 ページ) 。	この手順を使用して、依存関係レコードを有効または無効にします。この手順は、通常よりも低い優先順位で実行され、ダイヤル プランの規模と複雑さ、CPU 速度、およびその他のアプリケーションの CPU 要件によっては完了までに時間がかかることがあります。
ステップ2	依存関係レコードの表示 (115 ページ) 。	依存関係レコードを有効にすると、インターフェイスの設定 ウィンドウからさらにアクセスできます。

依存関係レコードの設定

依存レコードを使用して、Cisco Unified Communications Manager データベース内のレコード間の関係を表示します。たとえば、パーティションを削除する前に、依存関係レコードを使用して、そのパーティションにどのコーリング サーチ スペース (CSS) とデバイスが関連付けられているかを確認します。



注意

依存関係レコードを使用すると、CPU 使用率が高くなります。この手順は、通常よりも低い優先順位で実行され、ダイヤル プランの規模と複雑さ、CPU 速度、およびその他のアプリケーションの CPU 要件によっては完了までに時間がかかることがあります。

依存関係レコードを有効にしたために、システムで CPU 使用率の問題が発生している場合は、依存関係レコードを無効にすることができます。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM の管理で、[システム (System)] > [エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。

ステップ2 [CCMAdmin パラメータ (CCMAdmin Parameters)] セクションにスクロールし、[依存関係レコードの有効化 (Enable Dependency Records)] ドロップダウンリストで、次のオプションのいずれかを選択します。

- [True] : 依存関係レコードを有効にします。
- [False] : 依存関係レコードを無効にします。

選択したオプションに基づいて、依存関係レコードを有効または無効にした結果に関するメッセージを含むダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで、[OK]をクリックする前に、メッセージをお読みください。

ステップ3 [OK]をクリックします。

ステップ4 [保存 (Save)]をクリックします。

変更を確認する「更新に成功しました (Update Successful)」メッセージが表示されます。

依存関係レコードの表示

依存関係レコードを有効にすると、インターフェイスの設定ウィンドウからそれらにアクセスできます。

始める前に

[依存関係レコードの設定 \(114 ページ\)](#)

手順

ステップ1 Cisco Unified CM の管理から、表示するレコードの設定ウィンドウに移動します。

例：

デバイス プールの依存関係レコードを表示するには、[システム (System)] > [デバイス プール (Device Pool)] を選択します。

(注) [デバイスのデフォルト (Device Defaults)] ウィンドウと [エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウで依存関係レコードを表示することはできません。

ステップ2 [検索 (Find)]をクリックします。

ステップ3 レコードのいずれかをクリックします。

設定ウィンドウが表示されます。

ステップ4 [関連リンク (Related Links)]リストボックスで、[依存関係レコード (Dependency Records)]を選択し、[移動 (Go)]をクリックします。

(注) 依存関係レコードを有効にしていない場合は、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウに、レコードに関する情報ではなくメッセージが表示されます。

[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウには、データベース内の他のレコードによって使用されるレコードが表示されます。

ステップ5 このウィンドウで、次の依存関係レコードボタンのいずれかを選択します。

- [更新 (Refresh)]：最新の情報でウィンドウを更新します。

■ 依存関係レコードの表示

- [閉じる (Close)] : [依存関係レコード (Dependency Records)] リンクをクリックした設定ウィンドウに戻らずにウィンドウを閉じます。
 - [閉じて戻る (Close and Go Back)] : ウィンドウを閉じて、[依存関係レコード (Dependency Records)] リンクをクリックした設定ウィンドウに戻ります。
-



第 11 章

エンタープライズ パラメータの管理

- エンタープライズ パラメータの概要 (117 ページ)

エンタープライズ パラメータの概要

エンタープライズ パラメータは、クラスタ全体ですべてのデバイスやサービスに適用されるデフォルト設定を提供します。たとえば、システムではエンタープライズ パラメータを使用してデバイスのデフォルトの初期値を設定します。

ユーザはエンタープライズ パラメータを追加または削除できませんが、既存のエンタープライズ パラメータを更新することはできます。エンタープライズ パラメータの設定 ウィンドウには、カテゴリ (CCMAdmin パラメータ、CCMUser パラメータ、CDR パラメータなど) ごとにエンタープライズ パラメータが一覧表示されます。

エンタープライズ パラメータの詳細な説明は、[エンタープライズ パラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウで確認できます。



注意

エンタープライズ パラメータの多くは、変更する必要がありません。変更しようとしている機能を完全に理解している場合、または Cisco Technical Assistance Center (TAC) から変更を指示された場合を除き、エンタープライズ パラメータを変更しないでください。

エンタープライズ パラメータ情報の表示

[エンタープライズ パラメータ設定 (Enterprise Parameter Configuration)] ウィンドウで、埋め込まれたコンテンツを通してエンタープライズ パラメータに関する情報にアクセスします。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM の管理から、[システム (System)]>[エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。

ステップ2 次のいずれかの作業を実行します。

エンタープライズ パラメータの更新

- 特定のエンタープライズ パラメータの説明を表示するには、パラメータ名をクリックします。
- エンタープライズ パラメータの説明をすべて表示するには、[?] をクリックします。

エンタープライズ パラメータの更新

次の手順を使用して、[エンタープライズ パラメータ設定 (Enterprise Parameter Configuration)] ウィンドウを開き、システム レベル設定を構成します。



注意

エンタープライズ パラメータの多くは、変更する必要がありません。変更しようとしている機能を完全に理解している場合、または Cisco Technical Assistance Center (TAC) から変更を指示された場合を除き、エンタープライズ パラメータを変更しないでください。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM の管理から、[システム (System)] > [エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。

ステップ 2 変更するエンタープライズ パラメータに必要な値を選択します。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[デバイスへの設定の適用 \(118 ページ\)](#)

デバイスへの設定の適用

次の手順を使用して、構成した設定でクラスタ内のすべての影響を受けるデバイスを更新します。

始める前に

[エンタープライズ パラメータの更新 \(118 ページ\)](#)

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM の管理から、[システム (System)] > [エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。

ステップ 2 変更を確認してから、[保存 (Save)] をクリックします。

ステップ3 次のいずれかのオプションを選択します。

- ・システムでリブートするデバイスを判断するには、[設定の適用 (Apply Config)]をクリックします。リブートする必要がないデバイスもあります。進行中のコールはドロップされる可能性がありますが、接続されたコールは、デバイスプールにSIPトランクが含まれていない限り、保持されます。
- ・クラスタ内のすべてのデバイスをリブートするには、[リセット (Reset)]をクリックします。この手順はオフピーク時間帯に実行することをお勧めします。

ステップ4 確認ダイアログを読んでから、[OK] をクリックします。

デフォルトエンタープライズパラメータの復元

エンタープライズパラメータをデフォルト設定にリセットする場合は、次の手順を使用します。一部のエンタープライズパラメータには、設定ウィンドウの列に示すように、推奨値が含まれています、この手順では、これらの値をデフォルト設定として使用します。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM の管理から、[システム (System)]>[エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。

ステップ2 [デフォルトに設定 (Set to Default)] をクリックします。

ステップ3 確認プロンプトを読み、[OK] をクリックします。

■ デフォルトエンタープライズパラメータの復元



第 12 章

サーバの管理

- サーバの管理の概要 (121 ページ)
- サーバの削除 (121 ページ)
- インストール前のクラスタへのノードの追加 (124 ページ)
- プrezens サーバのステータスの表示 (125 ページ)
- ホスト名の設定 (126 ページ)
- Kernaldump ユーティリティ (128 ページ)

サーバの管理の概要

この章では、Cisco Unified Communications Manager ノードのプロパティを管理する方法、プレゼンス サーバのステータスを表示する方法、および Unified Communications Manager サーバのホスト名を設定する方法を説明します。

サーバの削除

この項では、Cisco Unified Communications Manager データベースからサーバを削除する方法、および削除したサーバを再び Cisco Unified Communications Manager クラスタに追加する方法について説明します。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、クラスタの最初のノードは削除できませんが、2 番目以降のノードは削除できます。[サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウで以後のノードを削除する前に、Cisco Unified CM の管理ページに、「「1つ以上のサーバを完全に削除しようとしています。この操作を取り消すことはできません。続行しますか?」」というメッセージが表示されます。[OK] をクリックすると、そのサーバは Cisco Unified CM データベースから削除され、以後使用できなくなります。



ヒント

[サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウでサーバを削除しようとすると、前述と同様のメッセージが表示されます。[OK] をクリックすると、そのサーバは Cisco Unified CM データベースから削除され、以後使用できなくなります。

クラスタからの Unified Communications Manager ノードの削除

サーバを削除する前に、次の点を考慮してください。

- Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、クラスタ内の最初のノードを削除できませんが、2番目以降のノードは削除できます。
- Cisco Unified Communications Manager が動作しているノード、特に、電話機などのデバイスが登録されているノードは削除しないことをお勧めします。
- 2番目以降のノードに関する依存関係レコードが存在する場合でも、そのレコードが原因でノードが削除できなくなることはありません。
- 削除するノードの Cisco Unified Communications Manager にコールパーク番号が設定されている場合は、削除できません。ノードを削除するには、Cisco Unified CM の管理でコールパーク番号を削除する必要があります。
- Cisco Unified Communications Manager の管理ページの設定フィールドに削除するサーバの IP アドレスまたはホスト名が含まれている場合は、サーバを削除する前に設定を更新してください。この作業を行わないと、サーバの削除後、その設定に依存する機能が動作しなくなる場合があります。たとえば、サービスパラメータ、エンタープライズパラメータ、サービス URL、ディレクトリ URL、IP Phone サービスなどに IP アドレスまたはホスト名を入力した場合は、サーバを削除する前に、この設定を更新してください。
- たとえば Cisco Unity、Cisco Unity Connection などのアプリケーションの GUI に削除するサーバの IP アドレスまたはホスト名が含まれている場合は、サーバを削除する前に、対応する GUI の設定を更新してください。この作業を行わないと、サーバの削除後、その設定に依存する機能が動作しなくなる場合があります。
- サーバを削除すると、MOH サーバなどのデバイスも自動的に削除される場合があります。
- ノードを削除する前に、2番目以降のノードでアクティブになっているサービスを非アクティブにしておくことをお勧めします。この作業を実行しておくと、ノードの削除後にサービスが動作することが保証されます。
- サーバ設定の変更を有効にするには、Cisco Unified Communications Manager を再起動します。Cisco CallManager サービスの再起動については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。
- データベースファイルが正しく更新されるようにするには、サーバ、プレゼンス、またはアプリケーションサーバの削除後にクラスタをリポートする必要があります。
- ノードの削除後、Cisco Unified Reporting にアクセスして、Cisco Unified Communications Manager でクラスタからノードが削除されたことを確認してください。さらに、Cisco Unified Reporting、RTMT、または CLI にアクセスして既存のノード間でデータベース レプリケーションが行われていることを確認し、必要であれば、CLI を使用してノード間のデータベース レプリケーションを修復してください。

クラスタからの Unified Communications Manager ノードの削除

次の手順に従って、クラスタから Cisco Unified Communications Manager ノードを削除します。

手順

- ステップ1** Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [サーバ (Server)] を選択します。
- ステップ2** [検索 (Find)] をクリックして、削除するノードを選択します。
- ステップ3** [削除 (Delete)] をクリックします。
- ステップ4** このアクションを取り消せないことを示す警告ダイアログ ボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。
- ステップ5** 割り当てを解除したノードのホスト VM をシャットダウンします。

クラスタからの IM およびプレゼンスノードの削除

プレゼンス冗長グループおよびクラスタから IM and Presence サービス ノードを安全に削除する必要がある場合は、この手順に従います。



- 注意** ノードを削除すると、そのプレゼンス冗長グループの残りのノードで、ユーザに対するサービスが中断されます。この手順は必ず、メンテナンス期間中に実行してください。

手順

- ステップ1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] > [システム (System)] > [プレゼンス冗長グループ (Presence Redundancy Groups)] ページで、高可用性が有効な場合は無効にします。
- ステップ2** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] > [ユーザ管理 (User Management)] > [プレゼンスユーザーの割り当て (Assign Presence Users)] ページで、削除するノードからすべてのユーザの割り当てを解除するか、移動します。
- ステップ3** プrezenss冗長グループからノードを削除するには、プレゼンス冗長グループの [プレゼンス冗長グループの設定 (Presence Redundancy Group Configuration)] ページの [プレゼンスサーバ (Presence Server)] ドロップダウンリストから、[未選択 (Not-Selected)] を選択します。ノードの割り当て解除の結果としてプレゼンス冗長グループ内のサービスが再起動されることを示す警告ダイアログ ボックスが表示されたら、[OK] を選択します。
- ステップ4** Cisco Unified CM の管理で、[システム (System)] > [サーバ (Server)] から、未割り当てのノードを削除します。このアクションを取り消せないことを示す警告ダイアログ ボックスが表示されたら、[OK] を選択します。
- ステップ5** 割り当てを解除したノードのホスト VM またはサーバをシャットダウンします。
- ステップ6** すべてのノードの Cisco XCP Router を再起動します。

■ 削除したサーバをクラスタに戻す

削除したサーバをクラスタに戻す

Unified Communications Manager Administration から後続のノード（サブスクリーブ）を削除してそれをクラスタに戻す場合に、次の手順を実行します。

手順

ステップ1 Cisco Unified Communications Manager Administration で、[システム (System)] > [サーバ (Server)] を選択してサーバを追加します。

ステップ2 後続のノードを Cisco Unified Communications Manager Administration に追加したら、Cisco が提供しているソフトウェアキットに付属しているご使用のバージョン用のディスクを使用して、サーバ上でインストールを実行します。

ヒント インストールするバージョンが、パブリッシャノード上で動作しているバージョンと一致することを確認します。パブリッシャ上で実行されているバージョンがインストールファイルと一致しない場合は、インストールプロセス中に[インストール中にアップグレード (Upgrade During Install)] オプションを選択します。インストールの詳細については、『*Installation Guide for Cisco Unified Communications Manager and the IM and Presence Service*』を参照してください。

ステップ3 Cisco Unified CM をインストールしたら、その Cisco Unified CM のバージョンをサポートしているインストールマニュアルの説明に従って、後続のノードを設定します。

ステップ4 Cisco Unified Reporting、RTMT、または CLI にアクセスして、データベース レプリケーションが既存のノード間で発生していることを確認します。必要に応じて、ノード間のデータベース レプリケーションを修復します。

インストール前のクラスタへのノードの追加

ノードをインストールする前に、Cisco Unified Communications Manager Administration を使用して、新しいノードをクラスタに追加します。ノードの追加時に選択するサーバタイプは、インストールしたサーバタイプと一致する必要があります。

新しいノードをインストールする前に、Cisco Unified Communications Manager Administration を使用して、最初のノードで新しいノードを設定する必要があります。クラスタにノードをインストールするには、『*Cisco Unified Communications Manager Installation Guide*』を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager のビデオ/音声サーバでは、Cisco Unified Communications Manager ソフトウェアの初期インストール中に追加した最初のサーバがパブリッシャノードに指定されます。後続のすべてのサーバインストールまたは追加は、サブスクリーブノードに指定されます。クラスタに追加した最初の Cisco Unified Communications Manager IM and Presence ノードが、IM and Presence Service データベース パブリッシャノードに指定されます。



(注)

サーバの追加後は、Cisco Unified Communications Manager Administration を使用して、サーバタイプを変更できなくなります。既存のサーバインスタンスを削除してから、再度、新しいサーバを追加して、正しいサーバタイプ設定を選択する必要があります。

手順

ステップ1 [システム (System)] > [サーバ (Server)] を選択します。

[サーバの検索/一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウが表示されます。

ステップ2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

[サーバの設定 - サーバを追加 (Server Configuration - Add a Server)] ウィンドウが表示されます。

ステップ3 [サーバタイプ (Server Type)] ドロップダウンリストボックスで、追加するサーバタイプを選択してから、[次へ (Next)] をクリックします。

- CUCM ビデオ/音声
- CUCM IM and Presence

ステップ4 [サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウで、適切なサーバ設定を入力します。

サーバ設定フィールドの説明については、「[Server Settings](#)」を参照してください。

ステップ5 [保存 (Save)] をクリックします。

プレゼンス サーバのステータスの表示

IM and Presence Service ノードの重要なサービスのステータスと自己診断テスト結果を確認するには、Cisco Unified Communications Manager Administration を使用します。

手順

ステップ1 [システム (System)] > [サーバ (Server)] を選択します。

[サーバの検索/一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウが表示されます。

ステップ2 サーバの検索パラメータを選択し、[検索 (Find)] をクリックします。

一致するレコードが表示されます。

ホスト名の設定

ステップ3 [サーバの検索/一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウに表示される IM and Presence サーバを選択します。

[サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ4 [サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウの IM and Presence サーバ情報のセクションで、プレゼンスサーバステータスのリンクをクリックします。

サーバの [ノードの詳細 (Node Details)] ウィンドウが表示されます。

ホスト名の設定

次の表に、Unified Communications Manager サーバのホスト名を設定できる場所、ホスト名として指定できる文字数、および推奨されるホスト名の先頭文字と最終文字を示します。ホスト名を正しく設定しないと、Unified Communications Manager の一部のコンポーネント（オペレーティングシステム、データベース、インストールなど）が期待通りに機能しない可能性があります。

表 6: Cisco Unified Communications Managerにおけるホスト名の設定

ホスト名の場所	可能な設定	指定できる文字数	推奨されるホスト名の先頭文字	推奨されるホスト名の最終文字
[ホスト名/IP アドレス (Hostname/ IP Address)] フィールド Cisco Unified Communications Manager Administration の [システム (System)] > [サーバ (Server)]	クラスタ内のサーバのホスト名を追加または変更できます。	2 ~ 63	英字	英数字
[ホスト名 (Hostname)] フィールド Cisco Unified Communications Manager インストール ウィザード	クラスタ内のサーバのホスト名を追加できます。	1 ~ 63	英字	英数字
[ホスト名 (Hostname)] フィールド Cisco Unified Communications オペレーティングシステム の [設定 (Settings)] > [IP] > [イーサネット (Ethernet)]	クラスタ内のサーバのホスト名を変更できますが、追加はできません。	1 ~ 63	英字	英数字

ホスト名の場所	可能な設定	指定できる文字数	推奨されるホスト名の先頭文字	推奨されるホスト名の最終文字
set network hostname hostname コマンドラインインターフェイス	クラスタ内の中のサーバのホスト名を変更できますが、追加はできません。	1 ~ 63	英字	英数字



ヒント

このホスト名は、ARPANET ホスト名の規則に従う必要があります。ホスト名の先頭文字と最終文字の間には、英数文字とハイフンを入力できます。

いずれかの場所でホスト名を設定する前に、次の情報を確認してください。

- [サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウの [ホスト名/IP アドレス (Host Name/IP Address)] フィールドは、デバイスとサーバ間、アプリケーションとサーバ間、および異なるサーバ間の通信をサポートします。このフィールドには、ドット区切り形式の IPv4 アドレスまたはホスト名を入力できます。

Unified Communications Manager パブリッシャノードをインストールした後は、パブリッシャのホスト名がこのフィールドに自動的に表示されます。Unified Communications Manager サブスクライバノードをインストールする前に、Unified Communications Manager パブリッシャノードでこのフィールドにサブスクライバノードの IP アドレスまたはホスト名を入力してください。

このフィールドにホスト名を設定できるのは、Unified Communications Manager が DNS サーバにアクセスしてホスト名を IP アドレスに解決できる場合のみです。DNS サーバに Cisco Unified Communications Manager の名前とアドレスの情報が設定されていることを確認してください。



ヒント

DNS サーバに Unified Communications Manager の情報を設定するのに加えて、Cisco Unified Communications Manager のインストール時に DNS 情報を入力します。

- Unified Communications Manager パブリッシャノードのインストール時に、ネットワーク情報を設定するために（つまり、スタティックネットワークを使用する場合）パブリッシャサーバのホスト名（必須）と IP アドレスを入力します。

Unified Communications Manager サブスクライバノードのインストール時には、Unified Communications Manager パブリッシャノードのホスト名と IP アドレスを入力して、Unified Communications Manager がネットワークの接続性およびパブリッシャとサブスクライバ間の検証を確認できるようにしてください。さらに、サブスクライバノードのホスト名と IP アドレスも入力する必要があります。Unified Communications Manager のインストール時にサブスクライバサーバのホスト名の入力を求められた場合は、Cisco Unified Communications Manager Administration の ([ホスト名/IP アドレス (Host Name/IP Address)]

Kerneldump ユーティリティ

フィールドでサブスクリバーサーバのホスト名を設定した場合に) [サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウに表示される値を入力します。

Kerneldump ユーティリティ

Kerneldump ユーティリティにより、セカンダリ サーバを要求することなしに、該当するマシンでクラッシュダンプ ログをローカルに収集できます。

Unified Communications Manager クラスタでは、Kerneldump ユーティリティがサーバで有効であることを確認するだけで、クラッシュダンプ情報を収集できます。



(注)

シスコでは、より効果的なトラブルシューティングを実現するため、Unified Communications Manager のインストール後に、Kerneldump ユーティリティが有効であることを確認するよう推奨しています。Kerneldump ユーティリティの設定をまだ行っていない場合は、Unified Communications Manager をサポート対象のアプライアンス リリースからアップグレードする前にに行ってください。



重要

Kerneldump ユーティリティを有効化または無効化を行うには、ノードのリブートが必要です。リブートが許容されるウィンドウ以外では、enable コマンドを実行しないでください。

Cisco Unified Communications オペレーティング システムのコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用すると、Kerneldump ユーティリティの有効化、無効化、ステータス確認を実行できます。

次の手順を利用して Kerneldump ユーティリティを有効化します。

ユーティリティによって収集されるファイルの処理

Kerneldump ユーティリティから送信されたクラッシュ情報を見ると、Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool またはコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用します。Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool を使用して netdump ログを収集するには、[トレースおよびログ セントラル (Trace & Log Central)] の [ファイルの収集 (Collect Files)] オプションを選択します。[システム サービス/アプリケーションの選択 (Select System Services/Applications)] タブで、[Kerneldump ログ (Kerneldump logs)] チェックボックスをオンにします。Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool を使用したファイルの収集の詳細については、『Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide』を参照してください。

CLI を使用して kerneldump ログを収集するには、クラッシュディレクトリのファイルに対して「file」 CLI コマンドを使用します。これらは「activelog」のパーティションの下にあります。ログファイル名は、kerneldump クライアントの IP アドレスで始まり、ファイルが作成された日付で終わります。ファイルコマンドの詳細については、『Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Solutions』を参照してください。

Kerneldump ユーティリティの有効化

次の手順を利用して Kerneldump ユーティリティを有効化します。カーネルクラッシュが発生した場合、ユーティリティは、クラッシュの収集とダンプのメカニズムを提供します。ローカルサーバまたは外部サーバにログをダンプするユーティリティを設定できます。

手順

ステップ1 コマンドラインインターフェイスにログインします。

ステップ2 次のいずれかを実行します。

- ローカルサーバ上のカーネルクラッシュをダンプするには、`utils os kernelcrash enable` CLI コマンドを実行します。
- 外部サーバにカーネルクラッシュをダンプするには、外部サーバの IP アドレスを指定して `utils os kerneldump ssh enable <ip_address>` CLI コマンドを実行します。

ステップ3 サーバをリブートします。

例



(注)

kerneldump ユーティリティを無効にする必要がある場合、`utils os kernelcrash disable` CLI コマンドを実行してローカルサーバのコアダンプを無効にし、`utils os kerneldump ssh disable <ip_address>` CLI コマンドを実行して外部サーバ上のユーティリティを無効にします。

次のタスク

コアダンプの指示に従ってリアルタイムモニタリングツールで電子メールアラートを設定します。詳細については、[コアダンプの電子メールアラートの有効化（129ページ）](#) を参照してください。

kerneldump ユーティリティおよびトラブルシューティングについては、『*Troubleshooting Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

コアダンプの電子メールアラートの有効化

コアダンプが発生するたびに管理者に電子メールを送信するようにリアルタイムモニタリングツールを設定するには、次の手順を使用します。

手順

ステップ1 [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラートセントラル (Alert Central)] の順に選択します。

ステップ2 [CoreDumpFileFound] アラートを右クリックし、[アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)] を選択します。

ステップ3 ウィザードの指示に従って優先条件を設定します。

- a) [アラートプロパティ : 電子メール通知 (Alert Properties: Email Notification)] ポップアップで、[電子メールの有効化 (Enable Email)] がオンになっていることを確認し、[設定 (Configure)] をクリックしてデフォルトのアラートアクションを設定します。これにより管理者に電子メールが送信されます。
- b) プロンプトに従って、受信者電子メールアドレスを [追加 (Add)] します。このアラートがトリガーされると、デフォルトのアクションは、このアドレスへの電子メールの送信になります。
- c) [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ4 デフォルトの電子メールサーバを設定します。

- a) [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [電子メールサーバの設定 (Config Email Server)] の順に選択します。
- b) 電子メールサーバの設定を入力します。
- c) [OK] をクリックします。



第 V 部

セキュリティの管理

- SAML シングルサインオンの管理（133 ページ）
- 証明書の管理（143 ページ）
- 一括証明書の管理（163 ページ）
- IPSec ポリシーの管理（167 ページ）
- クレデンシャル ポリシーの管理（171 ページ）



第 13 章

SAML シングル サインオンの管理

- SAML シングル サインオンの概要 (133 ページ)
- iOS 上での Cisco Jabber の証明書ベースの SSO 認証のオプトイン制御 (133 ページ)
- SAML シングル サインオンの前提条件 (134 ページ)
- SAML シングル サインオンの管理 (135 ページ)

SAML シングル サインオンの概要

定義された一連の Cisco アプリケーションのうちの 1 つにサインインした後は、SAML シングル サインオン (SSO) を使用して、それらすべてのアプリケーションにアクセスできます。SAML では、信頼できるビジネスパートナー間で、セキュリティに関連した情報交換を記述します。これは、ユーザを認証するために、サービス プロバイダー (Cisco Unified Communications Manager など) が使用する認証プロトコルです。SAML では、ID プロバイダー (IdP) とサービス プロバイダーとの間でセキュリティ認証情報が交換されます。この機能は、さまざまなアプリケーションにわたり、共通の資格情報と関連情報を使用するための安全な機構を提供します。

SAML SSO は、IdP とサービス プロバイダーの間でのプロビジョニング プロセスの一部として、メタデータと証明書を交換することで、信頼の輪 (CoT) を確立します。サービス プロバイダーは IdP のユーザ情報を信頼して、さまざまなサービスやアプリケーションへのアクセスを許可します。

クライアントは IdP に対する認証を行い、IdP はクライアントにアサーションを与えます。クライアントはサービス プロバイダーにアサーションを提示します。CoT が確立されているため、サービス プロバイダーはアサーションを信頼し、クライアントにアクセス権を与えます。

iOS 上での Cisco Jabber の証明書ベースの SSO 認証のオプトイン制御

このリリースの Cisco Unified Communications Manager には、iOS での Cisco Jabber の SSO ログイン動作を ID プロバイダー (IdP) によって制御するためのオプトイン設定オプションが導入

SAML シングルサインオンの前提条件

されています。このオプションを使用すると、制御されたモバイルデバイス管理（MDM）環境内で、Cisco Jabber が IdP による証明書ベースの認証を実行できるようになります。

オプトイン制御を設定するには、Cisco Unified Communications Manager で [iOS の SSO ログイン動作 (SSO Login Behavior for iOS)] エンタープライズパラメータを使用します。



(注) このパラメータのデフォルト値を変更する前に、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/jabber-windows/tsd-products-support-series-home.html> で Cisco Jabber 機能のサポートおよびドキュメントを参照して、SSO ログイン動作と証明書ベースの認証に対する iOS 上での Cisco Jabber のサポートを確認してください。

この機能を有効にするには、[iOS Cisco Jabber の SSO ログインの動作設定 \(136 ページ\)](#) の手順を参照してください。

SAML シングルサインオンの前提条件

- Cisco Unified Communications Manager クラスタに DNS が設定されていること
- ID プロバイダー (IdP) サーバ
- IdP サーバによって信頼され、システムでサポートされる LDAP サーバ

SAML SSO 機能のテストは、SAML 2.0 を使用した以下の IdP で行われています。

- OpenAM 10.0.1
- Microsoft® Active Directory® Federation Services 2.0 (AD FS 2.0)
- PingFederate® 6.10.0.4
- F5 BIG-IP 11.6.0

サードパーティ アプリケーションは、次の設定要件を満たす必要があります。

- 必須属性の「uid」が IdP で設定されていること。この属性は、Cisco Unified Communications Manager の LDAP と同期されたユーザ ID に使用されている属性と一致している必要があります。



(注) Cisco Unified Communications Manager では現在のところ、ユーザ ID 設定の LDAP 属性として sAMAccountName オプションのみをサポートしています。

必須属性マッピングの設定の詳細については、IdP の製品マニュアルを参照してください。

- SAML SSOに参加するすべてのエンティティのクロックを同期させる必要があります。クロックの同期の詳細については、『System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-installation-and-configuration-guides-list.html>) の「「NTP Settings」」を参照してください。

SAML シングルサインオンの管理

SAML シングルサインオンの有効化



(注) 同期エージェントの確認テストに合格するまで、SAML SSOを有効にすることはできません。

始める前に

- ユーザデータが Unified Communications Manager データベースに同期されていることを確認します。詳細については、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-installation-and-configuration-guides-list.html> で、『System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。
- Cisco Unified CM IM and Presence サービスと Cisco Sync Agent サービスのデータ同期が完了していることを確認します。このテストのステータスをチェックするには、[Cisco Unified CM IM and Presence Administration] > [診断 (Diagnostics)] > [システムトラブルシューティング (System Troubleshooter)] を選択します。[Sync Agent が関連データ (デバイス、ユーザ、ライセンス情報など) を使用して同期したこと] を確認する (Verify Sync Agent has sync'ed over relevant data (e.g. devices, users, licensing information)) 「」 テストは、データ同期が正常に完了した場合にテスト合格の結果が示されています。
- Cisco Unified CM の管理へのアクセスを有効にするには、少なくとも 1人の LDAP 同期ユーザが Standard CCM Super Users グループに追加されていることを確認します。詳細については、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-installation-and-configuration-guides-list.html> で、『System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。
- IdP とサーバ間の信頼関係を設定するには、IdP から信頼メタデータ ファイルを取得し、それをすべてのサーバにインポートする必要があります。

iOS Cisco Jabber の SSO ログインの動作設定

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[システム (System)] > [SAML シングルサインオン (SAML Single Sign-On)] を選択します。
- ステップ 2** [SAML SSO の有効化 (Enable SAML SSO)] をクリックします。
- ステップ 3** すべてのサーバ接続が再起動されることを通知する警告メッセージが表示されたら、[続行 (Continue)] をクリックします。
- ステップ 4** [参照 (Browse)] をクリックし、IdP メタデータ ファイルを探してアップロードします。
- ステップ 5** [IdP メタデータのインポート (Import IdP Metadata)] をクリックします。
- ステップ 6** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 7** [信頼メタデータ ファイルセットのダウンロード (Download Trust Metadata Fileset)] をクリックして、サーバメタデータをシステムにダウンロードします。
- ステップ 8** IdP サーバ上にサーバメタデータをアップロードします。
- ステップ 9** [次へ (Next)] をクリックして続行します。
- ステップ 10** 有効な管理者 ID のリストから、管理者権限を持つ LDAP 同期ユーザを選択します。
- ステップ 11** [テストを実行 (Run Test)] をクリックします。
- ステップ 12** 有効なユーザ名およびパスワードを入力します。
- ステップ 13** 成功メッセージが表示されたら、ブラウザ ウィンドウを閉じます。
- ステップ 14** [完了 (Finish)] をクリックし、Web アプリケーションが再起動するまで 1~2 分待ちます。

iOS Cisco Jabber の SSO ログインの動作設定

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。
- ステップ 2** オプトイン制御を設定するには、[SSO の設定 (SSO Configuration)] セクションで、[iOS 向け SSO ログイン動作 (SSO Login Behavior for iOS)] パラメータで、[ネイティブ ブラウザの使用 (Use Native Browser)] オプションを選択します。

(注) [iOS 向け SSO ログイン動作 (SSO Login Behavior for iOS)] パラメータには次のオプションが含まれます。

- ・[組み込みブラウザの使用 (Use Embedded Browser)] : このオプションを有効にすると、Cisco Jabber は SSO の認証に、組み込みブラウザを使用します。このオプションにより、バージョン 9 より前の iOS デバイスのネイティブ Apple Safari ブラウザで、クロス起動なしの SSO を使用できるようになります。このオプションは、デフォルトで有効です。

- ・[ネイティブブラウザの使用 (Use Native Browser)] : このオプションを有効にすると、Cisco Jabber は、iOS デバイスで Apple Safari フレームワークを使用し、MDM の導入で、ID プロバイダー (IdP) を利用する証明書ベースの認証を実行します。

(注) ネイティブブラウザの使用は組み込みブラウザの使用ほど安全ではないため、制御された MDM の導入での利用を除いては、このオプションの設定を推奨しません。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

アップグレード後の WebDialer 上での SAML シングル サインオンの有効化

次のタスクに従って、アップグレード後に Cisco WebDialer 上で SAML シングル サインオンを再度アクティビ化します。SAML シングル サインオンを有効化する前に Cisco WebDialer をアクティビ化すると、デフォルトで、Cisco WebDialer 上で SAML シングル サインオンが有効になりません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Cisco WebDialer サービスの非アクティビ化 (138 ページ)	Cisco WebDialer Web サービスがすでにアクティビ化になっている場合は、それを非アクティビ化します。
ステップ 2	SAML シングル サインオンの無効化 (138 ページ)	SAML シングル サインオンがすでに有効化されている場合は、それを無効化します。
ステップ 3	Cisco WebDialer サービスのアクティビ化 (138 ページ)	
ステップ 4	SAML シングル サインオンの有効化 (135 ページ)	

Cisco WebDialer サービスの非アクティブ化

Cisco WebDialer Web サービスがすでにアクティブになっている場合は、それを非アクティブにします。

手順

-
- ステップ1** Cisco Unified Serviceability から、[ツール (Tools)]>[サービスの有効化 (Service Activation)] を選択します。
 - ステップ2** [サーバ (Servers)] ドロップダウンリストから、リストされている Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。
 - ステップ3** [CTI サービス (CTI Services)] で、[Cisco WebDialer Web サービス (Cisco WebDialer Web Service)] チェック ボックスをオフにします。
 - ステップ4** [保存 (Save)] をクリックします。
-

次のタスク

[SAML シングルサインオンの無効化 \(138 ページ\)](#)

SAML シングルサインオンの無効化

SAML シングルサインオンがすでに有効になっている場合は、それを無効にします。

始める前に

[Cisco WebDialer サービスの非アクティブ化 \(138 ページ\)](#)

手順

CLI から、**utils sso disable** コマンドを実行します。

次のタスク

[Cisco WebDialer サービスのアクティブ化 \(138 ページ\)](#)

Cisco WebDialer サービスのアクティブ化

始める前に

[SAML シングルサインオンの無効化 \(138 ページ\)](#)

手順

- ステップ1** Cisco Unified Serviceability から、[ツール (Tools)] > [サービスの有効化 (Service Activation)] を選択します。
- ステップ2** [サーバ (Servers)] ドロップダウンリストから、リストされている Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。
- ステップ3** [CTI サービス (CTI Services)] から、[Cisco WebDialer Web サービス (Cisco WebDialer Web Service)] チェック ボックスをオンにします。
- ステップ4** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ5** Cisco Unified Serviceability から、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター - 機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択して、CTI Manager サービスがアクティブでスタートモードになっていることを確認します。
- WebDialer を正しく機能させるには、CTI Manager サービスをアクティブにして、スタートモードにする必要があります。

次のタスク

[SAML シングルサインオンの有効化 \(135 ページ\)](#)

リカバリ URLへのアクセス

トラブルシューティングのために、SAML シングルサインオンをバイパスして、Cisco Unified Communications Manager Administration インターフェイスと Cisco Unified CM IM and Presence サービスインターフェイスにログインする場合に、リカバリ URL を使用します。たとえば、サーバのドメインまたはホスト名を変更する前に、リカバリ URL を有効にします。リカバリ URL にログインすると、サーバメタデータの更新が容易になります。

始める前に

- 管理権限を持っているアプリケーションユーザのみがリカバリ URL にアクセスできます。
- SAML SSO が有効になっている場合は、リカバリ URL がデフォルトで有効になります。CLI からリカバリ URL を有効/無効にすることができます。リカバリ URL を有効または無効にする CLI コマンドの詳細については、『*Command Line Interface Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』を参照してください。

手順

ブラウザで、「`https://hostname:8443/ssosp/local/login`」と入力します。

■ ドメインまたはホスト名の変更後のサーバメタデータの更新

ドメインまたはホスト名の変更後は、この手順を実行するまで、SAML シングルサインオンが機能しません。



(注) この手順を実行しても [SAML シングルサインオン (SAML Single Sign-On)] ウィンドウにログインできない場合は、ブラウザのキャッシュをクリアしてもう一度ログインしてみてください。

始める前に

リカバリ URL が無効になっている場合、シングルサインオンリンクをバイパスするようには表示されません。リカバリ URL を有効にするには、CLI にログインして次のコマンドを実行します：**utils sso recovery-url enable**。

手順

ステップ1 Web ブラウザのアドレスバーに次の URL を入力します。

`https://<Unified CM-server-name>`

<Unified CM-server-name> はホスト名またはサーバの IP アドレスです。

ステップ2 [シングルサインオンをバイパスするリカバリ URL (Recovery URL to bypass Single Sign-On (SSO))] をクリックします。

ステップ3 管理者ロールを持つアプリケーションユーザのクレデンシャルを入力し、[ログイン (Login)] をクリックします。

ステップ4 Cisco Unified CM の管理で、[システム (System)] > [SAML シングルサインオン (SAML Single Sign-On)] を選択します。

ステップ5 [メタデータのエクスポート (Export Metadata)] をクリックしてサーバメタデータをダウンロードします。

ステップ6 サーバメタデータファイルを IdP にアップロードします。

ステップ7 [テストを実行 (Run Test)] をクリックします。

ステップ8 有効なユーザ ID とパスワードを入力します。

ステップ9 成功のメッセージが表示されたら、ブラウザウィンドウを閉じます。

サーバメタデータの手動プロビジョニング

ID プロバイダーで複数の UC アプリケーション用の単一接続をプロビジョニングするには、ID プロバイダーとサービスプロバイダー間の信頼の輪を設定しながら、サーバメタデータを手

動でプロビジョニングする必要があります。信頼の輪の設定方法については、IdP 製品のマニュアルを参照してください。

一般的な URL 構文は次のとおりです。

```
https://<SP FQDN>:8443/ssosp/saml/SSO/alias/<SP FQDN>
```

手順

サーバメタデータを手動でプロビジョニングするには、Assertion Customer Service (ACS) URL を使用します。

例：

```
サンプル ACS URL : <md:AssertionConsumerService  
Binding="urn:oasis:names:tc:SAML:2.0:bindings:HTTP-POST"  
Location="https://cucm.ucssso.cisco.com:8443/ssosp/saml/SSO/alias/cucm.ucssso.cisco.com"  
index="0"/>
```

■ サーバメタデータの手動プロビジョニング



第 14 章

証明書の管理

- 証明書の概要 (143 ページ)
- 証明書の表示 (147 ページ)
- 証明書のダウンロード (147 ページ)
- 中間証明書のインストール (148 ページ)
- 信頼証明書の削除 (149 ページ)
- 証明書の再作成 (150 ページ)
- 証明書または証明書チェーンのアップロード (153 ページ)
- サードパーティ製の認証局証明書の管理 (153 ページ)
- オンライン証明書ステータスプロトコル (OCSP) による証明書失効 (CRL) (157 ページ)
- 証明書モニタリングタスクフロー (158 ページ)
- 証明書エラーのトラブルシュート (161 ページ)

証明書の概要

システムでは、自己署名証明書とサードパーティの署名付き証明書が使用されます。送信元から宛先までのデータ整合性を確保するために、デバイスのセキュア認証、データの暗号化、データのハッシュを行う際に、システム内のデバイス間で証明書を使用します。証明書を使用することにより、帯域幅、通信、操作のセキュアな転送が可能になります。

証明書を使用する際、意図した Web サイト、電話、FTP サーバなどのエンティティとの間でデータがどのように暗号化され共有されているかを理解し、それを定義することが最も重要な部分です。

システムが証明書を信頼するということは、システムにプレインストールされている証明書によって、適切な接続先と情報を共有していることが完全に確信されているということです。そうでない場合、システムはこれらのポイント間の通信を終了します。

証明書を信頼するには、サードパーティ認証局 (CA) によって信頼がすでに確立されている必要があります。

■ サードパーティの署名付き証明書または証明書チェーン

まずデバイスが CA 証明書と中間証明書の両方を信頼できると認識していることが必要であり、そうであるならデバイスは Secure Socket Layer (SSL) ハンドシェイクというメッセージの交換によって提供されるサーバ証明書を信頼することができます。



(注) Tomcat 用の EC ベースの証明書がサポートされています。この新しい証明書を tomcat-ECDSA といいます。詳細については、『*Configuration and Administration of IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』の「Enhanced TLS Encryption on IM and Presence Service」の章を参照してください。

Tomcat インターフェイスの EC 暗号はデフォルトで無効になっています。Cisco Unified Communications Manager または IM and Presence Service で [HTTPS 暗号 (HTTPS Ciphers)] のエンタープライズパラメータを使用して、これらを有効にできます。このパラメータを変更すると、すべてのノードで Cisco Tomcat サービスを再起動する必要があります。

EC ベースの証明書の詳細については、Cisco Unified Communications Manager and IM and Presence Service リリース ノートの「ECDSA Support for Common Criteria for Certified Solutions」を参照してください。

サードパーティの署名付き証明書または証明書チェーン

アプリケーション証明書に署名した認証局の認証局ルート証明書をアップロードします。下位認証局がアプリケーション証明書に署名した場合は、下位認証局の認証局ルート証明書をアップロードする必要があります。すべての認証局証明書の PKCS#7 形式の証明書チェーンもアップロードできます。

認証局ルート証明書およびアプリケーション証明書は、同じ [証明書のアップロード (Upload Certificate)] ダイアログボックスを使用してアップロードできます。認証局ルート証明書または認証局証明書だけが含まれる証明書チェーンをアップロードする場合は、certificate type-trust 形式の証明書名を選択します。アプリケーション証明書またはアプリケーション証明書と認証局証明書が含まれる証明書チェーンをアップロードする場合は、証明書タイプだけが含まれている証明書名を選択します。

たとえば、Tomcat 認証局証明書または認証局証明書チェーンをアップロードする場合は [tomcat-trust] を選択します。Tomcat アプリケーション証明書またはアプリケーション証明書と認証局証明書が含まれる証明書チェーンをアップロードする場合は、[tomcat] または [tomcat-ECDSA] を選択します。

CAPF 認証局ルート証明書をアップロードすると、CallManager の信頼ストアにコピーされるため、認証局ルート証明書を個別に CallManager にアップロードする必要はありません。



(注) サードパーティの認証局署名付き証明書が正常にアップロードされると、署名付き証明書を取得するために使用された、最近生成した CSR が削除され、サードパーティの署名付き証明書（アップロードされている場合）を含む既存の証明書が上書きされます。



(注) tomcat-trust、CallManager-trust、およびPhone-SAST-trust 証明書がクラスタの各ノードに自動的にレプリケートされます。



(注) DirSync サービスをセキュア モードで実行する場合に必要となるディレクトリの信頼証明書は、tomcat-trust にアップロードすることができます。

サードパーティ認証局証明書

サードパーティ認証局が発行するアプリケーション証明書を使用するには、署名付きのアプリケーション証明書と認証局ルート証明書の両方を認証局から取得するか、アプリケーション証明書と認証局証明書の両方が含まれている PKCS#7 証明書チェーン (Distinguished Encoding Rules [DER]) から取得する必要があります。これらの証明書の取得に関する情報は、認証局から入手してください。証明書を取得するプロセスは、認証局によって異なります。署名アルゴリズムでは RSA 暗号化が使用されている必要があります。

Cisco Unified Communications オペレーティングシステムでは、プライバシー強化メール (PEM) エンコード形式で CSR が作成されます。システムは、DER および PEM エンコード形式の証明書と、PEM 形式の PKCS#7 証明書チェーンを受け入れます。認証局プロキシ機能 (CAPF) 以外のすべての証明書タイプの場合、それぞれのノードについて認証局ルート証明書およびアプリケーション証明書を取得してアップロードする必要があります。

CAPF の場合、最初のノードについてのみ認証局ルート証明書およびアプリケーション証明書を取得してアップロードします。CAPF および Unified Communications Manager の CSR には、認証局へのアプリケーション証明書要求に含める必要のある拡張情報が含まれています。認証局が拡張要求メカニズムをサポートしていない場合は、次の手順に従って X.509 拡張を有効にする必要があります。

- CAPF CSR では、次の拡張情報が使用されます。

X509v3 拡張キーの使用： TLS Web サーバ認証、IPSec エンド システム X509v3 キーの使用： デジタル署名、証明書署名

- Tomcat および Tomcat-ECDSA の CSR では、次の拡張情報が使用されます。



(注) Tomcat または Tomcat-ECDSA は、キーアグリーメントや IPsec エンド システム X509v3 キーを使用する必要はありません。

X509v3 拡張キー使用： TLS Web サーバ認証、TLS Web クライアント認証、IPSec エンド システム X509v3 キー使用： デジタル署名、キー暗号化、データ暗号化、キー同意

CSR キーの用途拡張

- IPsec の CSR では、次の拡張情報が使用されます。

X509v3 拡張キー使用 : TLS Web サーバ認証、TLS Web クライアント認証、IPSec エンド システム X509v3 キー使用 : デジタル署名、キー暗号化、データ暗号化、キー同意

- Unified Communications Manager の CSR では、次の拡張情報が使用されます。

X509v3 拡張キー使用 : TLS Web サーバ認証、TLS Web クライアント認証 X509v3 キー使用 : デジタル署名、キー暗号化、データ暗号化、キー同意

- IM and Presence Service cup および cup-xmpp 証明書の CSR は、次の拡張機能を使用します。

X509v3 拡張キー使用 : TLS Web サーバ認証、TLS Web クライアント認証、IPSec エンド システム X509v3 キー使用 : デジタル署名、キー暗号化、データ暗号化、キー アグリーメント



(注)

使用する証明書に対して CSR を生成し、SHA256 署名を使用してサードパーティ認証局に署名させることもできます。この署名付き証明書を Unified Communications Manager に再度アップロードすることで、Tomcat および他の証明書が SHA256 をサポートできるようになります。

CSR キーの用途拡張

次の表には、Unified Communications Manager と IM and Presence Service の CA 証明書の証明書署名要求 (CSR) のキーの用途拡張が表示されています。

表 7: Cisco Unified Communications Manager CSR キーの用途拡張

	マルチサーバ	キーの拡張用途			キーの用途				
		サーバ認証 (1.3.6.1.5.5.7.3.1)	クライアント 認証 (1.3.6.1.5.5.7.3.2)	IP セキュリティ末端システム (1.3.6.1.5.5.7.3.5)	デジタル署名	鍵の暗号化	データの暗号化	キー証明書署名	鍵共有
CallManager	Y	Y	Y		Y	Y	Y		
CallManager-ECDSA									
CAPF (パブリッシャのみ)	N	Y			Y			Y	
ECDSA	N	Y	Y	Y	Y	Y	Y		
tomcat	Y	Y	Y		Y	Y	Y		
tomcat-ECDSA									
TVS	N	Y	Y		Y	Y	Y		

表 8 : IM and Presence Service CSR キーの用途拡張

	マルチサーバ	キーの拡張用途			キーの用途				
		サーバ認証 (1.3.6.1.5.5.7.3.1)	クライアント認証 (1.3.6.1.5.5.7.3.2)	IP セキュリティ末端システム (1.3.6.1.5.5.7.3.5)	デジタル署名	鍵の暗号化	データの暗号化	キー証明書署名	鍵共有
cup	N	Y	Y	Y	Y	Y	Y		Y
cup-ECDSA									
cup-xmpp	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y		Y
cup-xmpp-ECDSA									
cup-xmpp-s2s	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y		Y
cup-xmpp-s2s-ECDSA									
ipsec	N	Y	Y	Y	Y	Y	Y		
tomcat	Y	Y	Y		Y	Y	Y		
tomcat-ECDSA									

証明書の表示

システムに属している証明書と信頼ストアの詳細を表示します。

手順

-
- ステップ1** [Cisco Unified OS の管理 (Cisco Unified OS Administration)] から [**セキュリティ (Security)**] > [**証明書の管理 (Certificate Management)**] を選択します。
- ステップ2** 証明書の一覧をフィルタするには、[検索 (Find)] コントロールを使用します。
- ステップ3** 証明書または信頼ストアの詳細を表示するには、証明書の .PEM または .DER ファイル名をクリックします。
- ステップ4** [証明書の一覧 (Certificate List)] ウィンドウに戻るには、[関連リンク (Related Links)] リストの [検索/リストに戻る (Back To Find>List)] をクリックし、[移動 (Go)] をクリックします。
-

証明書のダウンロード

手順

-
- ステップ1** [Cisco Unified OS Administration] から [**Security**] > [**Certificate Management**] を選択します。

ステップ2 検索情報を指定し、[検索 (Find)] をクリックします。

ステップ3 証明書または証明書信頼リスト (CTL) のファイル名を選択します。

ステップ4 [Download] をクリックします。

中間証明書のインストール

中間証明書をインストールするには、まずルート証明書をインストールして、署名付き証明書をアップロードする必要があります。この手順は、認証局から1つの署名付き証明書と複数の証明書が証明書チェーンで提供されている場合にのみ必要です。



ヒント

ルート証明書の名前は、ルート証明書がアップロードされたときに生成された .pem ファイル名です。

手順

- ステップ1** [Cisco Unified OS の管理 (Cisco Unified OS Administration)] から、[セキュリティ (Security)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] をクリックします。
- ステップ2** [証明書のアップロード (Upload Certificate)] をクリックします。
- ステップ3** [証明書の用途 (Certificate Purpose)] ドロップダウンリストで [intelligenceCenter-srvr-trust] を選択して、ルート証明書をインストールします。
- ステップ4** [参照 (Browse)] をクリックしてファイルに移動し、[開く (Open)] をクリックします。
- ステップ5** [ファイルのアップロード (Upload File)] をクリックします。
- ステップ6** Cisco Unified OS の管理から、[セキュリティ (Security)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] を選択します。
- ステップ7** [証明書のアップロード (Upload Certificate)] をクリックします。
- ステップ8** [証明書のアップロード (Upload Certificate)] ポップアップ ウィンドウの [証明書の名前 (Certificate name)] ドロップダウンリストで [IntelligenceCenter-srvr] を選択し、ルート証明書の名前を入力します。
- ステップ9** 次のいずれかの手順を実行して、アップロードするファイルを選択します。
 - ・[ファイルのアップロード (Upload File)] テキストボックスに、ファイルへのパスを入力します。
 - ・[参照 (Browse)] をクリックしてファイルに移動し、[開く (Open)] をクリックします。
- ステップ10** [ファイルのアップロード (Upload File)] をクリックします。
- ステップ11** 顧客証明書をインストールしたら、FQDN を使用して Cisco Unified Intelligence Center の URL にアクセスします。IP アドレスを使用して Cisco Unified Intelligence Center にアクセスすると、

カスタム証明書を正常にインストールした後でも「ここをクリックしてログインを継続します (Click here to continue)」のメッセージが表示されます。「」

(注) tomcat 証明書をアップロードするときは、TFTP サービスを無効にし、その後有効にします。それ以外の場合は、TFTP は古いキャッシュの自己署名された tomcat 証明書を提供し続けます。

信頼証明書の削除

削除できる証明書は、信頼できる証明書だけです。システムで生成される自己署名証明書は削除できません。



注意 証明書を削除すると、システムの動作に影響する場合があります。証明書が既存のチェーンの一部である場合、証明書を削除すると証明書チェーンが壊れことがあります。この関係は、[証明書の一覧 (Certificate List)] ウィンドウ内の関連する証明書のユーザ名とサブジェクト名から確認できます。この操作は取り消すことができません。

手順

ステップ1 [Cisco Unified OS の管理 (Cisco Unified OS Administration)] から [**セキュリティ (Security)**] > [**証明書の管理 (Certificate Management)**] を選択します。

ステップ2 証明書の一覧をフィルタするには、[検索 (Find)] コントロールを使用します。

ステップ3 証明書のファイル名を選択します。

ステップ4 [Delete] をクリックします。

ステップ5 [OK] をクリックします。

(注) • 削除する証明書が「CAPF-trust」、「tomcat-trust」、「CallManager-trust」、または「Phone-SAST-trust」タイプの場合、証明書はクラスタ内でのすべてのサーバで削除されます。

• 証明書を CAPF-trust にインポートする場合、それはその特定のノードでのみ有効になり、クラスタ全体で複製されることはありません。

証明書の再作成

証明書が期限切れの場合は、再作成します。電話機を再起動してサービスを再起動する必要があるため、営業時間後にこの手順を実行します。Cisco Unified OS の管理に「cert」タイプとしてリストされている証明書のみ再作成できます。



注意

証明書を再作成すると、システムの動作に影響する場合があります。証明書を再作成すると、サードパーティの署名付き証明書（アップロードされている場合）を含む既存の証明書が上書きされます。

手順

ステップ1 [Cisco Unified OS の管理 (Cisco Unified OS Administration)] から [セキュリティ (Security)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] を選択します。

検索パラメータを入力して、証明書を検索して設定の詳細を表示します。すべての条件に一致したレコードが [Certificate List] ウィンドウに表示されます。

証明書の詳細ページで [再生成 (Regenerate)] ボタンをクリックすると、同じキー長を持つ自己署名証明書が再生成されます。

3072 または 4096 の新しいキー長の自己署名証明書を再生成するには、[自己署名証明書の生成 (Generate Self-Signed Certificate)] をクリックします。

ステップ2 [自己署名証明書の新規作成 (Generate New Self-Signed Certificate)] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ3 [生成 (Generate)] をクリックします。

ステップ4 再作成された証明書の影響を受けるサービスをすべて再起動します。証明書名と説明の詳細については、関連項目のセクションを参照してください。

ステップ5 CAPF 証明書または CallManager 証明書の再作成後に CTL クライアントを再実行します（設定している場合）。

(注) tomcat 証明書を再作成するときは、TFTP サービスを無効にし、その後有効にします。それ以外の場合は、TFTP は古いキャッシュの自己署名された tomcat 証明書を提供し続けます。

次のタスク

証明書を再作成したら、システムのバックアップを実行して、最新のバックアップに再作成した証明書が含まれるようにします。バックアップに再作成した証明書が含まれていない状態で

システムの復元タスクを実行する場合は、システム内の各電話機のロックを手動で解除して、電話機を登録できるようにする必要があります。

関連トピック

[証明書の名前と説明 \(151 ページ\)](#)

証明書の名前と説明

次の表に、再作成可能なシステムのセキュリティ証明書と、再起動する必要がある関連サービスを示します。TFTP 証明書の再作成の詳細については、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html> の『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。

表 9: 証明書の名前と説明

名前	説明	関連サービス
tomcat tomcat-ECDSA	この自己署名ルート証明書は、HTTPS ノードのインストール中に作成されます。	Tomcat と TFTP
ipsec	この自己署名ルート証明書は、MGCP ゲートウェイおよび H.323 ゲートウェイとの IPsec 接続のインストール中に生成されます。	Cisco Disaster Recovery System (DRS) Local と Cisco DRF Master
CallManager	この自己署名ルート証明書は、Unified Communications Manager のインストール時に自動的にインストールされます。この証明書は、ノード名およびグローバル固有識別子 (GUID) など、ノードの ID を提供します。	CallManager、CAPF、および CTI
CAPF	このルート証明書は、Cisco クライアント設定を完了すると、現在のノードまたはクラスタ内のすべてのノードにコピーされます。	CallManager と CAPF
TVS	自己署名ルート証明書です。	TVS

OAuth 更新ログイン用のキーの再生成

コマンドラインインターフェイスを使用して暗号キーと署名キーの両方を再生成するには、この手順を使用します。Cisco Jabber がユニファイドコミュニケーションマネージャによる OAuth 認証に使用する暗号キーまたは署名キーが侵害された場合にのみ、この作業を実行します。署名キーは非対称で RSA ベースであるのに対し、暗号キーは対称キーです。



(注)

- このタスクを完了すると、これらのキーを使用する現在のアクセストークンと更新トークンは無効になります。
- エンドユーザへの影響を最小限に抑えるために、このタスクは営業時間外に完了することを推奨します。
- 暗号キーは、以下の CLI を使用してのみ再生成できますが、Cisco Unified OS の管理 GUI を使用して署名キーを再生成することもできます。[セキュリティ (Security)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] を選択し、AUTHZ 証明書を選択して、[再作成 (Regenerate)] をクリックします。

手順

ステップ1 ユニファイドコミュニケーションマネージャのパブリッシャノードで、コマンドラインインターフェイスにログインします。

ステップ2 暗号キーを再生成するには、次の手順を実行します。

- set key regen authz encryption コマンドを実行します。
- yes と入力します。

ステップ3 署名キーを再生成するには、次の手順を実行します。

- set key regen authz signing コマンドを実行します。
- yes と入力します。

ユニファイドコミュニケーションマネージャパブリッシャノードはキーを再生成し、IM and Presence サービスのローカルノードを含み、ユニファイドコミュニケーションマネージャのすべてのクラスタノードに新しいキーを複製します。

次のタスク

すべての UC クラスタで新しいキーを再生成して同期する必要があります。

- IM and Presence 中央クラスタ：IM and Presence 集中型展開の場合、IM and Presence ノードはテレフォニーとは別のクラスタ上で実行されています。この場合、IM and Presence サービス一元管理クラスタのユニファイドコミュニケーションマネージャパブリッシャノードでこの手順を繰り返します。

- Cisco Expressway または Cisco Unity Connection : これらのクラスタ上でもキーを再生成します。詳細については、Cisco Expressway および Cisco Unity Connection のマニュアルを参照してください。

証明書または証明書チェーンのアップロード

システムで信頼する新しい証明書または証明書チェーンをアップロードします。

手順

ステップ1 Cisco Unified OS の管理から、[セキュリティ (Security)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] を選択します。

ステップ2 [Upload Certificate/Certificate chain] をクリックします。

ステップ3 [証明書の用途 (Certificate Purpose)] ドロップダウンリストで、証明書名を選択します。

ステップ4 次のいずれかの手順を実行して、アップロードするファイルを選択します。

- [ファイルのアップロード (Upload File)] テキストボックスに、ファイルへのパスを入力します。
- [参照 (Browse)] をクリックしてファイルに移動してから、[開く (Open)] をクリックします。

ステップ5 ファイルをサーバにアップロードするには、[ファイルのアップロード (Upload File)] をクリックします。

(注) 証明書をアップロードしたら、影響を受けるサービスを再起動します。サーバが再起動したら、CCMAdmin または CCMUser GUI にアクセスして、新しく追加した証明書が使用されていることを確認できます。

サードパーティ製の認証局証明書の管理

このタスクフローでは、サードパーティ証明書プロセスの概要を、各ステップへの参照とともに順番に説明します。お使いのシステムは、サードパーティ認証局が PKCS #10 証明書署名要求 (CSR) を使用して発行する証明書をサポートしています。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	証明書署名要求の生成 (155 ページ)	証明書署名要求 (CSR) を生成します。これは、公開キー、組織名、共通名、地域、および国などの証明書申請情報を含みます。

	コマンドまたはアクション	目的
		む暗号化されたテキストのブロックです。認証局はこの CSR を使用して、ご使用のシステムの信頼できる証明書を生成します。
ステップ 2	証明書署名要求のダウンロード (155 ページ)	コンピュータに CSR をダウンロードして、認証局に証明書を送信できるようにします。
ステップ 3	認証局のドキュメントを参照してください。	認証局からアプリケーション証明書を取得します。
ステップ 4	認証局のドキュメントを参照してください。	認証局からルート証明書を取得します。
ステップ 5	信頼ストアへの認証局署名済み CAPF ルート証明書の追加 (155 ページ)	ルート証明書を信頼ストアに追加します。認証局の署名付き CAPF 証明書を使用している場合は、この手順を実行します。
ステップ 6	証明書または証明書チェーンのアップロード (153 ページ)	認証局ルート証明書をノードにアップロードします。
ステップ 7	CAPF または Cisco Unified Communications Manager の証明書を更新した場合は、新しい CTL ファイルを生成します。	『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』 (http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html) を参照してください。 サードパーティの署名付き CAPF または CallManager 証明書をアップロードしたら、CTL クライアント（設定している場合）を再実行します。
ステップ 8	サービスの再起動 (156 ページ)	新しい証明書の影響を受けるサービスを再起動します。すべての証明書タイプで、対応するサービスを再起動します（たとえば、Tomcat または Tomcat-ECDSA の証明書を更新した場合は Cisco Tomcat サービスを再起動します）。

証明書署名要求の生成

証明書署名要求（CSR）を生成します。これは、公開キー、組織名、共通名、地域、および国などの証明書申請情報を含む暗号化されたテキストのブロックです。認証局はこの CSR を使用して、ご使用のシステムの信頼できる証明書を生成します。



(注)

新しい CSR を生成すると、既存の CSR は上書きされます。

手順

ステップ1 Cisco Unified OS の管理から、[セキュリティ（Security）] > [証明書の管理（Certificate Management）] を選択します。

ステップ2 [CSR の作成（Generate CSR）] をクリックします。

ステップ3 [証明書署名要求の作成（Generate Certificate Signing Request）] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ4 [CSR の作成（Generate CSR）] をクリックします。

証明書署名要求のダウンロード

コンピュータに CSR をダウンロードして、認証局に証明書を送信できるようにします。

手順

ステップ1 [Cisco Unified OS Administration] から [Security] > [Certificate Management] を選択します。

ステップ2 [CSR のダウンロード（Download CSR）] をクリックします。

ステップ3 [証明書の用途（Certificate Purpose）] ドロップダウンリストで、証明書名を選択します。

ステップ4 [CSR のダウンロード（Download CSR）] をクリックします。

ステップ5 (任意) プロンプトが表示されたら、[保存（Save）] をクリックします。

信頼ストアへの認証局署名済み CAPF ルート証明書の追加

認証局署名済みCAPF証明書を使用する場合は、次の手順に従って、ルート証明書をCallManager信頼ストアに追加します。

■ サービスの再起動

手順

- ステップ1** Cisco Unified OS の管理から、[セキュリティ (Security)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] を選択します。
- ステップ2** [証明書/証明書チェーンのアップロード (Upload Certificate/Certificate chain)] をクリックします。
- ステップ3** [証明書/証明書チェーンのアップロード (Upload Certificate/Certificate chain)] ポップアップウィンドウで、[証明書の用途 (Certificate Purpose)] ドロップダウンリストから [CallManager の信頼性 (CallManager-trust)] を選択し、認証局署名済み CAPF ルート証明書を参照します。
- ステップ4** [ファイルのアップロード (UploadFile)] フィールドに証明書が表示されたら、[アップロード (Upload)] をクリックします。

サービスの再起動

クラスタ内の特定のノードで機能またはネットワーク サービスを再起動する必要がある場合は、次の手順に従います。

手順

- ステップ1** 再起動するサービスのタイプに応じて、次のいずれかのタスクを実行します。
 - ・[ツール (Tools)] > [コントロールセンター - 機能サービス (Control Center - Feature Services)] の順に選択します。
 - ・[ツール (Tools)] > [コントロールセンター - ネットワーク サービス (Control Center - Network Services)] を選択します。
- ステップ2** [サーバ (Server)] ドロップダウンリストからシステムノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ3** 再起動するサービスの横にあるオプションボタンをクリックし、[再起動 (Restart)] をクリックします。
- ステップ4** 再起動にはしばらく時間がかかることがあります。メッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

オンライン証明書ステータスプロトコル (OCSP) による証明書失効 (CRL)

Unified Communications Manager は、証明書失効をモニタリングするための OCSP をプロビジョニングします。スケジュールされた間隔、および証明書がアップロードされるたびにシステムが証明書のステータスをチェックし、有効性を確認します。

オンライン証明書状態プロトコル (OCSP) は、管理者がシステムの証明書要件を管理するのに役立ちます。OCSP を設定すると、証明書の有効性を確認したり期限切れの証明書をリアルタイムで無効化するための、シンプルかつ安全な自動メソッドを使用できます。

コモンクライテリア モードが有効になっている FIPS 展開の場合、OCSP はシステムのコモンクライテリア要件への準拠にも役立ちます。

有効性検査

Unified Communications Manager は、証明書のステータスを確認し、有効性を確認します。

証明書の検証は、次のように行われます。

- Unified Communications Manager は代理信頼モデル (DTM) を使用し、OCSP 署名属性のルート CA または中間 CA をチェックします。ルート CA または中間 CA は、ステータスを確認するために OCSP 証明書に署名する必要があります。委任された信頼モデルが失敗すると、Unified Communications Manager が応答側の信頼モデル (TRP) にフォールバックし、指定された OCSP 応答の署名証明書を OCSP サーバから使用して証明書を検証します。



(注) 証明書の失効ステータスを確認するために、OCSP レスポンダが実行されている必要があります。

- [証明書失効 (Certificate Revocation)] ウィンドウで OCSP オプションを有効にすると、最も安全な方法でリアルタイムに証明書失効をチェックすることができます。オプションから、証明書の OCSP URI を使用するか、または設定済みの OCSP URI を使用するかを選択します。OCSP の手動設定の詳細については、「[OCSP による証明書失効の設定](#)」を参照してください。



(注) リーフ証明書の場合、syslog、FileBeat、SIP、ILS、LBM などの TLS クライアントは、OCSP 要求を OCSP レスポンダーに送信し、OCSP レスポンダーからリアルタイムで証明書失効応答を受信します。

証明書モニタリング タスク フロー

コモン クライテリア モードを有効にした状態で検証が実行されると、証明書に対して次のいずれかのステータスが返されます。

- **[良好 (Good)]** : 良好的な状態とは、ステータスの問い合わせへの肯定的な応答を示します。この肯定応答は、少なくとも証明書が失効していないことを示しますが、必ずしもその証明書が発行済みであること、または、その応答が生成時刻が証明書の有効期間内にあることを意味ものではありません。レスポンダが作成したアサーションに関して、発行や有効性の肯定的なステートメントなど、レスポンダが作成した証明書のステータスに関する追加情報を伝えるためには、応答拡張を使用できます。
- **[失効 (Revoked)]** : 失効 状態とは、証明書が失効している（恒久的または一時的に保留されている）ことを示します。
- **[不明 (Unknown)]** : 不明状態とは、OCSP レスポンダーが要求された証明書を認識していないことを示します。



(注)

コモン クライテリア モードでは、失効と不明の両方の場合において接続に失敗しますが、コモン クライテリア モードが有効になっていない状態では応答が不明ステータスである場合、接続に成功します。

証明書モニタリング タスク フロー

これらのタスクを行い、証明書ステータスと有効期限を自動的にモニタするようシステムを設定します。

- 証明書の有効期限が近づいているときは、電子メールで通知する。
- 有効期限が切れた証明書を失効させる。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	証明書モニタ通知の設定 (159 ページ)	証明書の自動モニタリングを構成します。システムは定期的に証明書ステータスをチェックし、証明書の有効期限が近づいていると電子メールで通知します。
ステップ 2	OCSP による証明書失効の設定 (160 ページ)	期限切れの証明書が自動的に失効するように OCSP を設定します。

証明書モニタ通知の設定

Unified Communications Manager または IM and Presence サービスの自動証明書モニタリングを設定します。システムは定期的に証明書のステータスをチェックし、証明書の有効期限が近づいていると電子メールで通知します。



(注)

[Cisco Certificate Expiry Monitor] ネットワークサービスを実行している必要があります。デフォルトでこのサービスは有効化されていますが、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター - ネットワークサービス (Control Center - Network Services)] を選択し、[Cisco Certificate Expiry Monitor サービス (Cisco Certificate Expiry Monitor Service)] の状態が [実行中 (Running)] であることを検証して Cisco Unified Serviceability でサービスが実行中であることを確認できます。

手順

- ステップ1** (Unified Communications Manager の証明書モニタリングのために) Cisco Unified OS の管理にログインするか、(IM and Presence サービスの証明書モニタリングのために) Cisco Unified IM and Presence の管理にログインします。
- ステップ2** [セキュリティ (Security)] > [証明書モニタ (Certificate Management)] を選択します。
- ステップ3** [通知開始時期 (Notification Start Time)] フィールドに、数値を入力します。この値は、近づきつつある有効期限の通知を、有効期限の何日前にシステムが開始するかを表します。
- ステップ4** [通知頻度 (Notification Frequency)] フィールドには、通知を行う頻度を入力します。
- ステップ5** これはオプションです。[電子メール通知を有効にする (Enable E-mail notification)] チェックボックスをオンにして、近づきつつある証明書有効期限に関する電子メールアラートをシステムに送信させます。
- ステップ6** [LSC モニタリングを有効にする (Enable LSC Monitoring)] チェックボックスをオンにして、LSC 証明書を証明書ステータス チェックに含めます。
- ステップ7** [電子メール ID (E-mail IDs)] フィールドに、システムが通知を送信する電子メールアドレスを入力します。複数の電子メールアドレスは、セミコロンで区切って入力できます。
- ステップ8** [保存 (Save)] をクリックします。

(注)

証明書モニタ サービスは、デフォルトで 24 時間にごとに 1 回だけ実行します。証明書モニタ サービスを再起動すると、サービスが開始され、24 時間後に実行する次のスケジュールが計算されます。証明書の有効期限が 7 日以内に近づいても、この周期は変化しません。このサービスは、証明書の有効期限が切れる 1 日前から、有効期限が切れた後も 1 時間おきに実行します。

OCSPによる証明書失効の設定

次のタスク

Online Certificate Status Protocol (OCSP) を設定し、期限切れの証明書をシステムが自動的に失効せるようにします。詳細については、次を参照してください。[OCSPによる証明書失効の設定 \(160 ページ\)](#)

OCSPによる証明書失効の設定

オンライン証明書ステータスプロトコル (OCSP) を有効にして、証明書の状態を定期的にチェックし、期限切れの証明書を自動的に失効させます。

始める前に

システムに OCSP チェックに必要な証明書があることを確認します。OCSP 応答属性を設定されているルート CA 証明書または中間 CA 証明書を使用することができます。または、tomcat-trust へアップロードされている指定された OCSP 署名証明書を使用することができます。

手順

ステップ1 (Unified Communications Manager の証明書失効のために) Cisco Unified OS の管理にログインするか、(IM and Presence サービスの証明書失効のために) Cisco Unified IM and Presence の管理にログインします。

ステップ2 [セキュリティ (Security)] > [証明書失効 (Certificate Revocation)] を選択します。

ステップ3 [OCSP の有効化 (Enable OCSP)] チェック ボックスをオンにして、次のタスクのいずれかを実行します。

- OCSP チェックの OCSP レスポンダを指定する場合は、[設定済み OCSP URI を使用する (Use configured OCSP URI)] ボタンを選択し、[OCSP 設定済み URI (OCSP Configured URI)] フィールドにレスポンダの URI を入力します。
- OCSP レスポンダ URI で証明書を設定する場合、[証明書からの OCSP URI を使用する (Use OCSP URI from Certificate)] ボタンを選択します。

ステップ4 [失効チェックを有効にする (Enable Revocation Check)] チェック ボックスをオンにします。

ステップ5 [チェック間隔 (Check Every)] フィールドに失効チェックの間隔を入力します。

ステップ6 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ7 これはオプションです。CTI、IPsec または LDAP リンクがある場合は、これらの長期性接続の OCSP 失効サポートを有効にするために、上記の手順に加えて次の手順も行う必要があります。

- a) Cisco Unified CM の管理から、[システム (System)] > [エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。
- b) [証明書の失効や有効期限 (Certificate Revocation and Expiry)] で、[証明書有効性チェック (Certificate Validity Check)] パラメーターを [True] に設定します。
- c) [有効性チェック頻度 (Validity Check Frequency)] パラメーターの値を設定します。

(注) 証明書失効ウィンドウの[失効チェックを有効にする (Enable Revocation Check)] パラメーターの間隔値は、[有効チェック頻度 (Validity Check Frequency)] エンタープライズパラメーターの値よりも優先されます。

- d) [保存 (Save)] をクリックします。
-

証明書エラーのトラブルシュート

始める前に

IM and Presence サービス ノードから Unified Communications Manager サービスに、または、Unified Communications Manager ノードから IM and Presence サービス機能にアクセスしようとしてエラーが発生した場合は、tomcat-trust 証明書に問題があります。「サーバへの接続を確立できません（リモートノードに接続できません）」（Connection to the Server cannot be established (unable to connect to Remote Node)）」というエラーメッセージが、次の [サービスアビリティ (Serviceability)] インターフェイス ウィンドウに表示されます。

- [サービスのアクティブ化 (Service Activation)]
- コントロールセンター - 機能サービス
- コントロールセンター - ネットワーク サービス

この手順を使用して、証明書のエラーを解決します。最初のステップから開始し、必要に応じて進みます。最初のステップだけでエラーが解決される場合もあれば、すべてのステップを実行することが必要になる場合もあります。

手順

ステップ1 [Cisco Unified OS の管理 (Cisco Unified OS Administration)] の [セキュリティ (Security)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] で、必要な tomcat-trust 証明書が存在することを確認します。

必要な証明書がない場合は、再度確認するまで 30 分間待ちます。

ステップ2 証明書を選択して情報を表示します。証明書の内容が、リモートノード上の対応する証明書の内容と一致することを確認します。

ステップ3 CLI から、**utils service restart Cisco Intercluster Sync Agent** を実行して Cisco Intercluster Sync Agent サービスを再起動します。

ステップ4 Cisco Intercluster Sync Agent サービスが再起動したら、**utils service restart Cisco Tomcat** を実行して Cisco Tomcat サービスを再起動します。

ステップ5 30 分間待機します。前の手順で証明書のエラーが対処されず、tomcat-trust 証明書が存在する場合は、証明書を削除します。証明書を削除したら、ノードごとに Tomcat および Tomcat-ECDSA

証明書エラーのトラブルシュート

証明書をダウンロードし、tomcat-trust証明書としてピアにアップロードすることで、証明書を手動で交換する必要があります。

- ステップ 6** 証明書の交換が完了したら、**utils service restart Cisco Tomcat** を実行して、影響を受ける各サーバで Cisco Tomcat を再起動します。
-



第 15 章

一括証明書の管理

- [一括証明書の管理 \(163 ページ\)](#)

一括証明書の管理

クラスタ間で証明書のセットを共有する場合に、一括証明書管理を使用します。この手順は、Extension Mobility Cross Clusterなどのクラスタ間で信頼を確立する必要があるシステム機能に必要です。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	証明書のエクスポート (164 ページ)	<p>この手順では、クラスタ内の全ノードの証明書を含むPKCS12ファイルを作成します。</p> <p>(注) • すべての参加クラスタは、同じSFTPサーバとSFTPディレクトリに証明書をエクスポートする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none">• Tomcat、Tomcat-ECDSA、TFTP、CAPFの各証明書がいずれかのクラスタノードで再生成されるたびに、クラスタで証明書をエクスポートする必要があります。

証明書のエクスポート

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ2	証明書のインポート（165 ページ）	ホーム クラスタとリモート（訪問先）クラスタに証明書をインポートします。 (注) アップグレード後、これらの証明書が維持されます。証明書の再インポートや再統合をする必要はありません。

証明書のエクスポート

この手順では、クラスタ内の全ノードの証明書を含む PKCS12 ファイルを作成します。



- (注)
- すべての参加クラスタは、同じ SFTP サーバと SFTP ディレクトリに証明書をエクスポートする必要があります。
 - Tomcat、Tomcat-ECDSA、TFTP、CAPF の各証明書がいずれかのクラスタ ノードで再生成されるたびに、クラスタで証明書をエクスポートする必要があります。

手順

- ステップ1 [Cisco Unified OS の管理 (Cisco Unified OS Administration)] から、[セキュリティ (Security)] > [証明書の一括管理 (Bulk Certificate Management)] を選択します。
- ステップ2 ホーム クラスタとリモート クラスタの両方で到達可能な TFTP サーバを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。
- ステップ3 [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ4 [エクスポート (Export)] をクリックします。
- ステップ5 [証明書の一括エクスポート (Bulk Certificate Export)] ウィンドウの [証明書のタイプ (Certificate Type)] フィールドで、[すべて (All)] を選択します。
- ステップ6 [エクスポート (Export)] をクリックします。
- ステップ7 [閉じる (Close)] をクリックします。

(注) 一括証明書エクスポートを実行すると、証明書は次のようにリモートクラスタにアップロードされます。

- CAPF 証明書は Callmanager-trust としてアップロードされます
- Tomcat 証明書は Tomcat-trust としてアップロードされます
- CallManager 証明書は Callmanager-trust としてアップロードされます
- CallManager 証明書は Phone-SAST-trust としてアップロードされます

証明書のインポート

ホーム クラスタとリモート（訪問先）クラスタに証明書をインポートします。



(注) アップグレード後、これらの証明書が維持されます。証明書の再インポートや再統合をする必要はありません。



(注) 一括証明書管理機能を使用して証明書をインポートすると、電話機がリセットされます。

始める前に

[インポート (Import)] ボタンが表示されるには、次の操作を完了しておく必要があります。

- 2つ以上のクラスタから SFTP サーバに証明書をエクスポートします。
- エクスポートした証明書を統合します。

手順

ステップ1 Cisco Unified OS 管理画面で、[セキュリティ (Security)] > [証明書の一括管理 (Bulk Certificate Management)] > [インポート (Import)] > [証明書の一括インポート (Bulk Certificate Import)] を選択します。

ステップ2 [証明書タイプ (Certificate Type)] ドロップダウンリストから、[すべて (All)] を選択します。

ステップ3 [Import] を選択します。

証明書のインポート

(注) 一括証明書インポートを実行すると、証明書は次のようにリモートクラスタにアップロードされます。

- CAPF 証明書は Callmanager-trust としてアップロードされます
- Tomcat 証明書は Tomcat-trust としてアップロードされます
- CallManager 証明書は Callmanager-trust としてアップロードされます
- CallManager 証明書は Phone-SAST-trust としてアップロードされます

(注) 次のタイプの証明書により、再起動する電話が決定されます。

- Callmanager : TFTP サービスが、証明書が属するノード上でアクティブになっている場合にのみ、すべての電話。
- TV : Callmanager グループメンバーシップに基づいて、一部の電話。
- CAPF : CAPF がアクティブになっている場合にのみ、すべての電話。



第 16 章

IPSec ポリシーの管理

- [IPsec ポリシーの概要](#) (167 ページ)
- [IPsec ポリシーの設定](#) (167 ページ)
- [IPsec ポリシーの管理](#) (168 ページ)

IPsec ポリシーの概要

IPsec は、暗号セキュリティサービスを使用した IP ネットワーク経由の非公開でセキュアな通信を保証するフレームワークです。IPsec ポリシーが IPsec セキュリティサービスの設定に使用されます。このポリシーは、ネットワーク上のほとんどのトラフィックタイプにさまざまなレベルの保護を提供します。コンピュータ、部門 (OU) 、ドメイン、サイト、またはグローバル企業のセキュリティ要件を満たすように IPsec ポリシーを設定できます。

IPsec ポリシーの設定



(注)

- システムのアップグレード中、IPsec ポリシーに何らかの変更を行ってもその変更は無効になります。アップグレード中は IPsec ポリシーを作成したり変更したりしないでください。
- IPsec には双方向プロビジョニングが必要です（ホストまたはゲートウェイごとに 1 ピア）。
- 一方の IPsec ポリシープロトコルが「ANY」、もう一方の IPsec ポリシープロトコルが「UDP」または「TCP」に設定されている 2 つの Unified Communications Manager ノードに IPsec ポリシーをプロビジョニングする場合、「ANY」プロトコルを使用するノードでの検証で検出漏れが発生する可能性があります。
- IPsec はシステムのパフォーマンスに影響します（特に暗号化した場合）。

手順

- ステップ1** Cisco Unified OS の管理から [**セキュリティ (Security)**] > [**IPSec の設定 (IPSec Configuration)**] の順に選択します。
- ステップ2** [**新規追加 (Add New)**] をクリックします。
- ステップ3** [**IPSEC ポリシーの設定 (IPSEC Policy Configuration)**] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ4** [**保存 (Save)**] をクリックします。
- ステップ5** (任意) IPsec を検証するには、[**サービス (Services)**] > [**Ping**] の順に選択し、[**IPsec の検証 (Validate IPsec)**] チェックボックスをオンにして、[**Ping**] をクリックします。

IPsec ポリシーの管理

システムのアップグレード中、IPSec ポリシーに何らかの変更を行ってもその変更は無効になります。アップグレード中は IPSec ポリシーを変更または作成しないでください。



注意

ホスト名、ドメイン、またはIP アドレスを変更するために既存のIPSec 証明書に変更を加える際、証明書名を変更する場合は、IPSec ポリシーを削除して作り直す必要があります。証明書名を変更しない場合は、リモートノードの作り直した証明書をインポートした後に、IPSec ポリシーを無効にして有効にする必要があります。

手順

- ステップ1** Cisco Unified OS の管理から [**セキュリティ (Security)**] > [**IPSec の設定 (IPSec Configuration)**] の順に選択します。
- ステップ2** ポリシーを表示、有効、または無効にするには、次の手順を実行します。
- ポリシー名をクリックします。
 - ポリシーを有効または無効にするには、[**ポリシーの有効化 (Enable Policy)**] チェックボックスをオンまたはオフにします。
 - [**保存 (Save)**] をクリックします。
- ステップ3** 1つまたは複数のポリシーを削除するには、次の手順を実行します。
- 削除するポリシーの横にあるチェックボックスをオンにします。
- [**すべてを選択 (Select All)**] をクリックするとすべてのポリシーを選択でき、[**すべてをクリア (Clear All)**] を選択するとすべてのチェックボックスをクリアできます。

- b) [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

IPsec ポリシーの管理



第 17 章

クレデンシャル ポリシーの管理

- クレデンシャル ポリシーと認証 (171 ページ)
- クレデンシャル ポリシーの設定 (172 ページ)
- クレデンシャル ポリシーのデフォルトの設定 (173 ページ)
- 認証アクティビティのモニタ (173 ページ)
- クレデンシャル キャッシングの設定 (174 ページ)
- セッション終了の管理 (175 ページ)

クレデンシャル ポリシーと認証

認証機能は、ユーザの認証、クレデンシャル情報の更新、ユーザイベントとエラーのトラッキングとロギング、クレデンシャル変更履歴の記録、データストレージ用のユーザクレデンシャルの暗号化または復号を行います。

システムは常に、アプリケーションユーザ パスワードとエンド ユーザ PIN を Unified Communications Manager データベースに照合します。エンド ユーザ パスワードについては、社内ディレクトリまたはデータベースに照合して認証できます。

システムが社内ディレクトリと同期されていれば、Unified Communications Manager または Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) のいずれかの認証機能によってパスワードを認証できます。

- LDAP 認証が有効にされている場合、ユーザ パスワードおよびクレデンシャル ポリシーは適用されません。これらのデフォルトは、ディレクトリ同期 (DirSync サービス) で作成されたユーザに適用されます。
- LDAP 認証を無効にすると、システムはユーザクレデンシャルをデータベースに照合して認証します。このオプションを使用する場合、クレデンシャルポリシーを割り当て、認証イベントおよびパスワードを管理することができます。エンド ユーザは、電話機のユーザインターフェイスでパスワードと PIN を変更できます。

クレデンシャル ポリシーは、オペレーティング システムのユーザまたは CLI のユーザには適用されません。オペレーティング システムの管理者は、オペレーティング システムでサポートされている標準のパスワード検証手順を使用します。

■ クレデンシャル ポリシーの JTAPI および TAPI のサポート

データベースにユーザが設定されると、システムはユーザクレデンシャルの履歴をデータベースに格納して、ユーザがクレデンシャルの変更を要求されたときに以前の情報を入力できないようにします。

クレデンシャル ポリシーの JTAPI および TAPI のサポート

Cisco Unified Communications Manager Java テレフォニー アプリケーションプログラミングインターフェイス (JTAPI) およびテレフォニー アプリケーションプログラミングインターフェイス (TAPI) は、アプリケーションユーザに割り当てられたクレデンシャルポリシーをサポートするため、開発者はパスワードの有効期限、PIN の有効期限、およびクレデンシャル ポリシーの適用ためのロックアウト戻りコードに応答するアプリケーションを作成する必要があります。

アプリケーションは、アプリケーションが使用する認証モデルに関係なく、API を使用してデータベースまたは社内ディレクトリで認証します。

開発者向けの JTAPI および TAPI の詳細については、開発者ガイド (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-programming-reference-guides-list.html>) を参照してください。

クレデンシャル ポリシーの設定

クレデンシャル ポリシーは、アプリケーションユーザとエンドユーザに適用されます。パスワード ポリシーをエンドユーザとアプリケーションユーザに割り当て、PIN ポリシーをエンドユーザに割り当てます。[クレデンシャル ポリシーのデフォルトの設定 (Credential Policy Default Configuration)] に、これらのグループのポリシー割り当てが一覧表示されます。新しいユーザをデータベースに追加すると、システムがデフォルト ポリシーを割り当てます。割り当てられたポリシーを変更したり、ユーザ認証イベントを管理したりできます。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM の管理から、[ユーザの管理 (User Management)] > [クレデンシャル ポリシー (Credential Policy)] を選択します。

ステップ2 次のいずれかの手順を実行します。

- [検索 (Find)] をクリックし、既存のクレデンシャル ポリシーを選択します。
- [新規追加 (Add New)] をクリックして、新しいクレデンシャル ポリシーを作成します。

ステップ3 [クレデンシャル ポリシーの設定 (Credential Policy Configuration)] ウィンドウの各フィールドに入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ4 [保存 (Save)] をクリックします。

クレデンシャル ポリシーのデフォルトの設定

インストール時に、Cisco Unified Communications Manager がスタティック デフォルト クレデンシャル ポリシーをユーザ グループに割り当てます。デフォルト クレデンシャルは提供しません。お使いのシステムが、新しいデフォルト ポリシーを割り当てたり、ユーザの新しいデフォルト クレデンシャルとクレデンシャル要件を設定したりするためのオプションを提供します。

手順

ステップ1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[ユーザ管理 (User Management)] > [クレデンシャル ポリシーのデフォルト (Credential Policy Default)] を選択します。

ステップ2 [クレデンシャル ポリシー (Credential Policy)] ドロップダウン リスト ボックスから、このグループのクレデンシャル ポリシーを選択します。

ステップ3 [クレデンシャルの変更 (Change Credential)] と [クレデンシャルの確認 (Confirm Credential)] の両方にパスワードを入力します。

ステップ4 このクレデンシャルをユーザに変更させない場合は、[ユーザは変更不可 (User Cannot Change)] チェックボックスをオンにします。

ステップ5 ユーザが次のログイン時に変更する必要がある、一時的なクレデンシャルを設定する場合は、[次回ログイン時に変更必要 (User Must Change at Next Login)] チェックボックスをオンにします。

(注) このボックスをオンにすると、ユーザはパーソナルディレクトリ サービスを使用して PIN を変更できなくなることに注意してください。

ステップ6 クレデンシャルの期限を設定しない場合は、[有効期限なし (Does Not Expire)] チェックボックスをオンにします。

ステップ7 [保存 (Save)] をクリックします。

認証アクティビティのモニタ

システムは、最後のハッキング試行時刻や失敗したログイン試行のカウントなどの最新の認証結果を表示します。

システムは、次のクレデンシャル ポリシー イベントに関するログファイル エントリを生成します。

- 認証成功
- 認証失敗 (不正なパスワードまたは不明)
- 次の原因による認証失敗

■ クレデンシャル キャッシングの設定

- 管理ロック
- ハッキング ロック（失敗したログオン ロックアウト）
- 期限切れソフト ロック（期限切れのクレデンシャル）
- 非アクティブ ロック（一定期間使用されていないクレデンシャル）
- ユーザによる変更が必要（ユーザが変更するように設定されたクレデンシャル）
- LDAP 非アクティブ（LDAP 認証へ切り替えたものの LDAP が非アクティブ）
- 成功したユーザ クレデンシャル更新
- 失敗したユーザ クレデンシャル更新



(注) エンド ユーザ パスワードに対して LDAP 認証を使用する場合は、LDAP は認証の成功と失敗だけを追跡します。

すべてのイベント メッセージに、文字列「ims-auth」と認証を試みているユーザ ID が含まれています。

手順

ステップ1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[ユーザの管理 (User Management)] > [エンド ユーザ (End Users)] を選択します。

ステップ2 検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックして、表示された一覧からユーザを選択します。

ステップ3 [クレデンシャルの編集 (Edit Credential)] をクリックし、ユーザの認証アクティビティを表示します。

次のタスク

Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (Unified RTMT) を使用してログ ファイルを表示できます。キャプチャされたイベントをレポートに収集することもできます。Unified RTMT の詳細な使用手順については、『Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide』(<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications-unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html>) を参照してください。

クレデンシャル キャッシングの設定

クレデンシャル キャッシングを有効にすると、システム効率が向上します。システムは、ログイン要求ごとに、データベース ルックアップを実行したり、ストアド プロシージャを呼び

出したりする必要がありません。キャッシング期間が経過するまでは、関連付けられているクレデンシャルポリシーが適用されません。

この設定は、ユーザ認証を呼び出すすべての Java アプリケーションに適用されます。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM の管理から、[システム (System)]>[エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。

ステップ2 必要に応じて、次のタスクを実行します。

- [キャッシングの有効化 (Enable Caching)] エンタープライズパラメータを [True] に設定します。このパラメータを有効にすると、Cisco Unified Communications Manager は、最大 2 分間、キャッシングされたクレデンシャルを使用します。
- システムがキャッシングされたクレデンシャルを認証に使用しないように、キャッシングを無効にするには、[キャッシングの有効化 (Enable Caching)] エンタープライズパラメータを [False] に設定します。LDAP 認証の場合、この設定は無視されます。クレデンシャルキャッシングでは、ユーザごとに最小量の追加メモリが必要です。

ステップ3 [保存 (Save)] をクリックします。

セッション終了の管理

管理者は、各ノードに固有のユーザのアクティブなサインインセッションを終了するために、次の手順を使用できます。



(注)

- 特権レベル 4 を持つ管理者のみが、セッションを終了できます。
- セッション管理では、特定のノード上のアクティブなサインインセッションを終了します。管理者は、異なるノード間ですべてのユーザセッションを終了する場合には、各ノードにサインインしてセッションを終了する必要があります。

これは、次のインターフェイスに適用されます。

- Cisco Unified CM の管理
- Cisco Unified サービスアビリティ
- Cisco Unified のレポート
- Cisco Unified Communications セルフ ケア ポータル
- Cisco Unified CM IM and Presence の管理

セッション終了の管理

- Cisco Unified IM and Presence サービスアビリティ
- Cisco Unified IM and Presence のレポート

手順

ステップ1 Cisco Unified OS Administration または Cisco Unified IM and Presence OS Administration から、[セキュリティ (Security)] > [セッション管理 (Session Management)] を選択します。[セッション管理 (Session Management)] ウィンドウが表示されます。

ステップ2 [ユーザ ID (User ID)] フィールドにアクティブなサインインユーザのユーザ ID を入力します。

ステップ3 [セッションの終了 (Terminate Session)] をクリックします。

ステップ4 [OK] をクリックします。

終了したユーザは、サインインしたインターフェイスページを更新になると、サインアウトします。監査ログにエントリが作成され、そこに終了した userID が表示されます。



第 VI 部

ディザスタ リカバリ

- システムのバックアップ (179 ページ)
- システムの復元 (191 ページ)



第 18 章

システムのバックアップ

- バックアップの概要 (179 ページ)
- バックアップの前提条件 (180 ページ)
- バックアップ タスク フロー (180 ページ)
- バックアップの連携動作と制約事項 (187 ページ)

バックアップの概要

定期的にバックアップを行うことを推奨します。ディザスタリカバリシステム (DRS) を使用して、クラスタ内のすべてのサーバのデータを完全にバックアップできます。自動バックアップをセットアップすることも、任意の時点でバックアップを起動することもできます。

ディザスタリカバリシステムで実行するバックアップは、クラスタ レベルであり、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内のすべてのサーバのバックアップを 1箇所に集め、バックアップデータを物理的なストレージデバイスにアーカイブします。バックアップファイルは暗号化され、システム ソフトウェアによってだけ開くことができます。

DRS は、プラットフォームのバックアップ/復元の一環として、独自の設定 (バックアップ デバイス設定およびスケジュール設定) を復元します。DRS は drfDevice.xml ファイルと drfSchedule.xml ファイルをバックアップおよび復元します。これらのファイルとともにサーバを復元するときは、DRS バックアップ デバイスおよびスケジュールを再設定する必要がありません。

システムデータを復元するときには、クラスタ内のどのノードを復元するかを選択できます。

ディザスタリカバリシステムには、次の機能があります。

- バックアップおよび復元タスクを実行するためのユーザインターフェイス。
- バックアップ機能を実行するための分散システム アーキテクチャ。
- スケジュール バックアップまたは手動 (ユーザが起動する) バックアップ。
- リモート SFTP サーバへのバックアップのアーカイブ。

バックアップの前提条件

- バージョンの要件を満たしていることを確認してください。
 - すべての Cisco Unified Communications Manager クラスタノードは、同じバージョンの Cisco Unified Communications Manager アプリケーションを実行している必要があります。
 - すべての IM and Presence Service クラスタノードは、同じバージョンの IM and Presence Service アプリケーションを実行している必要があります。
 - バックアップファイルに保存されているソフトウェアバージョンが、クラスタノードで実行されるバージョンと同じでなければなりません。

バージョンの文字列全体が一致している必要があります。たとえば、IM and Presence データベースパブリッシャノードがバージョン 11.5.1.10000-1 の場合、すべての IM and Presence サブスクリーバノードは 11.5.1.10000-1 であり、バックアップファイルに保存されているバージョンも 11.5.1.10000-1 でなければなりません。現在のバージョンと一致しないバックアップファイルからシステムを復元しようと、復元は失敗します。バックアップファイルに保存されているバージョンが、クラスタノードで実行されているバージョンと一致するよう、ソフトウェアバージョンをアップグレードしたら常にシステムをバックアップするようにしてください。

- DRS 暗号化は、クラスタセキュリティパスワードに依存することに留意してください。バックアップの実行中に、DRS は暗号化のためにランダムパスワードを生成し、そのランダムパスワードをクラスタセキュリティパスワードを使用して暗号化します。バックアップを実行した後、復元を行うまでの間にクラスタセキュリティパスワードが変更された場合、そのバックアップファイルを使用してシステムを復元するには、バックアップを実行した時点でのパスワードを把握していなければなりません。あるいは、セキュリティパスワードを変更/リセットした直後にバックアップを作成するようにしてください。
- リモートデバイスをバックアップする必要がある場合は、必ず SFTP サーバを設定する必要があります。利用可能な SFTP サーバの詳細については、次の項を参照してください。
[リモートバックアップ用 SFTP サーバ \(188 ページ\)](#)

バックアップタスクフロー

次のタスクを実行して、バックアップを設定して実行します。バックアップの実行中は OS 管理タスクを実行しないでください。これは、ディザスタリカバリシステムがプラットフォーム API をロックすることにより、すべての OS 管理要求をブロックするためです。ただし、CLI ベースのアップグレードコマンドしかプラットフォーム API ロッキングパッケージを使用しないため、ディザスタリカバリシステムはほとんどの CLI コマンドを妨害しません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	バックアップデバイスの設定 (181ページ)	データをバックアップするデバイスを指定します。
ステップ2	バックアップファイルのサイズの予測 (182ページ)	SFTP デバイス上で作成されるバックアップファイルのサイズを見積もります。
ステップ3	<p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • スケジュールバックアップの設定 (183ページ) • 手動バックアップの開始 (185ページ) 	<p>スケジュールに従ってデータをバックアップするためのバックアップスケジュールを作成します。</p> <p>または、手動バックアップを実行します。</p>
ステップ4	現在のバックアップステータスの表示 (186ページ)	これはオプションです。バックアップのステータスをチェックします。バックアップの実行中、現在のバックアップジョブのステータスを確認できます。
ステップ5	バックアップ履歴の表示 (186ページ)	これはオプションです。バックアップ履歴の表示

バックアップデバイスの設定

最大 10 個のバックアップデバイスを設定できます。バックアップファイルを保存する場所を設定するには、次の手順を実行します。

始める前に

- バックアップファイルを保存するために SFTP サーバにディレクトリパスへの書き込みアクセス権があることを確認します。
- DRS マスター・エージェントがバックアップデバイスの設定を検証するときに、ユーザ名、パスワード、サーバ名とディレクトリパスが有効であることを確認します。



(注)

バックアップはネットワークトラフィックが少なくなる時間帯にスケジューリングしてください。

手順

ステップ1 ディザスタリカバリシステムから、[バックアップ (Backup)] > [バックアップデバイス (Backup Device)] の順に選択します。

ステップ2 [バックアップデバイスリスト (Backup Device List)] ウィンドウで、次のいずれかを実行します。

- ・新しいデバイスを設定するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ・既存のバックアップデバイスを編集するには、検索条件を入力し、[検索 (Find)]、次に [選択項目の編集 (Edit Selected)] をクリックします。
- ・バックアップデバイスを削除するには、[バックアップデバイス (Backup Device)] リストでバックアップデバイスを選択してから [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

バックアップスケジュールにバックアップデバイスとして設定されているバックアップデバイスは削除できません。

ステップ3 [バックアップデバイス名 (Backup device name)] フィールドにバックアップ名を入力します。

バックアップデバイス名には、英数字、スペース ()、ダッシュ (-)、およびアンダースコア (_) だけを使用します。それ以外の文字は使用しないでください。

ステップ4 [接続先の選択 (Select Destination)] 領域の[ネットワークディレクトリ (Network Directory)] で、次を実行します。

- ・[ホスト名/IP アドレス (Host name/IP Address)] フィールドに、ネットワークサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
- ・[パス名 (Path name)] フィールドに、バックアップファイルを格納するディレクトリパスを入力します。
- ・[ユーザ名 (User name)] フィールドに、有効なユーザ名を入力します。
- ・[パスワード (Password)] フィールドに、有効なパスワードを入力します。
- ・[ネットワークディレクトリに保存するバックアップ数 (Number of backups to store on Network Directory)] ドロップダウンリストから、バックアップの必要数を選択します。

ステップ5 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[バックアップファイルのサイズの予測 \(182 ページ\)](#)

バックアップファイルのサイズの予測

1つまたは複数の選択した機能のバックアップ履歴が存在する場合に限り、Cisco Unified Communications Manager は、バックアップ tar のサイズを予測します。

計算されたサイズは正確な値ではなく、バックアップtarの予測サイズです。サイズは前のバックアップの実際のバックアップサイズに基づいて計算され、設定が前回のバックアップ以降変更された場合は異なることがあります。

この手順は、前回のバックアップが存在する場合にのみ使用でき、初めてシステムをバックアップする場合は使用できません。

SFTPデバイスに保存されているバックアップtarのサイズを予測するには、次の手順に従ってください。

手順

ステップ1 ディザスタリカバリシステムから、[バックアップ (Backup)]>[手動バックアップ (Manual Backup)] の順に選択します。

ステップ2 [機能の選択 (Select Features)] 領域でバックアップする機能を選択します。

ステップ3 選択した機能のバックアップの予測サイズを表示するには、[サイズの予測 (Estimate Size)] を選択します。

次のタスク

システムをバックアップするには、次のいずれかの手順を実行します。

- [スケジュールバックアップの設定 \(183 ページ\)](#)
- [手動バックアップの開始 \(185 ページ\)](#)

スケジュールバックアップの設定

最大 10 個のバックアップスケジュールを作成できます。各バックアップスケジュールには、自動バックアップのスケジュール、バックアップする機能セット、保存場所など、独自のプロパティがあります。

バックアップ.tar ファイルはランダムに生成されるパスワードで暗号化されるということに注意してください。このパスワードは、クラスタセキュリティパスワードで暗号化され、バックアップ.tar ファイルとともに保存されます。このセキュリティパスワードは忘れないように記憶しておくか、またはセキュリティパスワードを変更またはリセットしたらすぐにバックアップを作成する必要があります。



注意 コール処理が中断してサービスに影響が及ばないように、バックアップはオフピーク時間中にスケジュールしてください。

始める前に

[バックアップデバイスの設定 \(181 ページ\)](#)

スケジュールバックアップの設定

手順

- ステップ1** ディザスタリカバリシステムで、[バックアップスケジューラ (Backup Scheduler)]を選択します。
- ステップ2** [スケジュールリスト (Schedule List)] ウィンドウで、新規スケジュールを追加するか、または既存のスケジュールを編集します。
- ・新規スケジュールを作成するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - ・既存のスケジュールを設定するには、[スケジュールリスト (Schedule List)] 列でその名前をクリックします。
- ステップ3** [スケジューラ (scheduler)] ウィンドウで、[スケジュール名 (Schedule Name)] フィールドにスケジュール名を入力します。
- (注) デフォルトのスケジュールの名前は変更できません。
- ステップ4** [バックアップデバイスの選択 (Select Backup Device)] 領域でバックアップデバイスを選択します。
- ステップ5** [機能の選択 (Select Features)] 領域でバックアップする機能を選択します。少なくとも1つの機能を選択する必要があります。
- ステップ6** [バックアップの開始時刻 (Start Backup at)] 領域でバックアップを開始する日付と時刻を選択します。
- ステップ7** [頻度 (Frequency)] 領域でバックアップを行う頻度を選択します。頻度は、[一度 (Once)]、[日次 (Daily)]、[週次 (Weekly)]、[月次 (Monthly)] に設定できます。[週次 (Weekly)] を選択した場合は、バックアップを行う週の曜日も選択できます。
- ヒント バックアップ頻度を火曜日から土曜日までの [週次 (Weekly)] に設定するには、[デフォルトの設定 (Set Default)] をクリックします。
- ステップ8** これらの設定を更新するには、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ9** 次のいずれかのオプションを選択します。
- ・選択したスケジュールを有効にするには、[選択されたスケジュールの有効化 (Enable Selected Schedules)] をクリックします。
 - ・選択したスケジュールを無効にするには、[選択されたスケジュールの無効化 (Disable Selected Schedules)] をクリックします。
 - ・選択したスケジュールを削除するには、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
- ステップ10** スケジュールを有効にするには、[スケジュールの有効化 (Enable Schedule)] をクリックします。
- 設定した時刻になると自動的に次のバックアップが実行されます。

(注) クラスタ内のすべてのサーバが、同じバージョンの Cisco Unified Communications Manager または Cisco IM and Presence サービスを実行し、ネットワークから到達可能であることを確認します。スケジュールされたバックアップの時刻にサーバに到達できないと、そのサーバはバックアップされません。

次のタスク

次の手順を実行します。

- [バックアップファイルのサイズの予測 \(182 ページ\)](#)
- (任意) [現在のバックアップステータスの表示 \(186 ページ\)](#)

手動バックアップの開始

始める前に

- バックアップファイルの格納場所としてネットワーク デバイスを使用していることを確認します。Unified Communications Manager の仮想化展開では、テープ ドライブによるバックアップファイルの保存はサポートされません。
- Cisco Unified Communications Manager または IM and Presence Service のインストールされているバージョンが、すべてのクラスタノードで同じであることを確認します。
- バックアッププロセスは、リモートサーバに利用可能な容量がないためや、ネットワーク接続が中断されたために失敗することがあります。バックアップが失敗する原因となつた問題に対処した後、新規のバックアップを開始する必要があります。
- ネットワークの中断がないことを確認してください。
- [バックアップデバイスの設定 \(181 ページ\)](#)
- [バックアップファイルのサイズの予測 \(182 ページ\)](#)
- クラスタセキュリティパスワードのレコードがあることを確認します。このバックアップの完了後に、クラスタセキュリティパスワードを変更した場合は、パスワードを認識している必要があります。パスワードを認識していないと、バックアップファイルを使用してシステムを復元できなくなります。



(注) バックアップが実行されている間は、Disaster Recovery System がプラットフォーム API をロックしてすべての要求をブロックするため、Cisco Unified OS の管理または Cisco Unified IM and Presence OS の管理でタスクを実行することはできません。ただし、ディザスタリカバリシステムは、CLI ベースのアップグレードコマンドだけがプラットフォーム API ロッキングパッケージを使用するため、ほとんどの CLI コマンドをブロックしません。

■ 現在のバックアップステータスの表示

手順

-
- ステップ1** ディザスタリカバリシステムから、[バックアップ (Backup)]>[手動バックアップ (Manual Backup)] の順に選択します。
- ステップ2** [手動バックアップ (Manual Backup)] ウィンドウで、[バックアップデバイス名 (Backup Device Name)] 領域を選択します。
- ステップ3** [機能の選択 (Select Features)] 領域から機能を選択します。
- ステップ4** [バックアップの開始 (Start Backup)] をクリックします。
-

次のタスク

(任意) [現在のバックアップステータスの表示 \(186 ページ\)](#)

現在のバックアップステータスの表示

現在のバックアップジョブのステータスを確認するには、次の手順を実行します。



注意

リモートサーバへのバックアップが 20 時間以内に完了しないとバックアップセッションがタイムアウトするため、新規バックアップを開始する必要があります。

手順

-
- ステップ1** ディザスタリカバリシステムから、[バックアップ (Backup)]>[現在のステータス (Current Status)] の順に選択します。
- ステップ2** バックアップログファイルを表示するには、ログファイル名リンクをクリックします。
- ステップ3** 現在のバックアップをキャンセルするには、[バックアップのキャンセル (Cancel Backup)] をクリックします。
- (注) 現在のコンポーネントがバックアップ操作を完了した後、バックアップがキャンセルされます。
-

次のタスク

[バックアップ履歴の表示 \(186 ページ\)](#)

バックアップ履歴の表示

バックアップ履歴を参照するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ1 ディザスタリカバリシステムから、[バックアップ (Backup)] > [履歴 (History)] の順に選択します。

ステップ2 [バックアップ履歴 (Backup History)] ウィンドウで、ファイル名、バックアップデバイス、完了日、結果、バージョン、バックアップされている機能、失敗した機能など、実行したバックアップを表示できます。

(注) [バックアップ履歴 (Backup History)] ウィンドウには、最新の 20 個のバックアップジョブだけが表示されます。

バックアップの連携動作と制約事項

バックアップの制約事項

バックアップには、次の制約事項が適用されます。

表 10: バックアップの制約事項

制約事項	説明
クラスタセキュリティパスワード	クラスタセキュリティパスワードを変更したら、必ずバックアップを実行することを推奨します。 バックアップ暗号化では、バックアップファイルのデータを暗号化する際にクラスタセキュリティパスワードを使用します。バックアップファイルの作成後にクラスタセキュリティパスワードを編集すると、古いパスワードを忘れてしまった場合に、そのバックアップファイルを使用してデータを復元できなくなります。

リモートバックアップ用 SFTP サーバ

制約事項	説明
証明書の管理	ディザスタリカバリシステム (DRS) は、マスター エージェントとローカル エージェントとの間で SSL ベースの通信を使用して、Cisco Unified Communications Manager クラスタ ノード間のデータの認証および暗号化を行います。DRS は、IPSec 証明書を使用して、公開キー/秘密キーの暗号化を行います。証明書管理ページから IPSEC 信頼ストア (hostname.pem) ファイルを削除すると、DRS が想定どおりに機能しなくなることに注意してください。IPSEC 信頼ファイルを手動で削除するときは、IPSEC 証明書を IPSEC 信頼に必ずアップロードしてください。詳細については、 http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html にある『Security Guide for Cisco Unified Communications Manager』の「証明書管理」の項を参照してください。

リモートバックアップ用 SFTP サーバ

データをネットワーク上のリモートデバイスにバックアップするには、SFTP サーバを用意して必要な設定を行う必要があります。シスコは内部テストでは、Cisco TAC にサポートされている、シスコ提供の Cisco Prime Collaboration Deployment (PCD) 上で SFTP サーバを使用します。SFTP サーバオプションの概要については、次の表を参照してください。

以下の表示に記載されている情報を参考に、システムで使用する SFTP サーバソリューションを決定してください。

表 11: SFTP サーバ情報

SFTP サーバ	情報
Cisco Prime Collaboration Deployment の SFTP サーバ	このサーバはシスコが提供およびテストした SFTP サーバのみであり、Cisco TAC がサポートします。 バージョンの互換性は、使用している Unified Communications Manager および Cisco Prime Collaboration Deployment のバージョンに依存します。バージョン (SFTP) または Unified Communications Manager をアップグレードする前に、『Cisco Prime Collaboration Deployment Administration Guide』を参照して、互換性のあるバージョンであることを確認してください。

SFTP サーバ	情報
テクノロジー・パートナーの SFTP サーバ	<p>これらのサーバはサードパーティが提供およびテストしたものです。バージョンの互換性は、サードパーティによるテストに依存します。テクノロジー・パートナーの SFTP サーバまたは Unified Communications Manager をアップグレードする場合、テクノロジー・パートナーのページで、互換性のあるバージョンを確認してください。</p> <p>https://marketplace.cisco.com</p>
他のサードパーティの SFTP サーバ	<p>これらのサーバはサードパーティが提供するものであり、Cisco TAC はこれらのサーバを正式にサポートしていません。</p> <p>バージョンの互換性は、SFTP バージョンと Unified Communications Manager バージョンの互換性を確立するためのベストエフォートに基づきます。</p> <p>(注) これらの製品がシスコでテストされていない場合、シスコはその機能を保証することができません。Cisco TAC は、これらの製品をサポートしていません。完全にテストされてサポートされる SFTP ソリューションとしては、Cisco Prime Collaboration Deployment またはテクノロジー・パートナーの SFTP サーバを利用してください。</p>

暗号サポート

Unified Communications Manager 11.5 の場合、Unified Communications Manager は SFTP 接続用に次の CBC および CRT 暗号を通知します。

- aes128-cbc
- 3des-cbc
- aes128-ctr
- aes192-ctr
- aes256-ctr



(注) バックアップ SFTP サーバが Unified Communications Manager と通信するためにこれらの暗号のいずれかをサポートしていることを確認してください。

Unified Communications Manager 12.0 リリース以降では、CBC 暗号はサポートされていません。Unified Communications Manager は、次の CTR 暗号のみをサポートおよびアドバタイズします。

- aes256-ctr
- aes128-ctr
- aes192-ctr



(注) バックアップ SFTP サーバが Unified Communications Manager との通信のためにこれらの CTR 暗号のいずれかをサポートしていることを確認します。



第 19 章

システムの復元

- [復元の概要 \(191 ページ\)](#)
- [復元の前提条件 \(192 ページ\)](#)
- [復元タスク フロー \(192 ページ\)](#)
- [データ認証 \(203 ページ\)](#)
- [アラームおよびメッセージ \(205 ページ\)](#)
- [ライセンス予約 \(209 ページ\)](#)
- [復元の連携動作と制約事項 \(210 ページ\)](#)
- [トラブルシューティング \(211 ページ\)](#)

復元の概要

ディザスタリカバリシステム (DRS) には、システムを復元するプロセスを実行するためのガイドとなるウィザードが用意されています。

バックアップファイルは暗号化されており、それらを開いてデータを復元できるのは DRS システムのみです。ディザスタリカバリシステムには、次の機能があります。

- 復元タスクを実行するためのユーザインターフェイス。
- 復元機能を実行するための分散システムアーキテクチャ。

マスター エージェント

クラスタの各ノードで自動的にマスター エージェントサービスが起動されますが、マスター エージェントはパブリックノード上でのみ機能します。サブスクリーバノード上のマスター エージェントは、何の機能も実行しません。

ローカル エージェント

サーバには、バックアップおよび復元機能を実行するローカルエージェントが搭載されています。

復元の前提条件

マスター エージェントを含むノードをはじめ、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内の各ノードには、バックアップおよび復元機能を実行するために独自のローカルエージェントが必要です。



(注)

デフォルトでは、ローカルエージェントは IM and Presence ノードをはじめ、クラスタ内の各ノードで自動的に起動されます。

復元の前提条件

- バージョンの要件を満たしていることを確認してください。
 - すべての Cisco Unified Communications Manager クラスタ ノードは、同じバージョンの Cisco Unified Communications Manager アプリケーションを実行している必要があります。
 - すべての IM and Presence Service クラスタ ノードは、同じバージョンの IM and Presence Service アプリケーションを実行している必要があります。
 - バックアップファイルに保存されているバージョンが、クラスタ ノードで実行されるバージョンと同じでなければなりません。

バージョンの文字列全体が一致している必要があります。たとえば、IM and Presence データベースパブリッシャノードがバージョン 11.5.1.10000-1 の場合、すべての IM and Presence サブスクリーバノードは 11.5.1.10000-1 であり、バックアップファイルに保存されているバージョンも 11.5.1.10000-1 でなければなりません。現在のバージョンと一致しないバックアップファイルからシステムを復元しようと、復元は失敗します。

- サーバの IP アドレス、ホスト名、DNS 設定および導入タイプが、バックアップファイルに保存されている IP アドレス、ホスト名、DNS 設定および導入タイプと一致していることを確認します。
- バックアップを実行した後にクラスタセキュリティ パスワードを変更した場合、元のパスワードのレコードを記録しておきます。元のパスワードが分からなければ、復元は失敗します。

復元タスクフロー

復元プロセス中、[Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager OS Administration)] または [Cisco Unified CM IM and Presence OS の管理 (Cisco Unified IM and Presence OS Administration)] に関するタスクを実行しないでください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	最初のノードのみの復元 (193 ページ)	(オプション) クラスタ内の最初のパブリッシャノードだけを復元する場合は、この手順を使用します。
ステップ2	後続クラスタノードの復元 (195 ページ)	(オプション) クラスタ内のサブスクリバノードを復元する場合は、この手順を使用します。
ステップ3	パブリッシャの再構築後の1回のステップでのクラスタの復元 (197 ページ)	(オプション) パブリッシャがすでに再構築されている場合、1回のステップでクラスタ全体を復元するには、次の手順に従ってください。
ステップ4	クラスタ全体の復元 (199 ページ)	(オプション) パブリッシャノードを含む、クラスタ内のすべてのノードを復元するには、この手順を使用します。主要なハードドライブで障害またはアップグレードが発生した場合や、ハードドライブを移行する場合には、クラスタ内のすべてのノードの再構築が必要になる場合があります。
ステップ5	前回正常起動時の設定へのノードまたはクラスタの復元 (200 ページ)	(オプション) 前回正常起動時の設定にノードを復元する場合に限り、この手順を使用します。ハードドライブ障害やその他のハードウェア障害の後には使用しないでください。
ステップ6	ノードの再起動 (201 ページ)	ノードを再起動するには、この手順を使用します。
ステップ7	復元ジョブステータスのチェック (202 ページ)	(オプション) 復元ジョブステータスを確認するには、この手順を使用します。
ステップ8	復元履歴の表示 (202 ページ)	(オプション) 復元履歴を表示するには、この手順を使用します。

最初のノードのみの復元

再構築後に最初のノードを復元する場合は、バックアップデバイスを設定する必要があります。

最初のノードのみの復元

この手順は、Cisco Unified Communications Manager の最初のノード（パブリッシャノードとも呼ばれます）に対して実行できます。他の Cisco Unified Communications Manager ノードおよびすべての IM and Presence サービス ノードは、セカンダリノードまたはサブスクライバと見なされます。

始める前に

クラスタ内に IM and Presence サービス ノードがある場合は、最初のノードを復元するときに、ノードが実行されており、アクセス可能であることを確認してください。これは、この手順の実行中に有効なバックアップ ファイルを見つけるために必須です。

手順

- ステップ 1** ディザスタリカバリシステムから、[復元 (Restore)] > [復元ウィザード (Restore Wizard)] を選択します。
- ステップ 2** [復元ウィザード ステップ 1 (Restore Wizard Step 1)] ウィンドウの [バックアップ デバイスの選択 (Select Backup Device)] 領域で、復元する適切なバックアップ デバイスを選択します。
- ステップ 3** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 4** [復元ウィザード ステップ 2 (Restore Wizard Step 2)] ウィンドウで、復元するバックアップ ファイルを選択します。
 - (注) バックアップ ファイル名から、バックアップ ファイルが作成された日付と時刻がわかります。
- ステップ 5** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 6** [復元ウィザード ステップ 3 (Restore Wizard Step 3)] ウィンドウで、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 7** 復元する機能を選択します。
 - (注) バックアップ対象として選択した機能が表示されます。
- ステップ 8** 復元するノードを選択します。
- ステップ 9** [復元 (Restore)] をクリックして、データを復元します。
- ステップ 10** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 11** 復元するノードの選択を求められたら、最初のノード（パブリッシャ）だけを選択します。
 - 注意** このときに後続（サブスクライバ）ノードは選択しないでください。復元を試みても失敗します。
- ステップ 12** (オプション) [サーバ名の選択 (Select Server Name)] ドロップダウンリストから、パブリッシャデータベース復元元のサブスクライバノードを選択します。選択したサブスクライバノードが稼働しており、クラスタに接続されていることを確認してください。
 - ディザスタリカバリシステムでバックアップ ファイルのすべてのデータベース以外の情報が復元され、選択した後続ノードから最新のデータベースが取り出されます。

(注) このオプションは、選択したバックアップファイルにCCMDBデータベースコンポーネントが含まれている場合にのみ表示されます。まず、パブリッシャノードだけが完全に復元されますが、ステップ14を実行し、後続のクラスタノードを再起動すると、ディザスタリカバリシステムはデータベースレプリケーションを実行し、完全にすべてのクラスタノードのデータベースが同期されます。これにより、すべてのクラスタノードに最新のデータを使用していることが保障されます。

ステップ13 [復元 (Restore)] をクリックします。

ステップ14 パブリッシャノードにデータが復元されます。復元するデータベースとコンポーネントのサイズによっては、復元が完了するまでに数時間かかることがあります。

(注) 最初のノードを復元すると、Cisco Unified Communications Manager データベース全体がクラスタに復元されます。そのため、復元しているノードの数とデータベースのサイズによっては、数時間かかることがあります。復元するデータベースとコンポーネントのサイズによっては、復元が完了するまでに数時間かかることがあります。

ステップ15 [復元ステータス (Restore Status)] ウィンドウの [完了率 (Percentage Complete)] フィールドに 100% と表示されたら、サーバを再起動します。クラスタ内のすべてのノードの再起動は最初のノードのみへの復元の場合に必要となります。後続ノードを再起動する前に、必ず最初のノードを再起動してください。サーバの再起動方法については、「次の作業」の項を参照してください。

(注) Cisco Unified Communications Manager ノードだけを復元する場合は、Cisco Unified Communications Manager and IM and Presence Service サービス クラスタを再起動する必要があります。

IM and Presence サービスのパブリッシャノードのみを復元する場合は、IM and Presence サービス クラスタを再起動する必要があります。

次のタスク

- (オプション) 復元のステータスを表示するには、次を参照してください。[復元ジョブステータスのチェック \(202 ページ\)](#)
- ノードを再起動するには、次を参照してください：[ノードの再起動 \(201 ページ\)](#)

後続クラスタノードの復元

この手順は、Cisco Unified Communications Manager のサブクライバ（後続）ノードにのみ適用されます。インストールされる最初の Cisco Unified Communications Manager ノードはパブリッシャノードです。その他すべての Cisco Unified Communications Manager ノードおよびすべての IM and Presence サービス ノードはサブクライバノードです。

クラスタ内の1つ以上の Cisco Unified Communications Manager サブクライバノードを復元するには、次の手順に従います。

始める前に

復元操作を実行する場合は事前に、復元のホスト名、IP アドレス、DNS 設定、および配置タイプが、復元するバックアップファイルのホスト名、IP アドレス、DNS 設定、および配置タイプに一致することを確認します。ディザスタリカバリシステムでは、ホスト名、IP アドレス、DNS 設定、および配置タイプが異なると復元が行われません。

サーバにインストールされているソフトウェアのバージョンが復元するバックアップファイルのバージョンに一致することを確認します。ディザスタリカバリシステムは、一致するソフトウェアバージョンのみを復元操作でサポートします。再構築後に後続ノードを復元している場合は、バックアップデバイスを設定する必要があります。

手順

- ステップ1** ディザスタリカバリシステムから、[復元 (Restore)] > [復元ウィザード (Restore Wizard)] を選択します。
- ステップ2** [復元ウィザードステップ1 (Restore Wizard Step 1)] ウィンドウの [バックアップデバイスの選択 (Select Backup Device)] 領域で、復元元のバックアップデバイスを選択します。
- ステップ3** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ4** [復元ウィザードステップ2 (Restore Wizard Step 2)] ウィンドウで、復元するバックアップファイルを選択します。
- ステップ5** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ6** [復元ウィザードステップ3 (Restore Wizard Step 3)] ウィンドウで、復元する機能を選択します。
(注) 選択したファイルにバックアップされた機能だけが表示されます。
- ステップ7** [次へ (Next)] をクリックします。[復元ウィザードステップ4 (Restore Wizard Step 4)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ8** [復元ウィザードステップ4 (Restore Wizard Step 4)] ウィンドウで、復元するノードを選択するよう求められたら、後続ノードのみを選択します。
- ステップ9** [復元 (Restore)] をクリックします。
- ステップ10** 後続ノードにデータが復元されます。復元ステータスの確認方法については、「次の作業」の項を参照してください。
(注) 復元プロセス中、[Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] または [ユーザオプション (User Options)] に関するタスクを実行しないでください。
- ステップ11** [復元ステータス (Restore Status)] ウィンドウの [完了率 (Percentage Complete)] フィールドに 100% と表示されたら、復元した 2 次サーバを再起動します。クラスタ内のすべてのノードの再起動は最初のノードのみへの復元の場合に必要となります。後続ノードを再起動する前に、必ず最初のノードを再起動してください。サーバの再起動方法については、「次の作業」の項を参照してください。

(注) 最初の IM and Presence サービス ノードが復元されたら、IM and Presence サービスの後続ノードを再起動する前に、必ず最初の IM and Presence サービス ノードを再起動してください。

次のタスク

- （オプション）復元のステータスを表示するには、次を参照してください。[復元ジョブステータスのチェック（202 ページ）](#)
- ノードを再起動するには、次を参照してください：[ノードの再起動（201 ページ）](#)

パブリッシャの再構築後の1回のステップでのクラスタの復元

復元するデータベースとコンポーネントのサイズによっては、復元が完了するまでに数時間かかることがあります。パブリッシャがすでに再構築されている場合、または新しくインストールされた場合に、1回のステップでクラスタ全体を復元する場合は、次の手順に従います。

手順

ステップ1 ディザスタリカバリシステムから、[復元（Restore）]>[復元ウィザード（Restore Wizard）]を選択します。

ステップ2 [復元ウィザードステップ1（Restore Wizard Step 1）] ウィンドウの[バックアップデバイスの選択（Select Backup Device）]領域で、復元するバックアップデバイスを選択します。

ステップ3 [次へ（Next）] をクリックします。

ステップ4 [復元ウィザードステップ2（Restore Wizard Step 2）] ウィンドウで、復元するバックアップファイルを選択します。

バックアップファイル名から、バックアップファイルが作成された日付と時刻がわかります。

クラスタ全体を復元するクラスタのバックアップファイルだけを選択します。

ステップ5 [次へ（Next）] をクリックします。

ステップ6 [復元ウィザードステップ3（Restore Wizard Step 3）] ウィンドウで、復元する機能を選択します。

画面には、復元する機能のうち、バックアップファイルに保存された機能のみが表示されます。

ステップ7 [次へ（Next）] をクリックします。

ステップ8 [復元ウィザードステップ4（Restore Wizard Step 4）] ウィンドウで、[1ステップでの復元（One-Step Restore）]をクリックします。

このオプションは、復元対象として選択されたバックアップファイルがクラスタのバックアップファイルであり、復元対象として選択された機能に、パブリッシャとサブスクリーバの両方

■ パブリッシャの再構築後の1回のステップでのクラスタの復元

のノードに登録された機能が含まれている場合にのみ、[復元 ウィザード ステップ 4 (Restore Wizard Step 4)] ウィンドウに表示されます。詳細については、[最初のノードのみの復元（193 ページ）](#) および [後続クラスタノードの復元（195 ページ）](#) を参照してください。

(注) パブリッシャがクラスタ対応になりませんでした。「1ステップでの復元を開始できません (Publisher has failed to become cluster aware. Cannot start one-step restore)」というステータス メッセージが表示されたら、パブリッシャノードを復元してからサブクライバノードを復元する必要があります。詳細については、「関連項目」を参照してください。

このオプションでは、パブリッシャがクラスタ対応になり、そのためには5分かかります。このオプションをクリックすると、ステータスマッセージに「「パブリッシャがクラスタ対応になるまで5分間待機してください。この期間にバックアップまたは復元処理を開始しないでください。 (Please wait for 5 minutes until Publisher becomes cluster aware and do not start any backup or restore activity in this time period.)」」と表示されます。

この待ち時間の経過後に、パブリッシャがクラスタ対応になると、「「パブリッシャがクラスタ対応になりました」」が表示されます。サーバを選択し、[復元 (Restore)] をクリックしてクラスタ全体の復元を開始してください。(Please select the servers and click on Restore to start the restore of entire cluster)」」というステータスマッセージが表示されます。

この待ち時間の経過後、パブリッシャがクラスタ対応にならない場合、「パブリッシャがクラスタ対応にならなかつたため、1ステップでの復元を開始できません。通常の2ステップでの復元を実行してください。 (Publisher has failed to become cluster aware. Cannot start one-step restore. Please go ahead and do a normal two-step restore.)」」というステータスマッセージが表示されます。クラスタ全体を2ステップ（パブリッシャとサブクライバ）で復元するには、[最初のノードのみの復元（193 ページ）](#) と [後続クラスタノードの復元（195 ページ）](#) で説明する手順を実行してください。

ステップ9 復元するノードの選択を求められたら、クラスタ内のすべてのノードを選択します。

最初のノードを復元すると、ディザスタリカバリシステムが自動的に後続ノードに Cisco Unified Communications Manager データベース (CCMDB) を復元します。そのため、復元しているノードの数とデータベースのサイズによっては、数時間かかることがあります。

ステップ10 [復元 (Restore)] をクリックします。

クラスタ内のすべてのノードでデータが復元されます。

ステップ11 [復元ステータス (Restore Status)] ウィンドウの [完了率 (Percentage Complete)] フィールドに 100% と表示されたら、サーバを再起動します。クラスタ内のすべてのノードの再起動は最初のノードのみへの復元の場合に必要となります。後続ノードを再起動する前に、必ず最初のノードを再起動してください。サーバの再起動方法については、「次の作業」の項を参照してください。

次のタスク

- （オプション）復元のステータスを表示するには、次を参照してください。 [復元ジョブステータスのチェック（202 ページ）](#)
- ノードを再起動するには、次を参照してください： [ノードの再起動（201 ページ）](#)

関連トピック

[最初のノードのみの復元（193 ページ）](#)

[後続クラスタノードの復元（195 ページ）](#)

クラスタ全体の復元

主要なハードドライブで障害またはアップグレードが発生した場合や、ハードドライブを移行する場合には、クラスタ内のすべてのノードの再構築が必要です。クラスタ全体を復元するには、次の手順を実行します。

ネットワークカードの交換やメモリの増設など他のほとんどのハードウェアアップグレードでは、次の手順を実行する必要はありません。

手順

ステップ1 ディザスタリカバリシステムから、[復元（Restore）]>[復元ウィザード（Restore Wizard）]を選択します。

ステップ2 [バックアップデバイスの選択（Select Backup Device）]エリアで、復元する適切なバックアップデバイスを選択します。

ステップ3 [次へ（Next）]をクリックします。

ステップ4 [復元ウィザードステップ2（Restore Wizard Step 2）] ウィンドウで、復元するバックアップファイルを選択します。

(注) バックアップファイル名から、バックアップファイルが作成された日付と時刻がわかります。

ステップ5 [次へ（Next）]をクリックします。

ステップ6 [復元ウィザードステップ3（Restore Wizard Step 3）] ウィンドウで、[次へ（Next）]をクリックします。

ステップ7 [復元ウィザードステップ4（Restore Wizard Step 4）] ウィンドウで復元ノードの選択を求められたら、すべてのノードを選択します。

ステップ8 [復元（Restore）]をクリックして、データを復元します。

最初のノードを復元すると、ディザスタリカバリシステムが自動的に後続ノードにCisco Unified Communications Managerデータベース（CCMDB）を復元します。そのため、ノードの数とデータベースのサイズによっては、最大数時間かかることがあります。

すべてのノードでデータが復元されます。

■ 前回正常起動時の設定へのノードまたはクラスタの復元

(注) 復元プロセス中、[Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] または [ユーザ オプション (User Options)] に関するタスクを実行しないでください。

復元するデータベースとコンポーネントのサイズによっては、復元が完了するまでに数時間かかることがあります。

ステップ 9 復元プロセスが完了したら、サーバを再起動します。サーバの再起動方法の詳細については、「次の作業」セクションを参照してください。

(注) 必ず最初のノードを再起動してから、後続ノードを再起動してください。

最初のノードが再起動し、Cisco Unified Communications Manager の復元後のバージョンが実行されたら、後続ノードを再起動します。

ステップ 10 レプリケーションはクラスタのリブート後に自動的に設定されます。『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』の説明に従って「utils dbreplication runtimestate」 CLI コマンドを使用して、すべてのノードで [レプリケーションステータス (Replication Status)] の値を確認します。各ノードの値は 2 になっているはずです。

(注) クラスタのサイズによっては、後続ノードの再起動後に、後続ノードでのデータベース レプリケーションが完了するまでに時間がかかる場合があります。

ヒント レプリケーションが正しくセットアップされない場合は、『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』の説明に従って「utils dbreplication rebuild」 CLI コマンドを使用します。

次のタスク

- (オプション) 復元のステータスを表示するには、次を参照してください。 [復元ジョブステータスのチェック \(202 ページ\)](#)
- ノードを再起動するには、次を参照してください: [ノードの再起動 \(201 ページ\)](#)

前回正常起動時の設定へのノードまたはクラスタの復元

前回正常起動時の設定にノードまたはクラスタを復元するには、次の手順に従います。

始める前に

- 復元ファイルに、バックアップファイルで設定されているホスト名、IP アドレス、DNS 設定、および配置タイプが含まれていることを確認します。
- サーバにインストールされている Cisco Unified Communications Manager のバージョンが復元するバックアップファイルのバージョンに一致することを確認します。
- この手順は、前回正常起動時の設定にノードを復元する場合にのみ使用してください。

手順

- ステップ1** ディザスタリカバリシステムから、[復元 (Restore)] > [復元ウィザード (Restore Wizard)] を選択します。
- ステップ2** [バックアップデバイスの選択 (Select Backup Device)] 領域で、復元する適切なバックアップデバイスを選択します。
- ステップ3** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ4** [復元ウィザードステップ2 (Restore Wizard Step 2)] ウィンドウで、復元するバックアップファイルを選択します。
- (注) バックアップファイル名から、バックアップファイルが作成された日付と時刻がわかれます。
- ステップ5** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ6** [復元ウィザードステップ3 (Restore Wizard Step 3)] ウィンドウで、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ7** 復元ノードを選択するように求められたら、該当するノードを選択します。
選択したノードにデータが復元されます。
- ステップ8** クラスタ内のすべてのノードを再起動します。後続の Cisco Unified Communications Manager ノードを再起動する前に、最初の Cisco Unified Communications Manager ノードを再起動します。クラスタに Cisco IM and Presence ノードもある場合は、最初の Cisco IM and Presence ノードを再起動してから、後続の IM and Presence ノードを再起動します。詳細については、「次の作業」の項を参照してください。

ノードの再起動

データを復元したら、ノードを再起動する必要があります。

パブリッシャノード（最初のノード）を復元したら、最初にパブリッシャノードを再起動する必要があります。サブスクラバノードは必ず、パブリッシャノードが再起動し、ソフトウェアの復元されたバージョンを正常に実行し始めた後で再起動してください。



(注) CUCM パブリッシャノードがオフラインの場合は、IM and Presence サブスクリーバノードを再起動しないでください。このような場合は、サブスクリーバノードが CUCM パブリッシャに接続できないため、ノードサービスの開始に失敗します。



注意 この手順を実行すると、システムが再起動し、一時的に使用できない状態になります。

再起動する必要があるクラスタ内のすべてのノードでこの手順を実行します。

手順

- ステップ1** [Cisco Unified OS の管理 (Cisco Unified OS Administration)] から、[設定 (Settings)] > [バージョン (Version)] を選択します。
- ステップ2** ノードを再起動するには、[再起動 (Restart)] をクリックします。
- ステップ3** レプリケーションはクラスタのリブート後に自動的に設定されます。utils dbreplication runtimestate CLI コマンドを使用して、すべてのノードで [レプリケーションステータス (Replication Status)] 値を確認します。各ノードの値は 2 になっているはずです。CLI コマンドに関する情報は、後述の「関連項目」の項を参照してください。
- レプリケーションが正しくセットアップされない場合は、『*Command Line Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』の説明に従って utils dbreplication reset CLI コマンドを使用します。CLI コマンドに関する情報は、後述の「関連項目」の項を参照してください。
- (注) クラスタのサイズによっては、後続ノードの再起動後に、後続ノードでのデータベース レプリケーションが完了するまでに数時間かかる場合があります。
-

次のタスク

(オプション) 復元のステータスを表示するには、[復元ジョブステータスのチェック \(202 ページ\)](#) を参照してください。

関連トピック

[『Cisco Unified Communications Manager \(CallManager\) Command References』](#)

復元ジョブステータスのチェック

次の手順に従って、復元ジョブステータスをチェックします。

手順

- ステップ1** ディザスタリカバリシステムで、[復元 (Restore)] > [現在のステータス (Current Status)] を選択します。
- ステップ2** [復元ステータス (Restore Status)] ウィンドウで、ログファイル名のリンクをクリックし、復元ステータスを表示します。
-

復元履歴の表示

復元履歴を参照するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ1 [Disaster Recovery System] で、[復元 (Restore)] > [履歴 (History)] を選択します。

ステップ2 [復元履歴 (Restore History)] ウィンドウで、ファイル名、バックアップデバイス、完了日、結果、バージョン、復元された機能、失敗した機能など、実行した復元を表示できます。

[復元履歴 (Restore History)] ウィンドウには、最新の20個の復元ジョブだけが表示されます。

データ認証

トレースファイル

トラブルシューティングを行う際、またはログの収集中には、トレースファイルの保存先として次の場所が使用されます。

マスター エージェント、GUI、各ローカル エージェント、および JSch ライブラリのトレースファイルは次の場所に書き込まれます。

- マスター エージェントの場合、トレース ファイルは platform/drf/trace/drftMA0* にあります。
- 各ローカル エージェントの場合、トレース ファイルは platform/drf/trace/drftLA0* にあります。
- GUI の場合、トレース ファイルは platform/drf/trace/drftConfLib0* にあります。
- JSch の場合、トレース ファイルは platform/drf/trace/drftJSch* にあります。

詳細については、『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-command-reference-list.html>) を参照してください。

コマンドラインインターフェイス

ディザスタリカバリシステムでは、次の表に示すように、バックアップおよび復元機能のサブセットにコマンドラインからアクセスできます。これらのコマンドの内容とコマンドラインインターフェイスの使用方法の詳細については、『*Command Line Interface (CLI) Reference Guide for Cisco Unified Presence*』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-command-reference-list.html>) を参照してください。

コマンドラインインターフェイス

表 12: ディザスタリカバリシステムのコマンドラインインターフェイス

コマンド	説明
utils disaster_recovery estimate_tar_size	SFTP/Localデバイスからのバックアップtarの概算サイズを表示し、機能リストのパラメータを1つ要求します。
utils disaster_recovery backup	ディザスタリカバリシステムのインターフェイスに設定されている機能を使用して、手動バックアップを開始します。
utils disaster_recovery jschLogs	JSchライブラリのロギングを有効または無効にします。
utils disaster_recovery restore	復元を開始します。復元するバックアップ場所、ファイル名、機能、およびノードを指定するためのパラメータが必要です。
utils disaster_recovery status	進行中のバックアップジョブまたは復元ジョブのステータスを表示します。
utils disaster_recovery show_backupfiles	既存のバックアップファイルを表示します。
utils disaster_recovery cancel_backup	進行中のバックアップジョブをキャンセルします。
utils disaster_recovery show_registration	現在設定されている登録を表示します。
utils disaster_recovery device add	ネットワークデバイスを追加します。
utils disaster_recovery device delete	デバイスを削除します。
utils disaster_recovery device list	すべてのデバイスを一覧表示します。
utils disaster_recovery schedule add	スケジュールを追加します。
utils disaster_recovery schedule delete	スケジュールを削除します。
utils disaster_recovery schedule disable	スケジュールを無効にします。
utils disaster_recovery schedule enable	スケジュールを有効にします。
utils disaster_recovery schedule list	すべてのスケジュールを一覧表示します。
utils disaster_recovery backup	ディザスタリカバリシステムのインターフェイスに設定されている機能を使用して、手動バックアップを開始します。

コマンド	説明
utils disaster_recovery restore	復元を開始します。復元するバックアップ場所、ファイル名、機能、およびノードを指定するためのパラメータが必要です。
utils disaster_recovery status	進行中のバックアップジョブまたは復元ジョブのステータスを表示します。
utils disaster_recovery show_backupfiles	既存のバックアップファイルを表示します。
utils disaster_recovery cancel_backup	進行中のバックアップジョブをキャンセルします。
utils disaster_recovery show_registration	現在設定されている登録を表示します。

アラームおよびメッセージ

アラームおよびメッセージ

ディザスタリカバリシステムは、バックアップまたは復元手順の実行時に発生するさまざまなエラーのアラームを発行します。次の表に、ディザスタリカバリシステムのアラームの一覧を記載します。

表 13: ディザスタリカバリシステムのアラームとメッセージ

アラーム名	説明	説明
DRFBackupDeviceError	DRF バックアッププロセスでデバイスへのアクセスに関する問題が発生しています。	DRS バックアッププロセスでデバイスへのアクセス中にエラーが発生しました。
DRFBackupFailure	シスコ DRF バックアッププロセスが失敗しました。	DRS バックアッププロセスでエラーが発生しました。
DRFBackupInProgress	別のバックアップの実行中は、新規バックアップを開始できません。	DRS は、別のバックアップの実行中は新規バックアップを開始できません。
DRFInternalProcessFailure	DRF 内部プロセスでエラーが発生しました。	DRS 内部プロセスでエラーが発生しました。
DRFLA2MAFailure	DRF ローカルエージェントが、マスター エージェントに接続できません。	DRS ローカルエージェントが、マスター エージェントに接続できません。

アラームおよびメッセージ

アラーム名	説明	説明
DRFLocalAgentStartFailure	DRF ローカルエージェントが開始されません。	DRS ローカルエージェントがダウンしている可能性があります。
DRFMA2LAFailure	DRF マスター エージェントがローカル エージェントに接続しません。	DRS マスター エージェントがローカル エージェントに接続できません。
DRFMABackupComponentFailure	DRF は、少なくとも 1 つのコンポーネントをバックアップできません。	DRS は、コンポーネントのデータをバックアップするよう要求しましたが、バックアッププロセス中にエラーが発生し、コンポーネントはバックアップされませんでした。
DRFMABackupNodeDisconnect	バックアップされるノードが、バックアップの完了前にマスター エージェントから切断されました。	DRS マスター エージェントが Cisco Unified Communications Manager ノードでバックアップ操作を実行しているときに、そのノードはバックアップ操作が完了する前に切断されました。
DRFMARestoreComponentFailure	DRF は、少なくとも 1 つのコンポーネントを復元できません。	DRS は、コンポーネントのデータを復元するよう要求しましたが、復元プロセス中にエラーが発生し、コンポーネントは復元されませんでした。
DRFMARestoreNodeDisconnect	復元されるノードが、復元の完了前にマスター エージェントから切断されました。	DRS マスター エージェントが Cisco Unified Communications Manager ノードで復元操作を実行しているときに、そのノードは復元操作が完了する前に切断されました。
DRFMasterAgentStartFailure	DRF マスター エージェントが開始されませんでした。	DRS マスター エージェントがダウンしている可能性があります。
DRFNoRegisteredComponent	使用可能な登録済みコンポーネントがないため、バックアップが失敗しました。	使用可能な登録済みコンポーネントがないため、DRS バックアップが失敗しました。

アラーム名	説明	説明
DRFNoRegisteredFeature	バックアップする機能が選択されませんでした。	バックアップする機能が選択されませんでした。
DRFRestoreDeviceError	DRF 復元プロセスでデバイスへのアクセスに関する問題が発生しています。	DRS 復元プロセスは、デバイスから読み取ることができません。
DRFRestoreFailure	DRF 復元プロセスが失敗しました。	DRS 復元プロセスでエラーが発生しました。
DRFSftpFailure	DRF SFTP 操作でエラーが発生しています。	DRS SFTP 操作でエラーが発生しています。
DRFSecurityViolation	DRF システムが、セキュリティ違反となる可能性がある悪意のあるパターンを検出しました。	DRF ネットワーク メッセージには、コードインジェクションやディレクトリ トラバーサルなど、セキュリティ違反となる可能性がある悪意のあるパターンが含まれています。DRF ネットワーク メッセージがブロックされています。
DRFTruststoreMissing	ノードで IPsec 信頼ストアが見つかりません。	ノードで IPsec 信頼ストアが見つかりません。DRF ローカル エージェントが、マスター エージェントに接続できません。
DRFUnknownClient	パブリッシャの DRF マスター エージェントが、クラスタ外部の不明なサーバからクライアント接続要求を受け取りました。要求は拒否されました。	パブリッシャの DRF マスター エージェントが、クラスタ外部の不明なサーバからクライアント接続要求を受け取りました。要求は拒否されました。
DRFBackupCompleted	DRF バックアップが正常に完了しました。	DRF バックアップが正常に完了しました。
DRFRestoreCompleted	DRF 復元が正常に完了しました。	DRF 復元が正常に完了しました。
DRFNoBackupTaken	現在のシステムの有効なバックアップが見つかりませんでした。	アップグレード/移行または新規インストール後に、現在のシステムの有効なバックアップが見つかりませんでした。

アラームおよびメッセージ

アラーム名	説明	説明
DRFComponentRegistered	DRFにより、要求されたコンポーネントが正常に登録されました。	DRFにより、要求されたコンポーネントが正常に登録されました。
DRFRegistrationFailure	DRF登録操作が失敗しました。	内部エラーが原因で、コンポーネントに対するDRF登録操作が失敗しました。
DRFComponentDeRegistered	DRFは正常に要求されたコンポーネントの登録をキャンセルしました。	DRFは正常に要求されたコンポーネントの登録をキャンセルしました。
DRFDeRegistrationFailure	コンポーネントのDRF登録解除リクエストが失敗しました。	コンポーネントのDRF登録解除リクエストが失敗しました。
DRFFailure	DRFバックアップまたは復元プロセスが失敗しました。	DRFバックアップまたは復元プロセスでエラーが発生しました。
DRFRestoreInternalError	DRF復元オペレーションでエラーが発生しました。復元は内部的にキャンセルされました。	DRF復元オペレーションでエラーが発生しました。復元は内部的にキャンセルされました。
DRFLogDirAccessFailure	DRFは、ログディレクトリにアクセスできませんでした。	DRFは、ログディレクトリにアクセスできませんでした。
DRFDeRegisteredServer	DRFがサーバのすべてのコンポーネントを自動的に登録解除しました。	サーバがUnified Communications Manager クラスタから切断されている可能性があります。
DRFSchedulerDisabled	設定された機能がバックアップで使用できないため、DRFスケジューラは無効になっています。	設定された機能がバックアップで使用できないため、DRFスケジューラは無効になっています
DRFSchedulerUpdated	機能が登録解除されたため、DRFでスケジュールされたバックアップ設定が自動的に更新されます。	機能が登録解除されたため、DRFでスケジュールされたバックアップ設定が自動的に更新されます

ライセンス予約

ライセンス予約

Unified Communication Manager を有効にした特定のライセンス予約に対して復元操作を実行した後に、次の手順に従います。

表 14: ライセンス予約のディザスタ リカバリ システム

復元後の状態	CSSM 上の製品	ソリューション
未登録	可	シスコに連絡して CSSM から 製品を削除し、製品から登録してください
	不可	何もする必要はありません
予約を実行中です	可	<p>次のいずれかの手順を実行します</p> <p>手順 1 :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. CSSM から製品の承認コードを取得します。 2. 承認コード ライセンスマート予約の戻り値承認 「<authorization-code>」を指定して、以下の CLI を実行します <p>手順 2 :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シスコに連絡して CSSM から製品を削除してください
	不可	製品ライセンスマート予約キャンセルから、CLI を実行します

復元の連携動作と制約事項

復元後の状態	CSSM 上の製品	ソリューション
登録済み	可	<ol style="list-style-type: none"> 1. 製品から以下の CLI ライセンススマート予約戻りを実行します。予約戻りコードがコンソールに出力されます。 2. 製品を削除するには、CSSM で予約戻りコードを入力します。
	不可	製品ライセンススマート予約戻りから、CLI を実行します

復元の連携動作と制約事項

復元の制約事項

ディザスタリカバリシステムを使用して Cisco Unified Communications Manager または IM and Presence Service を復元する場合、以下の制約事項が適用されます。

表 15: 復元の制約事項

制約事項	説明
エクスポートの制限	制限されたバージョンの DRS バックアップは、制限されたバージョンにのみ復元できます。また、制限されていないバージョンのバックアップは、制限されていないバージョンにのみ復元できます。Cisco Unified Communications Manager の米国輸出無制限バージョンにアップグレードした場合、その後、このソフトウェアの米国輸出制限バージョンへのアップグレード、または新規インストールを実行できなくなります。
プラットフォームの移行	ディザスタリカバリシステムを使用してプラットフォーム間で（たとえば、Windows から Linux へ、または Linux から Windows へ）データを移行することはできません。復元は、バックアップと同じ製品バージョンで実行する必要があります。Windows ベースのプラットフォームから Linux ベースのプラットフォームへのデータ移行については、『Data Migration Assistant User Guide』を参照してください。

制約事項	説明
HW の交換と移行	<p>DRS 復元を実行してデータを新しいサーバに移行する場合、新しいサーバに古いサーバが使用していたのと同じ IP アドレスとホスト名を割り当てる必要があります。さらに、バックアップの取得時に DNS が設定されている場合、復元を実行する前に、同じ DNS 設定がある必要があります。</p> <p>サーバの交換の詳細については、『Replacing a Single Server or Cluster for Cisco Unified Communications Manager』ガイドを参照してください。</p> <p>また、ハードウェアの交換後は、証明書信頼リスト (CTL) クライアントを実行する必要があります。後続ノード（サブスクリーパ）サーバを復元しない場合には、CTL クライアントを実行する必要があります。他の場合、DRS は必要な証明書をバックアップします。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』の「Installing the CTL Client」と「Configuring the CTL Client」の手順を参照してください。</p>
クラスタ間のエクステンションモビリティ (Extension Mobility Cross Cluster)	バックアップ時にリモートクラスタにログインしていた Extension Mobility Cross Cluster ユーザは、復元後もログインしたままとなります。



(注)

Cisco Unified Communications サーバコンポーネントの復元が正常に完了した後、Cisco Unified Communications Manager を Cisco Smart Software Manager または Cisco スマートソフトウェアマネージャ・サテライトに登録してください。バックアップを作成する前に製品がすでに登録されていたとしても、その製品を再登録してライセンス情報を更新する必要があります。

Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトに製品を登録する方法の詳細については、ご使用のリリースの『System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。

トラブルシューティング

より小さい仮想マシンへの DRS 復元の失敗

問題

IM and Presence サービスノードをディスク容量がより小さい VM に復元すると、データベースの復元が失敗することがあります。

■ より小さい仮想マシンへの DRS 復元の失敗

原因

大きいディスクサイズから小さいディスクサイズに移行したときに、この障害が発生します。

ソリューション

2個の仮想ディスクがある OVA テンプレートから、復元用の VM を展開します。